

字中 荒魂神社・若宮神社を合祀、大正十三年津高荒祭神社を合祀す。

例祭日 十月十一日

主なる建造物 本殿 渡殿 幣殿 拜殿 神輿庫 神饌所 隨神門 社務所

寶物 刀一口 神鏡三面 其他七點

境内坪數 三千四百三十坪

氏子區域及戸數 上高野村 四百四十二戸

(三三) 豊 姫 神 社 上高野村字大地

祭神 豊受比賣大神 八幡大神 嚴島比賣大神

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社。村社五十鈴神社と同時に奉齋せられたりと傳ふ。古來豊受大明神、或は豊姫宮と奉稱せられ、全讚史に『村社也豊玉姫命爲主矣前代生駒一正信之祭田八畝』とあり、西讚府志に『祭神豊玉姫命左右三女神八幡宮ヲ合セ祭レリ 祭祀八月十五日 社地三段餘 神田八畝』と見ゆ。

大正七年本殿御屋根替、同十年神輿庫を新築、大正十四年拜殿を再建、昭和三年幣殿を再築、同八年神饌所を新築

(三五) 稻 荷 神 社 上高野村字後藤

祭神 若宇賀迺女命

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 四月八日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 百十九坪四合 崇敬者人員 約三百五十人

(三六) 荒 魂 神 社 上高野村字下司

祭神 大物主命

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 七月二十七日 主なる建造物 本殿

境内坪數 百〇一坪六合 崇敬者人員 約三百五十人

(三七) 福 岡 神 社 上高野村字福岡

祭神 建速須佐之男命

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 十月十六日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 百五十九坪九合 崇敬者人員 約二百五十人

す。(全讚史 西讚府志 神社考)

祭日 十月十二日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神饌所 神輿庫 境内坪數 千八百二十七坪 崇敬者人員 七百八十四人

(三三) 高 都 神 社 上高野村字高澤

祭神 大雀命

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 九月九日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 六百八十二坪五合 崇敬者人員 約六百人

(三四) 天 滿 神 社 上高野村字後藤

祭神 菅原道真公

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 十月二十五日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 二百四十四坪八合 崇敬者人員 約百五十人

(三八) 御 崎 神 社 上高野村字福岡

祭神 猿田彦神

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 十月十五日 主なる建造物 本殿

境内坪數 三十一坪三合 崇敬者人員 約百五十人

(三九) 猿 田 彦 神 社 上高野村字福岡

祭神 猿田彦神

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 十月十二日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 六十三坪四合 崇敬者人員 約五百人

(四〇) 雨 龍 神 社 上高野村字七尾

祭神 高麗神 閻魔神

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 十月五日 主なる建造物 本殿

境内坪數 六百五十八坪 崇敬者人員 約三百人

(三三) 野田森神社 上高野村字横邊

祭神 大己貴神

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 八月六日 主なる建造物 本殿

境内坪數 六十坪六合 崇敬者人員 約百五十人

(三三) 田井神社 上高野村字田井

祭神 建速須佐之男命

由緒 上高野村村社五十鈴神社境外末社

祭日 七月二十五日 主なる建造物 本殿

境内坪數 八十六坪 崇敬者人員 約二百五十人

一八二 宮 村

(三三) 縣 社 大水上神社 二宮村大字羽字砂原

祭神 大山積命 保牟多別命 宗像大神

りと傳へ、往古は本社にして皇室を初め奉り武門武將並に國中の崇敬篤く、僧空海入唐に際しては當社に參籠して祈願せりと傳ふ。當社は讚岐國二宮にして建久九年の二ノ宮社領目錄に「惣合二百町、右之内 一、八九町修理領 一、三六町祝言領 一、二六町燈明領 一、三六町御供領 右別當神主支配 一、三六町別當清澄寺 一、三六町別當神宮寺 一、二六町神主義重 一、二六町社人頭右近 一、二六町惣社人 一、二六町惣神子 右社領自今不可有變易者也……建久九戊午年二月日 散位泰支守法 攝津守大平忠」云々とあり。又建長年中二宮修覆用脚員數之記錄に「一、番匠之手間二千日但本社三社 一、二百貫御材木之代 一、二百貫同作料 一、八十貫檜皮料足 一、六十貫釘之料足 一、十五貫壁塗手間 棟札 建長六甲年八月戊午四日 大願主沙彌寂阿 大工額田國弘」と見ゆ。應永三十四年大風ありて社殿破壊に際し、禁裏より之が御修覆仰出されし記錄に「二宮社御破損從禁裏有御修覆御用脚員數之事 應永卅四年八月廿日夜俄ニ大風吹……御社大破……從京都御尋御造營初マル時正長申年七月廿日縫殿頭安倍有富承之 二宮御修覆被仰付從京都記錄ヲ下シ立柱上棟始事作事八月四日申巳時居礎……六百貫本社材木檜皮 百貫釘金物手間料代 御

由緒 延喜神名式に「讚岐國三野郡小大水上神社」とありて延喜式内當國二十四社の一にして、三代實錄に「貞觀七年冬



縣 社 大 水 上 神 社

十月九日丁巳讚岐國從五位上大水上神授正五位下一同十七年五月廿七日戊申授讚岐國正五位下大水上神正五位上元慶元年三月四日乙巳授讚岐國正五位下大水上神正五位上

とあり。(大水神は或は當社に非ずとの説あり) 創建年代詳ならざれども、武毅王厚く當社を尊崇して多度一郡を擧げて神領とせられた

拜殿 百貫水上大明神宮 百貫三島龍神宮 五十貫御釣殿以上九百五十貫 造營奉行二宮領家 庄主中和尙御弟子永諱藏王」とあり。又「永享三辛未年七月晦日御假殿雨漏依之經藏遷宮、同癸丑年七月十二日夜半假殿鳴動早速京都進進、同十一月十日乙卯御造營始事從公方請取中御用脚 百五十貫文 兩守護代 香川上野助 安部筑後守 近藤但馬守依造營奉行右之料足請取中所今造立也」等の記錄を存す。源平兩氏屋島に戰ひし時交々參拜祈願を爲し、兩氏より奉りし願文の寫といふものありて、當國の諸書皆之を載せて論議多し。其の外後小松天皇、後花園天皇、稱光天皇の勅書ありしも天正年間兵亂の節燼せし旨社記にあり。而して今猶古木像、多數の武器等の寶物を藏す。又康永四年藤原良基寄進の石燈籠あり。

明治五年郷社に列せられ、同四十年九月二十一日神饌幣帛料供進神社に指定、昭和八年三月三十日縣社に昇格す。當社境内に史蹟二の宮案趾あり。平安朝の築造にして互及び土器類を出す。昭和七年史蹟名勝天然紀念物に指定せらる。又境内の小潭龍玉淵は俗に鱚淵と稱せられ請雨の靈地として其の名高く、古來旱天の際雨を祈るに黑鰻出づれば

必ず大雨至り、白鰻出づれば細雨だもなしと傳へらる。

(玉藻集 全讃史 生駒記 古名勝圖繪 神社考 官社考證 三豊郡史 特選神名牒 西讃府志)

例祭日 十月十五日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神饌殿 隨神門 寶庫

社務所 參集舎

寶物 隨神木像白鳳年中 長刀平家 社領目録建久九年 神事次第建久甲 平家願文 二宮御社御造立日記應永三年 一宮 舊記

目録寶永六年 劍助廣 其他武器、縁起、扁額、古文書等四十

五點

境内坪數 一萬〇八百十八坪

氏子區域及戸數 二宮村 神田村 千〇六戸

境内神社 千五百神社 (伊邪那伎命)

元祿年間再建の記録あり。神社考に「千五百大明神社在二羽方村」所、祭伊邪諾尊按二神代紀一伊邪册尊曰云々伊邪諾尊乃報之曰愛也吾妹言如此者吾則當産三日將千五百頭云々名義蓋本三千此」とあり。

(西讃府志 古今名勝圖繪)

四社神社 (平家四將) 西讃府志に「平家四社、相傳フ平中納言教盛、大夫經盛、中納言資盛、少將有盛ノ諸卿ヲ祭レリ」と見ゆ。

瀧之宮神社 (龍田比古命 龍田比賣命)

(三四) 天満神社 二宮村大字羽方字天神谷

祭神 菅原道真公

由緒 二宮村縣社大水上神社境外攝社。一に手間神社と稱へらる。西讃府志に「天満大明神 勢坂ニアリ 祭神少

名彦命 祭祀九月七日」と見ゆ。

祭日 十月二十五日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 七百三十九坪 崇敬者人員 百人

(三五) 高津神社 二宮村大字羽方字田ノ西

祭神 大雀命 (一に曰 素盞鳴尊)

合祀祭神 宇氣母智神 猿田彦神 荒魂神

由緒 二宮村縣社大水上神社境外攝社。大正三年宇田五合 神社・大神社を合祀、大正十二年宇田 八方荒神社を合祀す。

祭日 十月十七日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 七百六十九坪 崇敬者人員 三百六十五人

(三六) 若宮神社 二宮村大字羽方字川北

祭神 大雀命

由緒 二宮村縣社大水上神社境外攝社

祭日 十月七日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 三百五十三坪 崇敬者人員 二百五十人

(三七) 村長峰神社 二宮村大字佐股

祭神 瓊々杵命 字丙大武連

合祀祭神 伊邪那岐神 伊邪那美神 志那津彦神 志那津

比女神 高竈神 閻水波神 (一に曰 閻竈神) 大國

主神 素盞鳴神 宇受女神 猿田彦神 天照大神

豐受姫神 埴安姫神 大己貴神 少彦名神 大國御

魂神

由緒 元祿年間までは社殿もありしが、其の後頽廢せしを

以て之を建築せむとし藩廳へ願出でしも、所轄區域に關し

丸龜・多度津兩藩見解を異にして決せず、荏苒明治初年に

及び漸く本殿を建築せり。明治維新以前は、現今の字甲大

武連並に丙大武連の一筋の谷の兩側、峯より丙は論所の地

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

(三八) 御手洗神社 二宮村大字佐股字宮着

祭神 木花佐久屋毘賣命

由緒 元祿年間までは社殿もありしが、其の後頽廢せしを

以て之を建築せむとし藩廳へ願出でしも、所轄區域に關し

丸龜・多度津兩藩見解を異にして決せず、荏苒明治初年に

及び漸く本殿を建築せり。明治維新以前は、現今の字甲大

武連並に丙大武連の一筋の谷の兩側、峯より丙は論所の地

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

三 豊 郡

合祀祭神 奥津彦神 奥津姫神 天太玉神

由 緒 二宮村社社長峰神社境外攝社。 天正十二年(紀元

一二四四)仙石秀久の臣山口平左衛門源好久の祀る所と云ふ。棟札によれば、元文四年本殿再築あり。尙嘉永四年、明治十五年、同二十九年、同三十九年の棟札を存す。大正九年幣殿及び拜殿を再築す。西讃府志に『御手洗祠 山路ニアリ 祭神瀬織津姫命……社林七畝』と見ゆ。

(西讃府志 今名勝圖繪)
明治四十二年^{字山}地 荒魂神社を合祀す。

祭 日 十月二十日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

寶 物 舊靈殿扉^{正徳} 棟札五點 小鳥居^{天明三年近藤某寄附}

境内坪數 千〇四十三坪 崇敬者人員 百五十人

(三九) 手間 神社 二宮村大字佐股字二宮

祭 神 少彦名命

由 緒 二宮村社社長峯神社境外攝社。 西讃府志に『天滿

明神二之宮ニアリ 祭神少彦名命 祭祀九月七日 社林六畝五歩 祠官吉田山城』と見ゆ。

祭 日 陰曆九月七日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 百七十八坪 崇敬者人員 約二百九十人

一九 麻 村

(三〇) 社 麻 部 神 社 麻村大字上麻字榎谷

祭 神 天日鷲命 市杵島姫命 田心姫神 高津姫命 建御

名方命

合祀祭神 經津主神 健甕神 八衢比古神 八衢比女神

岐神 高麗神 闇麗神 闇水波女神 天水分神 素

盞鳴神 大國御魂神 大山祇神 天照大神 豐受姫

神 埴山姫神 大己貴神 少彦名神 高皇產靈神

神皇產靈神 保牟田別命 大鷦鷯命 阿須波神 阿

比岐神

由 緒 麻村は大麻村(善通寺町)より忌部氏の分布したるも

のにして、大麻山を中にして大麻村に隣接し、村内に大麻平、大麻浦の地名あり。大麻平の西方石舟の地には上代の古墳の完全なるものを存し、村内には夥しき古墳ありて古くより開拓せられ、古へ麻を殖えられしより麻村と稱す。

地神社を合祀す。此の合祀神社の中木折神社は西讃府志に

『木折祠、梅ノ峯ニアリ、袖モチキトモ云旅行人木ノ枝ヲ

折テ手向ク、因テ此名アリ』又國久神社は同書に『國久祠

城山ニアリ、近藤出羽守ノ靈ヲ祭レリ』と見ゆ。近藤出羽

守國久は麻城の城主にして長曾我部氏に亡ざると云ふ。

例祭日 十月十八日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神饌所并神職控所 隨神

門 古守納所

寶 物 槍穂^{銘國} 獅子頭、棟札、戦利品等十點

境内坪數 千百十六坪

氏子區域及戸數 大字上麻 二百七十戸

(三一) 梅 之 神 社 麻村大字上麻字梟谷

祭 神 瓊々杵命 彦火々出見命 大山祇命 木花咲耶姫命

合祀祭神 天照大神 豐受姫神 大己貴神 少彦名神 埴

安姫神

由 緒 麻村村社麻部神社境外末社。 梅の宮と奉稱せら

る。安産の神として崇敬厚く、春秋の祭日には遠近より參

詣者多し。安産を祈る者社地の小石を持ち歸りて祀り、安

當社は古くより麻村の産土神にして麻部神社と奉稱せら

れ、大麻村なる延喜式内大麻神社とは深き縁由ありしなる

べしと云ふ。當社は正徳年代以前より廣く俗稱をひよんの

宮と稱へらる。又當社氏子なる藤野某が邸内に奉祀しあり

し建御名方命を配祀(元祿より、以)せしより或は諏訪大明

神とも奉稱せられたり。然れども寛政以降度々の神社調べ

控書、奉行よりの達書其の他皆麻部神社と記載し、稀に淺

神社の社號を用ゐたるもあれど麻部神社を以て正とす。麻

城主近藤出羽守國久所持の劍一口を當社に納めしこと西讃

府志に見ゆ。

大正十五年幣殿、拜殿を改築し、神饌所、神職控所を新築

す。

明治四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せら

る。(全讃史 今名勝圖繪 神社考 西讃府志)

明治四十二年^{字中}岡 賴久社、^{字苗}貴船神社、^{字東}幸神社、^{字馬}鍛

荒魂神社を合祀。同四十三年^{字山}山祇神社、^{字馬}地神社、

赤松神社、^{字善}能寺地神社、^{字島}嚴島神社、^{字荒}荒魂神社、^{字大}麻山産巢

日神社、^{字山}山神社、^{字梟}山祇神社、^{字西}大井八幡神社、^{字吉}吉田

神社、^{字岡}岡國久神社、^{字地}地神社、^{字山}山祇神社、^{字山}山神社、^{字霧}霧

神社、^{字下}山祇神社、^{字木}折神社を合祀。明治四十四年^{字南}山

産の後之を返納す。棟札によれば天保十二年本殿修理、拜殿再築、嘉永四年神殿を再築す。西讃府志に『山神祠六：…相傳フ、上梅ナルハ其氏人昔ヨリ難産ナク又田ニ蛭ヲ生ゼズ、雨ヲ祈ルニ土ト金トヲ奉レバ必ず驗アリト云、社林七畝』とあり。

明治四十四年^{宇鼻}地神社を合祀す。

祭 日 陰曆九月十日

主なる建造物 本殿 拜殿 社務所

寶 物 棟札二點 境内坪數 百五十九坪

崇敬者人員 百五十人

(三二) 池 八幡神社

麻村大字下麻字上莊田

祭 神 保牟田別之命 豊玉姫之命

合祀祭神 閻竈神 天久比奢持神 國久比奢持神 閻水波

女神(二)に曰 天水分神) 大山祇神 國水分神 市

杵島姫神 田心姫神 湍津姫神 天御中主神 埴山

姫神 大己貴神 少彦名神 須佐之男命 伊邪那美

神 大國御魂神 天照大神 天兒屋根命 伊邪那岐

神 熊野結神 高皇產靈神

由 緒 池の宮と奉稱せらる。西讃府志に『池宮八幡宮 昔勝間二郎ト云池此地ニアリ因テ池宮トイヘリ 祭祀八月十五日社林一段餘』全讃史に『正八幡宮在麻村村社也遠山相模主其祭祭日歡喜院會之』と見ゆ。棟札によれば、寛文十一年、嘉永五年本殿の改築あり。大正四年幣殿、拜殿を改築、神饌所、神職控所、參集所を新築す。

明治四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。(全讃史 西讃府志 古名勝圖繪)

明治四十三年^{宇鼻}城谷竈神社、^{宇鼻}山下宗像神社、^{宇鼻}杉尾神社、^{宇鼻}字上八坂神社、^{宇鼻}字矢熊野神社、^{宇鼻}字天山祇神社、^{宇鼻}字大郷樓山祇神社、^{宇鼻}字丸荒魂神社、^{宇鼻}字向山祇神社、^{宇鼻}字矢産巢日神社、^{宇鼻}字荒谷山祇神社、^{宇鼻}竈神社を合祀す。

例祭日 十月十五日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神饌所并神職控所 遷宮

寶 物 棟札二點 刀劍、戦利品等九點

境内坪數 九百八十三坪

氏子区域及戸數 大字下麻 三百六十戸

境内坪數 九百八十三坪

氏子区域及戸數 大字下麻 三百六十戸

境内坪數 九百八十三坪

氏子区域及戸數 大字下麻 三百六十戸

(三三) 長 幸 社

麻村大字下麻字荒ノ山

祭 神 伊邪那岐神 伊邪那美神

合祀祭神 大國魂神 大山祇神

由 緒 古老の傳ふる所によれば、弘仁年間前後字増原に初

めて居住せし者の祀る所と云ふ。西讃府志に『長古祠 増

原ニアリ』と見ゆ。文政四年及び安政六年神殿修繕の棟札

あり。

明治四十二年^{宇鼻}日前神社を、同四十三年^{宇鼻}山祇神社を合

祀す。

祭 日 十月十八日 主なる建造物 本殿 拜殿

寶 物 棟札二點 境内坪數 百八十四坪

崇敬者人員 百三十人

(三四) 九 頭 上 社

麻村大字下麻字東河内

祭 神 大國主神

合祀祭神 少彦名命 須佐之男命 菅原道真公 天照大神

豊受姫神 埴山姫神

由 緒 古老の傳説によれば、當社附近なるカジロと呼ぶ地

三 豊 郡

は上古梶を殖るたるものにて、カジロは梶の苗代の義なり

と云ふ。而して當社は當時此の地に住せし人の奉祀する所

なりと。又一説には、菅公當國の守たりし頃、河内國より

當所に移住せし高橋氏が創祀せし所にして、當社附近の地

を河内と稱するはこれが爲なりと云ふ。西讃府志に『九頭

神祠 河内ニアリ』と見ゆ。大正三年幣殿を新築す。

明治四十三年大字上麻^{宇鼻}善業島神社、^{宇鼻}麻山地神社、大字下麻

字重^{宇鼻}菅原神社を合祀す。

祭 日 十月十七日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 三百〇五坪 崇敬者人員 百六十人

(三五) 熊 野 社

麻村大字下麻字大谷

祭 神 天照皇大神 伊佐那岐命 伊佐那美命

合祀祭神 大國御魂神 少彦名神 須佐之男神 熊野結神

事解之男神 大己貴神

由 緒 二宮村縣社大水上神社境外攝社。西讃府志に『三

所權現 原河内ニアリ』と見ゆ。萬延元年本殿再築の棟札

あり。明治十二年幣殿、拜殿を再築す。

明治四十三年^{宇鼻}楠木神社、^{宇鼻}浦側天王神社を合祀す。

三七九

祭日 十月十九日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿
寶物 棟札二點 佛像一點 境内坪數 千〇四十六坪
崇敬者人員 三百二十人

二〇 神田村

(三六) 村十二神社 神田村字地藏免

祭神 天照皇大神

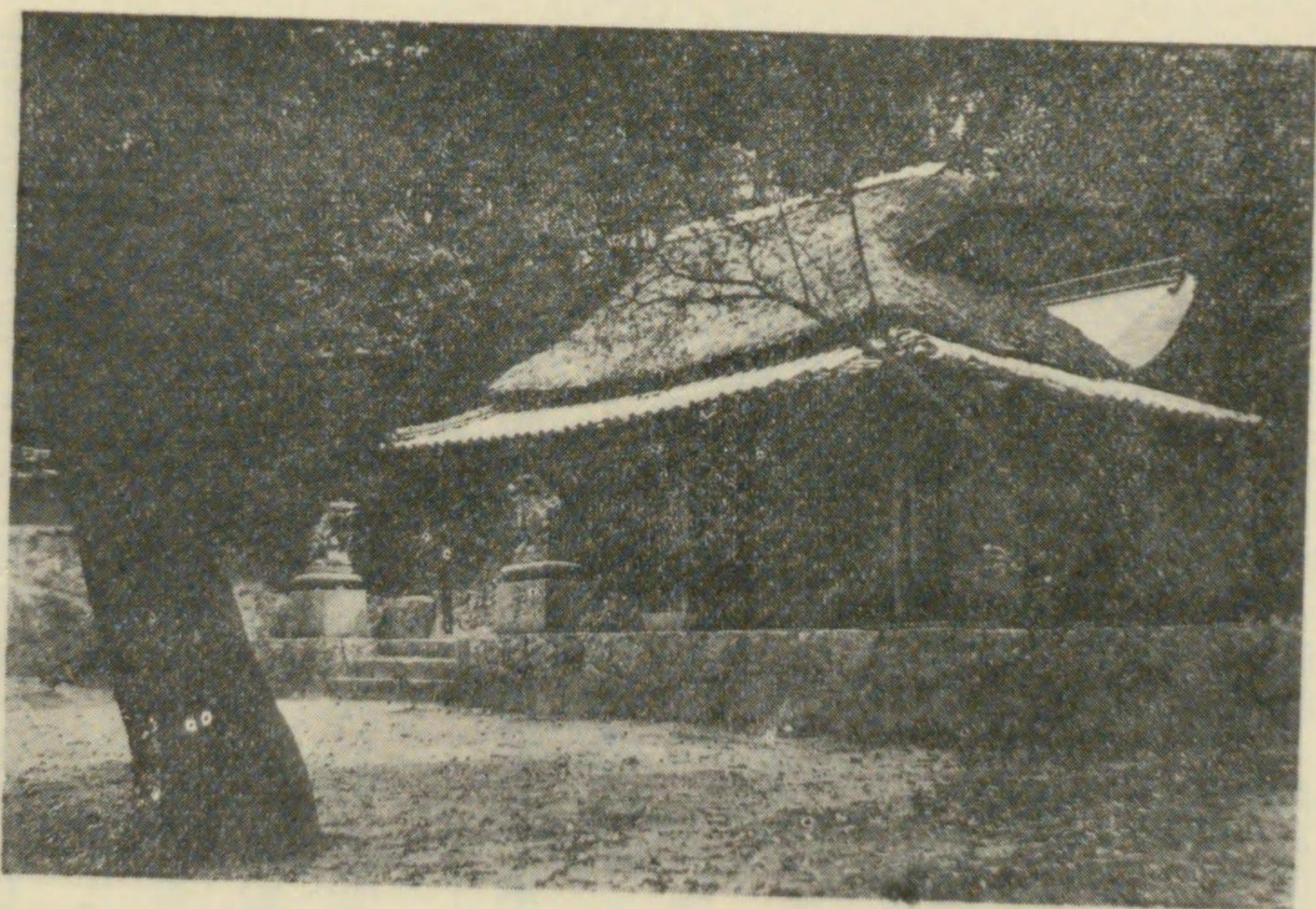
合祀祭神 大物主命 大山祇命 菅原道真公 高麗神 闇

靈神 水分神

由緒 古來大西十二社權現、或は立石大明神と奉稱せらる。天正年間阿波大西の城主大西覺養、長曾我部元親と戦ひ破れて當地に來り、後阿波大西の十二社權現を此の地に神請せりといふ。古名勝圖繪に『立石大明神……當社は大西備中守入道角養城内鎮守社也今子孫武八と云者有矢の根脇指等數十腰兜の鉢等今尙所持せり』とあり。當地の大西喜平氏は覺養の系圖を所持すといへり。

(西讃府志 古名勝圖繪 三豊郡史)

昭和五年字桑靈神社・山ノ神社・天神社・荒神社を合祀す。
例祭日 十月十七日



村十二神社

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿
寶物 隨神木像一 軀 高麗 犬二點
境内坪數 千二百四十六坪
氏子區域及戸數 立石 三十六戸

(三七) 三之宮神社 神田村字長丁

祭神 木花咲耶姬命

合祀祭神 天津彦根命 保食神 大鷦鷯命 大物主命 大

國魂神 少彦名命 豐受毘賣神 火武須毘能命 武

甕槌命 大國主命 大己貴命 大山祇命 瀬織津比

女命

由緒 二宮村縣社大水上神社境外攝社。神社考に『三之

宮大明神社在神田村長瀬屬之』とあり。西讃府志に

『三之宮大明神 祭祀八月十六日、社林二段二畝、社僧龍

華寺、祠官篠原太仲』と見ゆ。

明治四十三年神明神社、字土田口神社、二天神社、字平

荒神社、但馬神社、平山神社、字上皇太子神社、字上醫家

神社、字川松田神社、石神社、字大荒神社、字上御崎神社、

齒神社、山ノ神社、若宮神社、字中組砂川神社を合祀す。

祭日 十月十六日

主なる建造物 本殿 拜殿 參集所

寶物 神鏡一點 鐘一點 境内坪數 三千〇九十三坪

崇敬者人員 千〇七十人

(三八) 大神社 神田村字中屋敷

祭神 大雀命

合祀祭神 天照皇大神 於喜都比古神 於喜都比女神 闇

山祇命

由緒 二宮村縣社大水上神社境外攝社。

明治四十二年字裏地神社・土釜神社を合祀、昭和五年字裏

今宮神社を合祀す。

祭日 十月十六日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 千三百二十六坪 崇敬者人員 二百四十五人

(三九) 醫家神社 神田村字川北

祭神 少彦名神

合祀祭神 菅原道真公 大加牟豆美命 大屋毘賣命 大雀命

由緒 二宮村縣社大水上神社境外攝社。神社考に『醫家

大明神 有上下二社、各里社在羽方村、所祭大己貴命此

神爲醫家之祖、因有此稱也』とあり。

大正六年字伊菅原神社、字川木ノ下神社、字知岡ノ神社、

皇子神社を合祀す。

祭 日 十月十三日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿
境内坪數 五百九十五坪 崇敬者人員 七十八人

二一 財田村

(三四) 郷 鉾八幡神社 財田村大字財田上字財田

祭 神 大軀別命 息長足媛命 玉依媛命

合祀祭神 奥津彦神 奥津姫神 火産靈神 大己貴命 阿

須波大神 倉稻魂命 大物主命 天御中主尊 天智

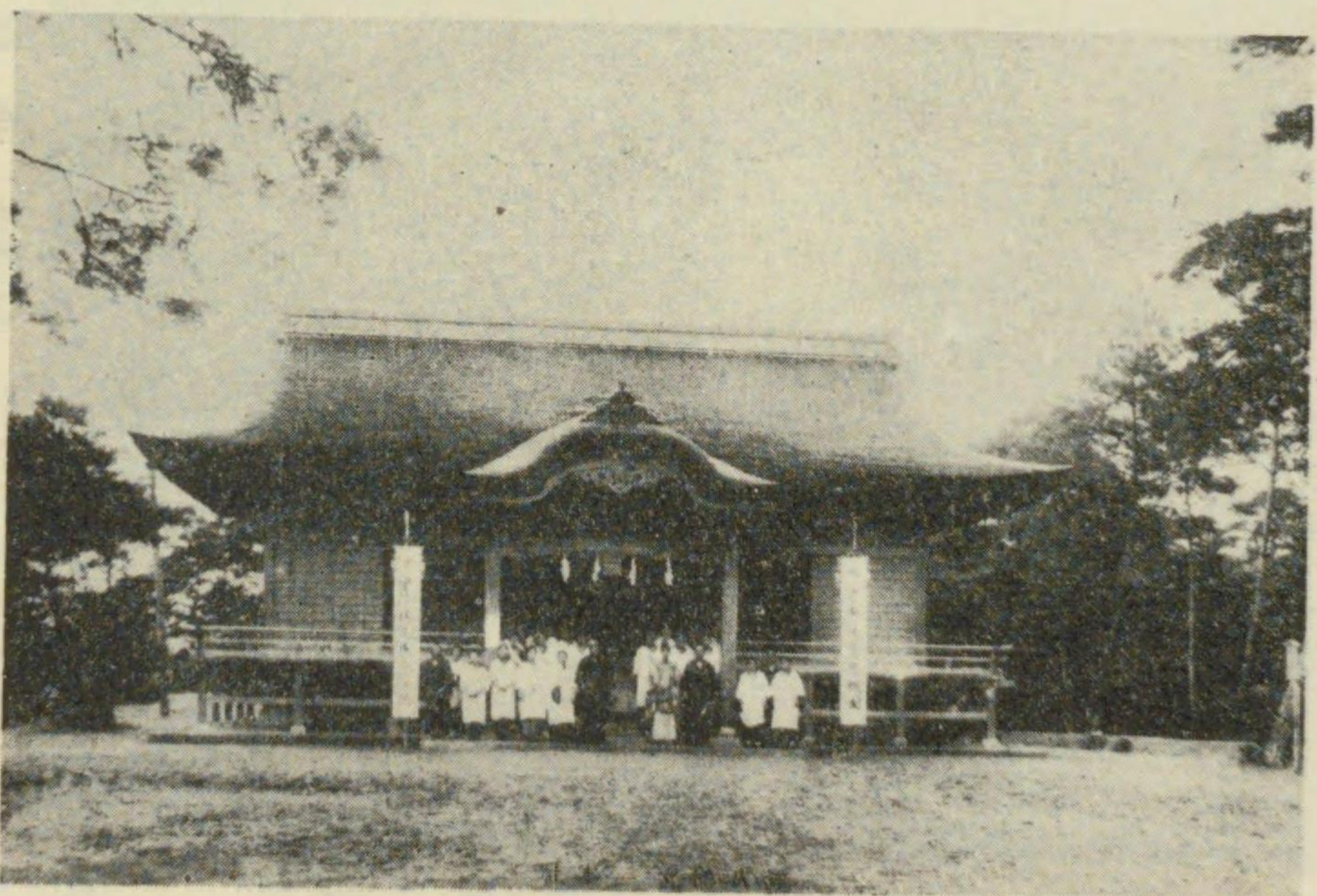
天皇 菅原道眞公 大山祇命 五十猛命 素盞鳴命

市杵島姫命 宇賀大神 久々能知神 豊受毘賣神

水分神 少彦名命

由 緒 天正年代以前は上ノ村、中ノ村、西ノ村の三村に別々に鎮座ありしが、天正六年秋八月財田八幡城主大平伊賀守國秀これを合祀し、上ノ村、中ノ村の境七尾山に社殿を建て、御神體鉾なりし故鉾八幡宮と奉稱し三村の氏神とし

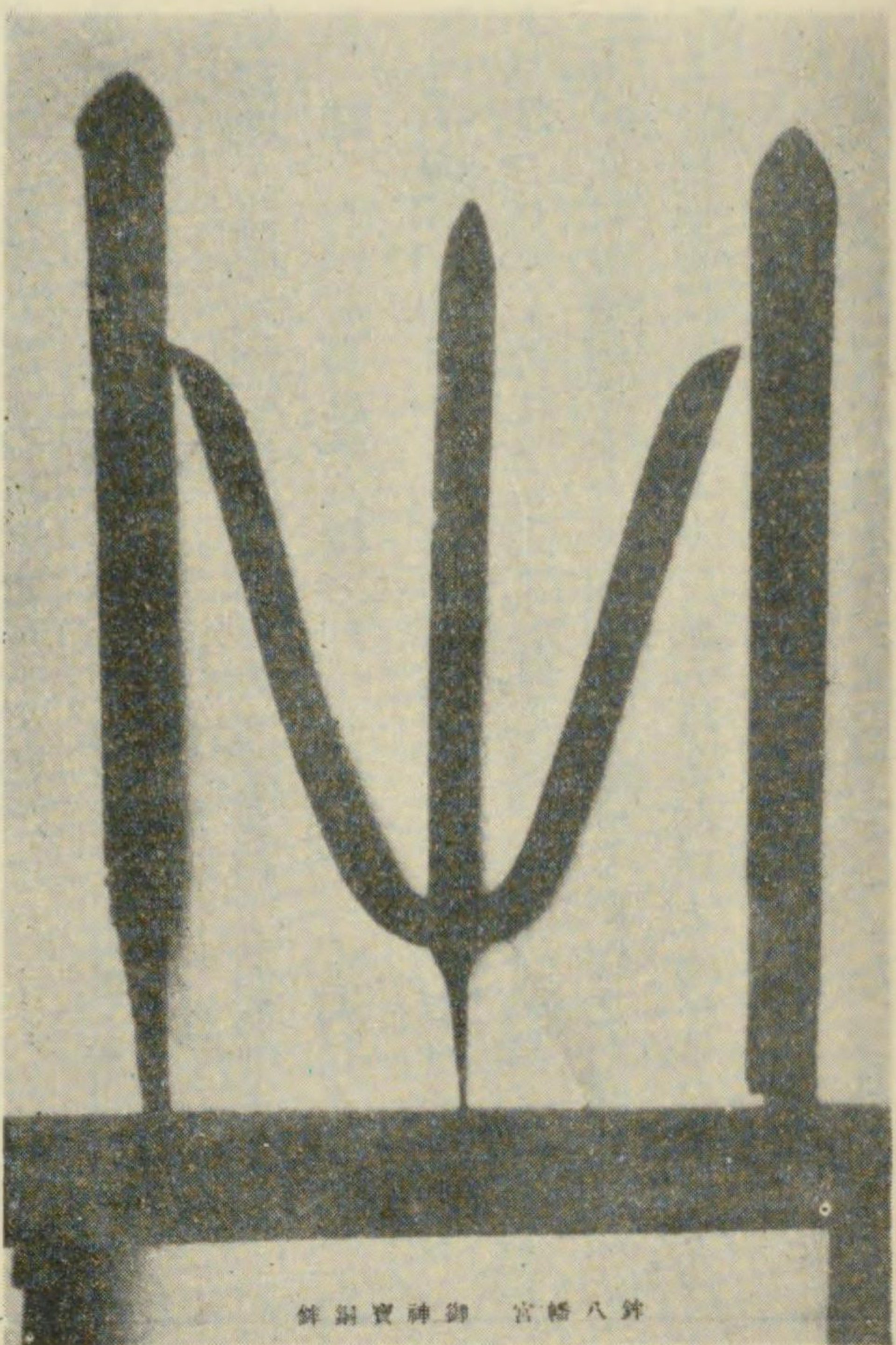
て奉齋せり。文龜三年以前の御神體なりし鉾及び天正六年詫間村浪打八幡宮より納められし鉾二口今寶物として存す。舊社地は



郷 鉾八幡神社 鉾宮祭祀八月十五日、上之村中之村西之村ヨリ祭レリ。相傳フ、天正六年大平國秀ノ遺立本殿棟木ニ國秀自筆存レリト云、神田高二石七斗三升

と見え、社領二石七斗三升は生駒家の寄進する所なり。

明治四十年九月二十一日神饌幣帛料供進神社に指定せら



郷 鉾八幡神社 鉾

(鉾銅) 社神幡八鉾社郷

す。

例祭日 十月一日二日

特殊神事 頭差祭 笠揃祭

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所 休息所

寶 物 鉾三點 扁額、神鏡等九點

境内坪數 七千六百五十六坪

氏子區域及戸數 財田村 千〇三十戸

境内神社 五柱神社(天照皇大神 正哉吾勝々速日天

之忍穗耳命 天津日高日子番能邇々藝命 天津日高

日子穗々出見命 日子波限建鵜草葺不合尊)とも云ふ

(三四) 嚴 島 神 社 財田村大字財田上字大畑

祭 神 市杵島姫命

合祀祭神 奥津彦神 奥津姫命 火産靈神 八島篠神 大

國主神 手置帆負命

由 緒 財田村郷社鉾八幡神社境外攝社。西讃府志に「相

傳フ、永正年中安藝國嚴島神主佐長伊豆守道雅嚴島神ヲ胡

服ニ鎮メ祭り背負ヒテ當國ニ來リ此地ニ齋ヒ祭レリ」とあ

り。道雅靈夢を得て薙髮し、草庵を結びて此處に住す。こ

る。(全讃史 西讃府志 生駒分限帳)

明治四十二年 野 磐野神社・光山神社、宇我田原神社、宇天

須賀神社、字猿熊野神社、字中妙見神社、字砂菅原神社、字高

高倉神社、字榎奥之宮神社、字坂荒魂神社、字山奥之宮神

社、字立浮玉神社、字阿須波神社、字山億伽之宮神社、字猪

三寶神社、字梅三島神社、字善明寺別所神社、字畫丹波比留多神

社、字石屋河瀬神社、字宮荒魂神社、字山小神社を合祀、明

治四十三年 田 上ノ木神社、野 白糸神社・大森神社、字大

山神社、字雨宮神社、字坂金子神社を合祀

れ今の嚴島山寶光寺なりと。全讀史に「嚴島祠 在荒砥
荒砥之社也境地方八町祭田二石四斗三升寶光寺主其祠祝
宮崎大和」とあり。生駒分限帳に「一石四斗三野郡財田嚴
島」と見ゆ。(西讃府志)

明治四十三年字歸 伎羅伊神社、字山 新田神社、字高 岡之神
社を合祀す。

祭 日 十月八日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 二百三十二坪 崇敬者人員 約六百人

(二三) 溪道神社

財田村大字財田上字旭原

祭 神 龍神(一)に曰 豐玉姫神 高麗神 閻羅神)

由 緒 財田村郷社鉾八幡神社境外攝社。 古來龍王と稱へ
られ祈雨の社として甚だ著名なり。傳ふる所によれば、往
古天下大いに旱し五穀登らず。獨り此の里石野に良田あ
り、當社の靈驗を蒙りて瑞穂よく實りしかば之を諸國に頒
ちて稻種となし、勅ありて此の地を財田と稱するに至れり
と。神社考に『生駒記曰往昔天下強旱百穀不登時此地生
嘉穀因以貢上帝有叡感賜號財田……按續日本紀神

護景雲二年二月壬寅和泉國五穀不登民無種稻轉讀岐國
稻四萬餘束以充種子生駒記所云蓋此事也」と見ゆ。初
め福地といふ地に鎮座ありしが、永正の頃善入なる者に靈
夢ありて財田川の上流九十九谷を経て紫竹芭蕉の生じたる
地に遷し祭りしこと生駒記に詳なり。同書に「財田上ノ村
善女龍王ノ社ハ谷道ト云フ所ニアリ、人家里ヲ離事凡五十
町餘ノ山中ナリ……早魃ノ節ハ此神社ニ雨ヲ祈ル時ハ雨
不降ト云フコトナシ。依テ俗説ニ財田ノ私雨ト云フ……
…寛永十七年庚辰年生駒君住國ノ時代家臣三野四郎左衛門
巡見ノ折年ヲ重ネテ早ス依之谷龍王ニ雨ヲ祈ル效驗アリ。
猶財田ノ由緒アルコト村老是ヲ訴フ三野氏奇異ノ思ヲ
ナシ祭祀ノ料トシテ免許田高二石六斗之ヲ附與ス」と見
え、生駒分限帳に「二石六斗三野郡財田龍王」とあり。
京極家亦崇敬篤く、祈雨の際は當社及び莊内村三崎神社の
兩社に於て祭儀を營み、祭費は郡費に預るを例とせり。寛
永年間社殿の改築ありたりと云ふ。鎮座地は阿讃國境猪鼻
峠の下、國道に沿ひ老樹鬱蒼として幽邃の神境なり。
(生駒記 全讀史 神社考)

祭 日 陰曆六月十八日

主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 九百五十五坪 崇敬者人員 約三千人

(二四) 能布谷神社

財田村大字財田上字横倉

祭 神 火産靈命

由 緒 財田村郷社鉾八幡神社境外攝社

祭 日 十月十三日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 三十八坪 崇敬者人員 約三百五十人

(二五) 日枝神社

財田村大字財田上字西岡

祭 神 大山咋命

由 緒 財田村郷社鉾八幡神社境外攝社

祭 日 十月中ノ酉日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 祭具庫

境内坪數 百九十坪 崇敬者人員 五百人

(二六) 大膳神社

財田村大字財田上字上ノ内

祭 神 豐宇氣姫命

由 緒 財田村郷社鉾八幡神社境外攝社

祭 日 十月一日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿
境内坪數 三百四十五坪 崇敬者人員 約百五十人

(二七) 雉峽神社

財田村大字財田上字岡ノ山

祭 神 天御中主命

合祀祭神 大山祇命

由 緒 財田村郷社鉾八幡神社境外攝社。

明治四十三年字岡ノ山 野津後神社を合祀す。

祭 日 九月二十八日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 百九十七坪 崇敬者人員 約五百人

(二八) 山田井神社

財田村大字財田上字宮坂

祭 神 火産靈神 奥津彦神 奥津姫神

合祀祭神 五十猛命

由 緒 財田村郷社鉾八幡神社境外末社。 當社の棟札に

「奉獻本殿拜殿再建一字 于時萬延元年庚申霜月吉日」云
々とあり、又明和七年九月、嘉永三年九月、文政十一年奉
納の燈籠、鳥居等を存す。

明治四十二年^字森茂里神社を合祀す。

祭日 九月二十八日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 三百四十二坪 崇敬者人員 二百五十人

(三四八) 村雨宮神社 財田村大字財田中字川西

祭神 高麗神 闇麗神 天水分神

合祀祭神 大山祇命 八千鈔神 大國主命 菅原道真公

猿田彦命 武素盞鳴命 仁徳天皇

由緒 天文四年(紀元二一九五)十二月社殿を再建せしが、後天正年間兵火に罹り炎上せりといふ。古來祈雨の神として顯れ、長久四年(紀元一七〇〇)天下旱魃の時村民相集ひ當社に雨を祈り、忽ちに靈雨ありて村民等喜びのあまり手の舞ひ足の踏む所を知らず。後之を紀念すべく踊となす。これ今の彌與苗踊の濫觴と傳ふ。全讃史に『雨之宮在長野村』村社也……不知此地何人祠之祭田高三斗七升神宮寺主其祭祝宮本山城』とあり。西讃府志に『雨宮大明神 祭神水波女命 祭祀八月十三日 社僧宮坊 祠官宮本伊豆』と見ゆ。明治十二年八月村社に列せられ、同

四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

(全讃史 讃州府志 古名勝圖繪)

明治四十三年^字道山神社、^字川鉾森神社、^字下ノ森神社、^字山神社、^字梶天神社、^字御々殿神社、^字西天皇神社、^字野今宮神社を合祀す。

例祭日 九月三十日十月一日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 三百七十一坪

氏子區域及戸數 大字財田中 四百戸

(三四九) 高津神社 財田村大字財田中字吉田

祭神 大雀命

由緒 萬治二年(紀元二三一九)四月十一日創立といふ。

祭日 陰曆八月十日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 八百八十三坪 崇敬者人員 約二百人

(三五〇) 荒魂神社 財田村大字財田中字一階

祭神 大物主命

祭日 十月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 五百八十五坪 崇敬者人員 百人

(三五二) 山神社 財田村大字財田中字吉田

祭神 大山積命

由緒 享保十二年(紀元二三八七)正月八日の創立といふ。

祭日 九月三十日 主なる建造物 本殿

境内坪數 六十坪 崇敬者人員 二百人

(三五三) 明神社 財田村大字財田中字西岡

祭神 伊弉册命

由緒 明曆二年(紀元二三二六)十一月五日の創立といふ。

祭日 陰曆六月十日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 二百五十坪 崇敬者人員 七十五人

(三五五) 高津神社 財田村大字財田中字大間

祭神 大雀命

明治四十二年^字森茂里神社を合祀す。

祭日 九月二十八日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 三百四十二坪 崇敬者人員 二百五十人

(三四八) 村雨宮神社 財田村大字財田中字川西

祭神 高麗神 闇麗神 天水分神

合祀祭神 大山祇命 八千鈔神 大國主命 菅原道真公

猿田彦命 武素盞鳴命 仁徳天皇

由緒 天文四年(紀元二一九五)十二月社殿を再建せしが、後天正年間兵火に罹り炎上せりといふ。古來祈雨の神として顯れ、長久四年(紀元一七〇〇)天下旱魃の時村民相集ひ當社に雨を祈り、忽ちに靈雨ありて村民等喜びのあまり手の舞ひ足の踏む所を知らず。後之を紀念すべく踊となす。これ今の彌與苗踊の濫觴と傳ふ。全讃史に『雨之宮在長野村』村社也……不知此地何人祠之祭田高三斗七升神宮寺主其祭祝宮本山城』とあり。西讃府志に『雨宮大明神 祭神水波女命 祭祀八月十三日 社僧宮坊 祠官宮本伊豆』と見ゆ。明治十二年八月村社に列せられ、同

由緒 享和三年(紀元二四六三)九月二十六日創立といふ。

祭日 十月八日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 三十三坪 崇敬者人員 約百七十人

(三五二) 荒魂神社 財田村大字財田中字片山

祭神 大物主命

合祀祭神 阿須波神 大山積命 天照大神 大己貴神 少

彥名神 豐受大神 保食神

由緒 正徳五乙未年(紀元二三七五)五月十六日創立といふ。

明治四十三年^字新足羽神社・山神社、^字田足羽神社を合祀、

明治四十五年^字大地神社を合祀す。

祭日 十月八日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 四百八十四坪 崇敬者人員 約二百人

(三五三) 北山神社 財田村大字財田中字中平山

祭神 大物主命

由緒 慶長五年(紀元二二六〇)十月六日の創祀といふ。

合祀祭神 金山彦神 大物主命 保食神 大山積命 大國玉命

由緒 慶長四年(紀元二二五九)十一月二十九日の創立といふ。

明治四十三年^{宇大}塔金剛神社・尾形神社、^{宇西}稻荷神社・下ツ森神社、^{戸口}山神社を合祀す。

祭日 陰曆三月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 七百四十四坪 崇敬者人員 約二千五百人

(三五) 鳴山神社

財田村大字財田中字鳴田

祭神 大山積命

由緒 萬治元年(紀元二三一八)八月十日創立といふ。

祭日 九月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿 社務所
境内坪數 三百十五坪 崇敬者人員 約四百人

(三六) 地神社

財田村大字財田中字川西

祭神 大土祖神

由緒 文化八年(紀元二四七一)五月四日の創立といふ。

祭日 十月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 百四十八坪 崇敬者人員 約五百人

(三七) 荒魂神社

財田村大字財田中字一階

祭神 大物主命

合祀祭神 素盞鳴命

由緒 慶長八年(紀元二二六三)三月十五日創立といふ。
明治四十四年^{宇辻}堂須崎神社を合祀す。

祭日 十月七日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 二百二十八坪 崇敬者人員 約百五十人

(三八) 水分神社

財田村大字財田中字片山

祭神 天水分神

由緒 延徳三年(紀元二二五一)二月十五日創立といふ。

祭日 陰曆六月十八日 主なる建造物 本殿
境内坪數 四百七十三坪 崇敬者人員 約二千人

(三九) 地神社

財田村大字財田中字北ノ山

祭神 大土祖神

由緒 正徳三年(紀元二二七三)八月十日創立といふ。

祭日 十月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 三十坪 崇敬者人員 約百五十人

(四〇) 大野地神社

財田村大字財田中字大野地

祭神 事代主命

由緒 弘治三年(紀元二二一七)八月十五日創立といふ。

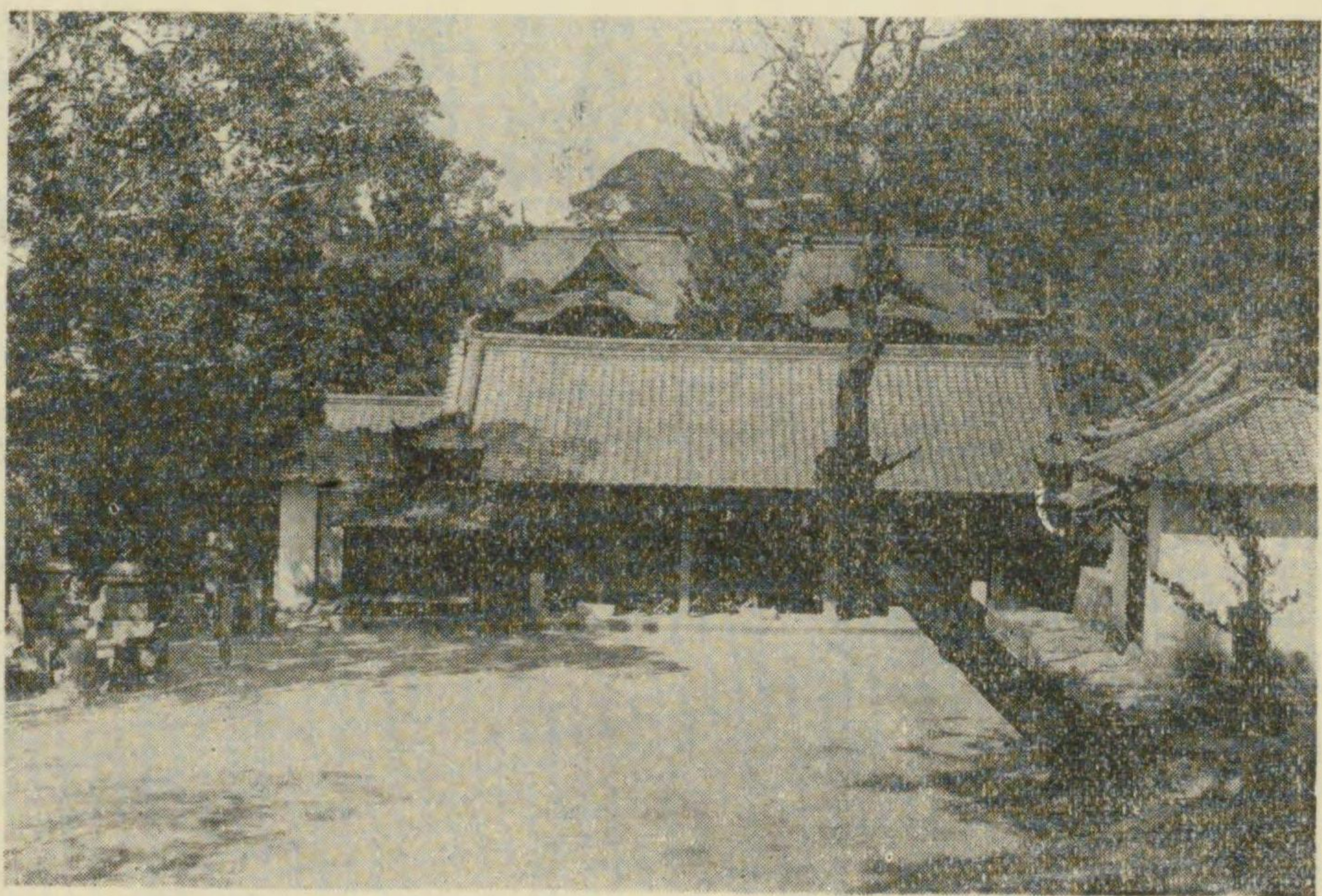
西讃府志に「惠美酒祠 大野地ニアリ」と見ゆ。
祭日 十月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 三十七坪 崇敬者人員 約五百人

二二 財田大野村

(四一) 郷八幡神社

財田大野村大字大野字赤塚

祭神 品陀別命 息長帯姫命(一に曰 品陀別命 息長帯



向つて右郷社八幡神社 左攝社須賀神社

由緒 傳ふる所によれば、今を距る九百餘年前大野郷の産土神として肇祀せられしものといふ。古くは大野に鎮座ありしが某年上大野の産土神なりし祇園宮(境内攝社須賀神社)の社地に遷座し、爾來兩社相並びて鎮座し大野一郷の産土神として崇敬せらる。國主生駒

家の崇敬厚く、元和年間田畑九段八畝二十九歩を神供田として寄進せられ、天和二年丸龜藩主京極備中守より田畑二

町九段二十一歩、社林五町餘を寄進せらる。當社舊記に『三野郡藥王寺 新興事從先規如有之八幡宮江被成寄附之訖全可爲社領之狀如件 天和二年十二月十五日 家老左々九郎兵衛 同多賀左門 同千田數馬 別當藥王寺園道坊有璟江』、『大野村八幡宮社領山林之覺 一田畑九反八畝廿九步先年ヨリ社領元和年間國主生駒壹岐守ヨリ寄附 一田畑二町九反廿一步 一八幡林五町餘步……一上川原植松林 右之通社領山林御願申上候處被爲仰付難有奉存候爲後代而御座候御書附被爲御意懸被下彌難有奉存候以上 天和二年戊七月三日 大野村庄屋喜右衛門 同林組肝煎源左衛門……(外四名) 進上寺社奉行小川宗左衛門様』其の裏書に『表書之通相極候間可有御請取者也 天和二年十二月十五日 寺社奉行小川宗左衛門(花押) 藥王寺當住園道坊江』とあり。全讚史に『祇園八幡宮在大野上村大野上村之社也祇園宮與三八幡宮其祠相並矣』神社考に『八幡宮郷社在大野村』と見ゆ。寛文十二年丸龜藩家老千田一馬奉仕して本殿の再建あり、延寶五年九月京極備中守、千田一馬をして幣殿、拜殿を再建せしめ八幡宮の扁額及び古鏡を奉納す。元祿十年本殿御屋根替、天保十二年幣殿、拜殿再建、明治三十二年本殿、幣殿を再建、同三十八年拜殿御屋根替を爲す。明治五年

西讚府志 三豊郡史 神社考
明治四十三年宇尾尾谷山神社、字上南川原荒魂神社、字馬場下木下神社、字鹿ノ谷山神社、字宮ノ下荒魂神社を合祀す。
進之男神社(須佐之男命)

(三三) 三 所 神 社 財田大野村大字大野字中西上

祭 神 春日大神 天照皇大神 八幡大神
由 緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社
祭 日 陰曆八月六日 主なる建造物 本殿
境内坪數 三十六坪 崇敬者人員 約六十人

(三四) 土佐森神社 財田大野村大字大野字中西上

祭 神 味耜高彥根命
合祀祭神 大名牟遲神
由 緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社。全讚史に『土佐宮荒神 在大野下村大野下村之社也藥王寺主其祭土佐國土佐郡有土佐大明神曰高賀茂大明神今此神則土佐明神與荒神相配也』西讚府志に『土佐宮 下村ニアリ』と見ゆ。
明治四十三年^{字東}今原神社を合祀す。

郷社に列せられ、同四十年九月二十一日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。(全讚史 西讚府志 古名勝圖繪)
例祭日 十月九日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神輿庫 社務所 御旅所
寶 物 神鏡二點 丸龜藩主京極備中守奉納 扁額二點 同 兩社記 貞享 社領田畑山林目錄^{天和二年} 棟札八點 其の他舊記、刀 劍、扁額、琴等十四點
境内坪數 五千四百九十六坪
氏子區域及戸數 大字大野 二百三十戸
境内神社 須賀神社(須佐之男命 稻田比賣命(一)に曰 素盞鳴尊 稻田姬命 五男三女八柱命) 合 大山祇命

大物主命 木花佐久夜姬命(創祀年詳ならず。貞享五年の記ヲ放テ此山上(降雄山)ニ飛來ル其處ニ構宮勸請セリ)と見ゆ。大野郷はもと山城國八坂神社の社領にして、『文永年中爲四季天神任辨常燈料此所附……讚岐國林田郷内潮入新開大野郷壹原』と見え、又同社應安元年の文書に『祇園社領讚岐西大野』とあり。當社はその社領地に本宮の神を迎へて祀れるものにして古來祇園宮と奉稱せらる。西讚府志に『祇園宮ハ昔此地ニテ五百石山城國祇園宮ノ神田タリ因テ祭レルナリ』とあり、社記に『大野地五百石ヲ以テ社領ニ附シ七坊之ヲ割テ神事ヲ守ル富榮知ル可キ也大社タルヲ以テ毎歲洛ノ祇園ヨリ燈料胡麻三斛ヲ課ス』と見え、古來大社にして上大野の産土神なりしが、八幡宮の下大野より遷座せらるゝに及び二社殿を並べて鎮座することゝなれり。八幡神社と共に生駒家及び京極家の尊崇篤く、天和二年京極備中守神鏡を奉納し、又寛延二年には須賀神社の扁額を奉納せり。元祿十年拜殿再建、正徳二年本殿御屋根替、明治十八年本殿幣殿を再建す。明治維新の際須賀神社と改稱、每歲陰曆六月七日を以て祭日とす。(全讚史)

祭 日 陰曆八月五日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 五十八坪 崇敬者人員 約三十五人

(三五) 若 宮 神 社 財田大野村大字大野字中西上

祭 神 大雀命
由 緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社
祭 日 陰曆九月一日 主なる建造物 本殿
境内坪數 二十九坪 崇敬者人員 約三十五人

(三六) 大 神 荒 魂 神 社 財田大野村大字大野字中西下

祭 神 大物主命
由 緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社
祭 日 陰曆八月七日 主なる建造物 本殿
境内坪數 二十三坪 崇敬者人員 十三人

(三七) 藤 森 神 社 財田大野村大字大野字中西下

祭 神 舍人親王

由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社。西讃府志に「藤森荒神 下村ニアリ」と見ゆ。
祭日 陰曆八月五日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 七十九坪 崇敬者人員 十五人

(三六) 産巢日神社 財田大野村大字大野字庄ノ久保

祭神 高皇産靈神 神皇産靈神
由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社
祭日 陰曆九月九日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 二十七坪 崇敬者人員 約百八十人

(三九) 宇賀神社 財田大野村大字大野字庄ノ久保

祭神 宇氣母智命
由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社。西讃府志に、「宇賀神祠 上村ニアリ 椋ノ大樹アリ 圍リ二丈」と見ゆ。
祭日 陰曆九月九日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 百四十四坪 崇敬者人員 約百八十人

(三三) 大神荒魂神社 財田大野村大字大野字山ノ浦

祭神 大物主命
由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社
祭日 陰曆八月十八日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 二百二十七坪 崇敬者人員 約百六十人

(三五) 天満神社 財田大野村大字大野字東上

祭神 菅原道眞公
由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社
祭日 陰曆八月二十五日 主なる建造物 本殿
境内坪數 五十二坪 崇敬者人員 約七十人

(三七) 巖島神社 財田大野村大字大野字山下

祭神 市杵島姫命
由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社。西讃府志に「辨天祠 上村ニアリ」と見ゆ。
祭日 陰曆九月初日 主なる建造物 本殿

(三〇) 若宮神社 財田大野村大字大野字高道

祭神 大雀命
由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社
祭日 陰曆九月初日 主なる建造物 本殿
境内坪數 四十坪 崇敬者人員 約百人

(三二) 日尻子神社 財田大野村大字大野字馬場下

祭神 猿田彦命
由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社。西讃府志に、「聖子祠 上村ニアリ」と見え、神社考大野郷祇園宮の條に「予嘗遊此地一里人問曰村内有聖子明神一或以爲蛭子一果然乎予曰近江國日吉神社有聖眞子社一廿一社之一也所祭瓊々杵尊蓋與之同神」とあり。
祭日 九月二十二日 主なる建造物 本殿
境内坪數 二十坪 崇敬者人員 約五十人

境内坪數 三十六坪

(三五) 地神社 財田大野村大字大野字鹿ノ谷

祭神 大己貴命 天照皇大神 宇氣母智命
由緒 財田大野村郷社八幡神社境外末社
祭日 九月二十二日 主なる建造物 本殿
境内坪數 二百二十二坪 崇敬者人員 三十人

(三六) 村天満神社 財田大野村大字財田西字鹿ノ谷

祭神 菅原道眞公
合祀祭神 八衢比古命 八衢比賣命
由緒 此の地菅公會遊の地なりといふ。當社別當たりし宗運寺由來及び同寺の開基山下家系譜に據れば、慶長十一年七月山下盛久、山下市右衛門尉盛勝の家督を繼ぎ、西ノ村天満宮を再營し、後盛久宗運寺を建立して天満宮の別當となり、毎歲八月二十四日二十五日を以て例祭をなす。領主生駒家より御供料として高一石五斗四升外に山林方八町の寄進ありし旨を記せり。全讃史に「天満宮在ニ西村一村社也

祭田高一石五斗四升宗運寺主其祠祝宮本山城」とあり。西讃府志に『天満宮 祭祀八月二十五日社林二町餘 神田三段九畝 或ハ郡内ノ 總社ト稱シ 三十三年 毎に開扉アリ』と見ゆ。 元和年間生駒尊岐守社殿を再建す。



村 天 満 神 社

昭和八年十月七日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

(全讃史)

西讃府志 生駒分限帳)

明治四十二年 宇河内 道祖神社を合祀、大正九年 宇百々 道祖神社

社を合祀す。

例祭日 十月十二日

主なる建造物 本殿 拜殿 神輿庫 社務所

寶物 書元和六年 生駒熊丸筆 棟札二點 扁額承應四年

境内坪數 三千五百四十六坪

氏子區域及戸數 大字財田西 二百餘戸

境内神社 八幡神社(品陀和氣命)

(三七) 岩 神 社

財田大野村大字財田西 字前山下

祭神 磐筒之男神

由緒 財田大野村社天満神社境外末社。西讃府志に、『岩神祠 上村ニアリ 石アリ菅公影向ノ石トテ上ニ駒ノ蹄アリト云』と見ゆ。

祭日 九月十日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 百五十六坪 崇敬者人員 約二百五十人

(三八) 荒魂神社

財田大野村大字財田西 字百々道西下

祭神 大物主命

由緒 財田大野村社天満神社境外末社

祭日 九月二十八日 主なる建造物 本殿

境内坪數 百〇七坪 崇敬者人員 約二百人

(三九) 荒魂神社

財田大野村大字財田西 字河内川西

祭神 大物主神

由緒 財田大野村社天満神社境外末社

祭日 九月二十八日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 百五十八坪 崇敬者人員 約四百人

一一三 高室村

(四〇) 縣 高屋神社

高室村大字高室字稻岳山 (稻積)

祭神 邇々杵命 保食神 咲夜比女命

合祀祭神 大己貴神 大山咋命 大物主神 進男神 高麗

神 産巢日神 天兒屋根命 大山津見命 菅原道真

公 天照大神 天之水分神 別雷神 彦稻飯神 水

津波能賣神 埴山比古神

由緒 延喜神名式に『讃岐國刈田郡小高屋神社』、三代實錄に『貞觀六年冬十月十五日戊辰授讃岐國高屋神社從五位下』とありて、延喜式内當國二十四社の一なり。往古より高屋郷の産土神にして稻積大明神と奉稱せらる。古くは稻積山の山上に御鎮座ありしが、慶長年中山腹に御遷座、寶永年中更に山麓に御遷座、天保二年又舊地なる山上に遷座あらせられたり。全讃史に『高屋神社在ニ高屋郷高谷ニ瓊々杵尊木花咲耶姫命爲主矣蓋亦高屋郷之社稷也……今爲ニ村社ニ主人云從古以粟爲饗以造酒』、又同書に『高稻積社在ニ高谷北山上ニ里社也保食神爲主矣……此神能去蜚骨豫州松山有蜚祈ニ此神無災又文政十二年有蜚又祈』とあり。生駒記に『高屋神社小高屋村ニ有大伊那祇神社ト云

兩高屋 室本 流岡 吉岡 此五ヶ村崇ニ氏神ニ祭所神瓊々杵尊 木花開耶姫命』、神社考に『高屋神社郷社所祭二座瓊々杵尊木華開屋姫命按ニ神代紀ニ瓊々杵尊幸ニ大山祇神子木華開屋姫ニ一夜而有娠云々時以ニ竹刀ニ截ニ其兒躰ニ其所

棄竹刀終成ニ竹林ニ故號ニ其地ニ曰ニ竹屋ニ此地本在ニ日向國ニ和銅以後屬ニ大隅國肝屬郡ニ竹屋今作ニ高屋或鷹屋……高屋之名義蓋取ニ此ニ此社今稱ニ稻積大明神ニ按ニ神代紀ニ神五

田鹿葦津姫開耶姫別名以ト定田一號曰狹名以ニ其田稻一釀ニ天甜酒一并之又用ニ淳浪田稻ニ爲ニ飯骨之稻積之名亦本ニ干此ニと見ゆ。西讃府志に『高屋神社 稻積大明神ト稱ス、式内二十四社之一、祭神木華咲屋姫命……昔山上ニアリシヲ慶長年中山ノ半腹ニ移シ祭リ寶永年中又今ノ地ニ移ス。其舊趾ヲ高稻積中稻積トイヒテ小祠アリシニ、天保二年高稻積ノ社本殿拜殿ヲ造營シ、年毎ニ三月十三日諸方ヨリ参リ集ル人市ヲナセリト云』と載す。

丸龜藩主奉納の扁額（京極高照筆）あり。棟札によれば、慶長八年、寛保三年、天明二年、享和三年、天保十五年に於て各本殿を再築し、延寶三年拜殿再築等あり。五穀守護及び安産の神として崇敬者多く例祭日等殷賑を極む。神社は稻積山の山頂にあり、内海の伊吹、葛島等指呼の間にありて眺望に富む。

明治五年郷社に列せられ、大正五年四月神饌幣帛料供進神社に指定せられ、昭和十一年三月二十三日縣社に昇格す。

（生駒記 全讃史 神社考 西讃府志 官社考證 三豊郡史 特選神名牒 古名勝圖繪）

明治四十三年^{字稻}岳山高屋神社・高屋神社・高屋神社を、大正三年^{字稻}岳山瀧宮神社・瀧神社、^{字奥}妙見神社、^{字西}春日神社、^{字奥}谷

六月二日 之景(花押)王子大明神別當多寶坊(宛)とあり。生駒記に『高屋郷ノ内室本村ト云フ所ニ王太子ト云フ神社アリ。室本村産階神トス。彦火々出見尊ナリト申ス。高屋郷總氏神ハ則高屋神社ニシテ、瓊々杵尊 木花開耶姫命ヲ祭レリ。右郷内ノ室本ニ御子ノ彦火々出見尊ノ鎮座難有事トモナラン、此村大稻祇ノ元ニテモ有ランヤ、古ヨリ稻ヲ以テ糶ヲ拵清酒ヲ造レリ。神ヲ祭ルニ室蓋ヲ以テスト云ヘリ。珍ラシキ舊例ナリ』と見ゆ。神社考高屋郷高屋神社の條に『瓊々杵尊幸ニ大山祇神子木華開耶姫ニ夜而有レ娠云云時以ニ竹刀ニ截ニ其兒臍ニ其所ニ乘竹刀終成ニ竹林ニ故號ニ其地ニ曰ニ竹屋ニ此地本在ニ日向國……竹屋今作ニ高屋或鷹屋……高屋之名義蓋取ニ干此』、又『王太子宮村社在ニ室本村ニ所祭彦火々出見尊蓋以ニ其父瓊々杵尊在ニ高屋ニ故是稱ニ王太子ニ乎此地以ニ製麴ニ爲ニ業者多其法先構ニ溫室ニ以製之開耶命始造ニ室之神故祭ニ之高屋 蓋亦有以也至干今ニ近邑祭禮醴者皆取ニ麴干此ニ云是亦所ニ以名ニ室本也』とあり。大正十三年五月神饌幣帛料供進神社に指定せらる。(生駒記 神社考 西讃府志 三豊郡史)

例祭日 十月二十五日

特殊神事 七日日祭 正月七日の夜神職及び射手十二名海

山神社、^{字前}菅原神社、^{字正}荒魂神社、^{字樽}大神社、^{字片}降零神社、^{字岡}賀茂神社、^{字母ヶ}荒魂神社、^{字雜}稻荷神社、^{字前}河隅神社、^{字城}地神社を合祀す。

例祭日 四月十三日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神饌所 守所 休息所

社務所 潔齋所 社警所 手水舎 山麓遙拜所

寶 物 棟札六點 扁額^{丸龜藩}主奉納 扁額^{賴杏}外一點

境内坪數 一萬二千五百九十四坪

氏子區域及戸數 高室村 七百十九戸

(三六一) 村 皇太子神社 高室村大字室本字宮ノ元

祭 神 彦火々出見命

由 緒 昔室本濱に麴の神の漂著せられしを祀れりと傳ふ。

當時氏子は數軒に過ぎざりしが、その子孫漸く増加し當社の例祭、七日日祭を奉仕すと云ふ。室本の地名は麴を作りしより起るものにして、當村の人古よりは是を製するを以て業とす。天霧城主香川之景の室本麴許狀に『讚岐國室本地下人等中麴商賣事先規之重書等并元景御折紙明鏡上者以其筋目不可有別儀若又有子細者可註申者也仍狀如件永祿元年

中にて身を清め千矢を射て國家泰平五穀成就を祈る。射手は當社奉齋當時の氏子の子孫なりと。

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神門 神輿庫兼社務所
境内坪數 四百三十七坪
氏子區域及戸數 大字室本 二百四十戸

(三六二) 稻 荷 社 高室村大字室本字七寶

祭 神 倉稻魂命(一に曰 宇賀之御魂神 猿田彦命 天宇

都女神)

由 緒 寶曆五年(紀元二四一五)十月十三日肥前國長崎小野窪岩水稻荷大明神の御分靈を、仁尾村の人久保道吾恒早が室本浦七寶に奉祀せしものにして、久保氏代々當社の世話人たり。農商守護の神として、觀音寺、仁尾、豊濱を中心とする村落は崇敬者にして参拜者多く、一ヶ年十萬を超ゆと云ふ。明治四十一年幣殿、拜殿を新築す。

祭 日 陰曆六月八日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所 参拜者休息所

境内坪數 百五十六坪 崇敬者人員 約三萬人

(三三) 丸山神社 高室村大字室本字西丸山

祭神 大山祇命

合祀祭神 市杵島媛命

由緒 詳ならず。新田の氏神と崇む。明治三十八年字西丸山より丸山山上なる嚴島神社境内に遷座あり。古く山祇神社と奉稱せしを大正五年丸山神社と改稱す。大正十四年同所嚴島神社を合祀せり。山上よりは有明濱を望み風光明媚なり。

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 手水舎

境内坪數 三百九十坪 崇敬者人員 百人

(三四) 荒魂神社 高室村大字室本字窪里

祭神 大物主神

由緒 不詳

祭日 陰曆五月二十七日 九月二十七日

主なる建造物 本殿 拜殿 社務所

境内坪數 百二十坪 崇敬者人員 約百二十五人

二四 常磐村

(三五) 郷 加麻良神社 常磐村大字流岡字山ノ後(丸山)

祭神 大己貴命 少彦名命

由緒 延喜神名式に『讚岐國刈田郡小加麻良神社』とありて、讚岐國式内二十四社の一とす。往古より加麻良明神、丸山大明神と奉稱せられ、子供の守護神として、殊に子供の夜泣を止め給ふとて厚く崇敬せらる。傳説によれば、神代の昔二宮村の氏神(縣社大水大神社)なる大水大神の許に少彦名命來り給ひ、毎夜泣叫ぶこと甚し。大水上神木榊を作りて少彦名命を乗せ水に流し給へり。流れし跡今の財田川にして、流れ着き給へる所は現鎮座地なる丸山の中腹なり、時の人此の神を祀れりと云ひ、流岡の地名はこれに依て起れりと云ふ。境内御神室は命の漂着し給へる所なりと傳ふ。而して當社は御神體として木榊と鉦とを祭れりといふ。全讚史に『丸山大明神在高屋郷流岡村高屋室本流岡北岡吉岡五村之社也大己貴命少彦名命爲主矣亦曰鎌倉神

寶物 棟札十點 佛像二點 扁額、刀等九點

境内坪數 四千六百六十坪

氏子區域及戸數 大字流岡 村黒 二百九十三戸

(三六) 荒魂神社 常磐村大字村黒字五反地

祭神 大己貴命荒魂 素盞鳴命

由緒 常磐村郷社加麻良神社境外末社

祭日 陰曆五月二十八日 九月二十八日

主なる建造物 本殿 釣殿 拜殿

境内坪數 百二十三坪 崇敬者人員 約三百五十人

(三七) 荒魂神社 常磐村大字村黒字西屋敷

祭神 素盞鳴命

由緒 常磐村郷社加麻良神社境外末社

祭日 陰曆五月二十八日 九月二十八日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 二百〇七坪 崇敬者人員 二百人

境内神社 喜久間神社(五十猛命)

例祭日 十月二十日二十一日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神輿庫 社務所 繪馬殿

官社考證 三豊郡史 特選神名牒)

古名勝圖繪 神社考

西讃府志

全讚史

元禄四年、延寶五年、享保十九年、安政三年、明治四十年、明治四十年九月二十一日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。境内に讚岐二十四社遙拜所二十四所あり。(全讚史 西讃府志 古名勝圖繪 神社考 官社考證 三豊郡史 特選神名牒)

(二八) 社 若 宮 神 社 常磐村大字出作字大道下

祭 神 仁徳天皇

合祀祭神 大己貴命

由 緒 出作村開拓當時よりの氏神ならむと云ひ、一説には琴弾八幡宮の御分靈を奉齋せしものとも云ふ。御鎮座以來數百年なるべしと。西讃府志に『若宮八幡宮 若宮ニアリ社地一段五畝』と見ゆ。

明治四十二年 字荒魂荒魂神社を合祀す。荒魂神社は全讃史に『三寶荒神在出作村一社也』云々、西讃府志に『荒神宮 祭祀八月十五日……社林五段五畝』と見ゆ。

例祭日 十月二十一日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所

境内坪數 九百三十七坪二合四勺

氏子區域及戸數 大字出作 百七十戸

(二八九) 社 加 茂 神 社 常磐村大字植田字田井

祭 神 彦火瓊々杵尊(一に曰 大山咋命 賀茂御祖神 賀茂別雷神)

に『按麻與茂通常有之加麻良蓋加茂等之轉也神代紀曰大輪神云々此神之子^{かもしみ}茂君等大三輪君等云々是加茂等之所祭有^三此稱^二或謂^三之大山咋神^一者恐不然』と云ひ、官社考證加麻良神社の條に『坂本郷植田村の加茂社を土人加茂良と唱へば是ならむとも云ふ……流岡村植田村ともに古證なければ實は定がたけれど』云々と見ゆ。又同書附録に當社或は三代實録に『貞觀六年冬十月十五日戊辰授^二讚岐國正六位上賀富良津神從五位下^一』とある賀富良津神ならむかと云へり。全讃史には『加麻良神社在^二植田村^一未^レ知^二何時立^レ祠矣大山咋命爲^レ主此亦此地之社公也既荒凉今爲^二村社^一』又『加茂大明神在^二植田村^一村社也』と載せたり。西讃府志に『加茂大明神 祭神鴨御祖神 加茂別雷神 生駒記ニ加麻良神社ヲ此社トス』と載す。

承半年間社殿破朽につき再建し、保延二年上拜を爲し、正徳四年拜殿を建築すと傳ふ。大正十五年本殿勸堂を再建し、幣殿及び社務所を新築す。

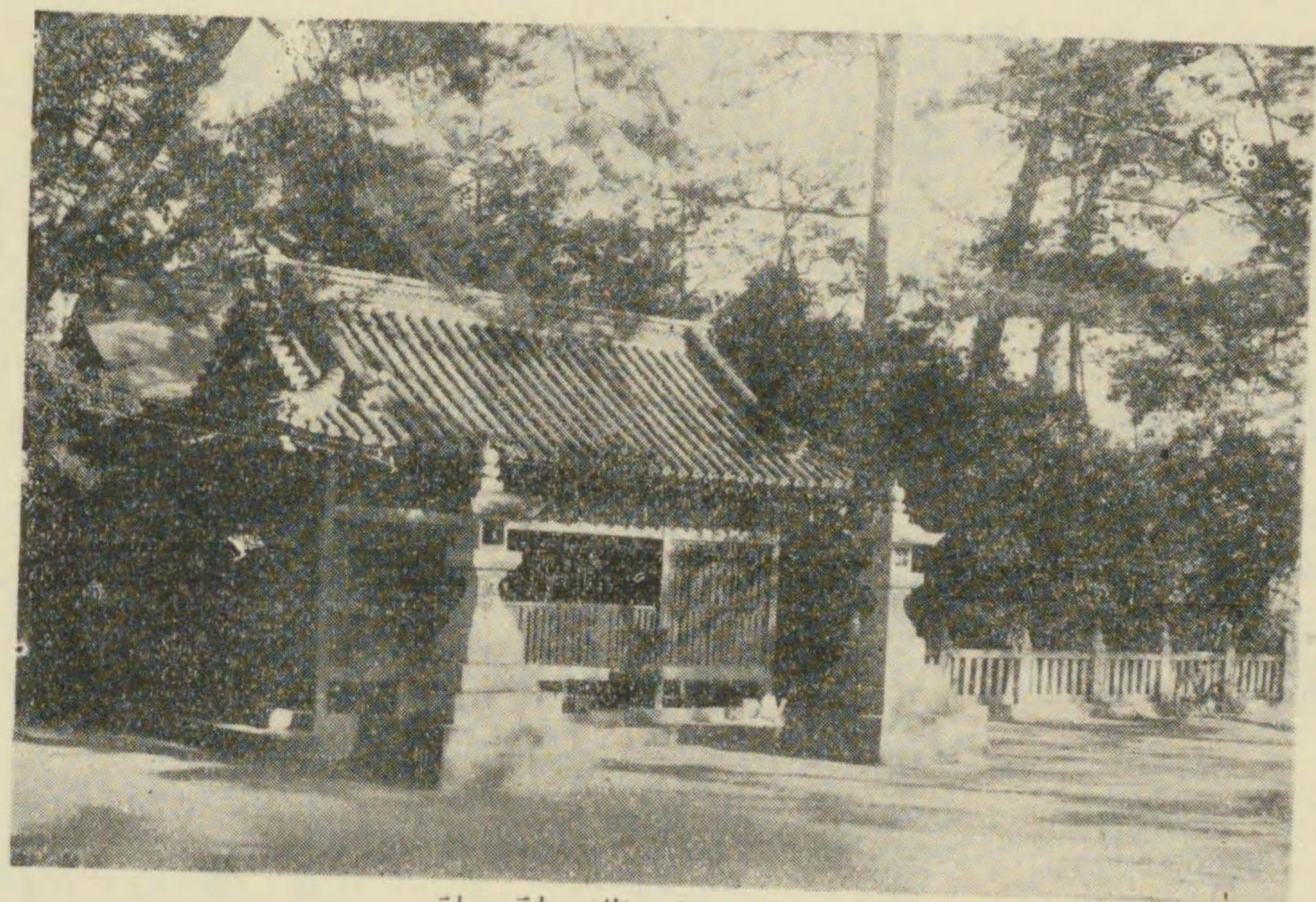
明治五年村社に列せられ、同四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。(生駒記 全讃史 西讃府志)

香川縣史 官社考證 讚岐史要 神社考 三豊郡史)

大正三年 宇高山伏神社・嚴島神社、宇高山神社、宇東高麗

合祀祭神 大地主神 市杵島姬命 高麗神 闇麗神 豐受 姫神 玖名斗神 應神天皇 大國主命 金山彦神

由 緒 植田



社 神 茂 加 社 村

村開發當時よりの鎮座と云ひ、延喜式内加麻良神社は當社なりと云へり。生駒記に『加麻良神社、小植田村崇^二氏神^一、世俗誤テ加茂良ト唱へ、今加茂宮ト云フ祭所神大

山咋命』とありて、當社を以て延喜式内加麻良神社となせり。古來加茂大明神、加茂良明神と奉稱せられ、神社考

神社、宇天財神社・浦神社、宇若宮神社・地神社、宇池金神社、宇寶寶殿神社、宇南荒魂神社、宇東地神社を合祀す。

例祭日 十月二十一日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所

境内坪數 千五百六十三坪

氏子區域及戸數 大字植田 二百戸

境内神社 白鳥神社(崇徳天皇) 崇徳天皇社と奉稱す。長

崩御の百ヶ日を以て中將房貞賢創立すと。往古は大社なりしが後兵火に罹り享保七年再建せり。古來安藤家に於て祭祀し來れり。

(三九) 荒 魂 神 社 常磐村大字植田字東原

祭 神 大己貴神

由 緒 常磐村村社加茂神社境外攝社。永曆元年(紀元一

八二〇)五穀豐熟祈願の爲め奉齋し、安政二年長船淺吉なる人里人と謀り社殿を造營せり。(西讃府志 香川縣史)

祭 日 九月二十七日

主なる建造物 本殿 拜殿 境内坪數 百二十三坪

崇敬者人員 約七百五十人

境内神社 長船神社(長船資貞靈)

正徳三年資貞の子孫の創祀にして、資貞は天和年中來りて本村北原の地を墾く。正徳三年歿するに臨み、我を祀らば能く一つを納れむと遺言す。乃ち其の靈を祀りしが屢

三 豊 郡
々々神験ありて里人厚く崇敬せり。寶曆八年資貞の裔六郎左衛門社殿を再建す。

(三二) 荒魂神社 常磐村大字植田字南原

祭神 大己貴神

由緒 常磐村村社加茂神社境外攝社。享保四年(紀元二三七九)九月社殿を再建す。

祭日 九月二十七日 主なる建造物 本殿 幣殿

境内坪數 三十二坪 崇敬者人員 約百十五人

(三三) 柏木神社 常磐村大字植田字天神

祭神 大己貴命

由緒 常磐村村社加茂神社境外末社。當村草創よりの鎮座にして、建久四年以來衰廢せしを延寶年間再興すと云ふ。西讃府志に『柏木祠、祭神大己貴命トモ、天目一神トモ云、社地東西十三間南北二十五間』神社考に『柏木大明神村社在植田村一所祭天照皇太神』と見ゆ。

祭日 陰曆四月九日 九月九日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

寶物 扁額權大納言菅原家長筆 扁額京極長門守筆 書三千風筆

境内坪數 四百七十一坪 崇敬者人員 約九百人

境内神社 金刀比羅神社(大物主命)

嚴島神社(市村島姫命)

二五 一ノ谷村

(三四) 村天神社 一ノ谷村大字中田井字天神岡

祭神 菅原道真公(一に曰 天御中主神 高皇產靈神 神皇產靈神 相殿 菅原道真公)

由緒 菅公の遺跡として著名の神社なり。傳ふる所によれば、菅公當國の太守となりて國內御巡檢の節、當地の風光を賞し別荘を營まれ、又松樹を御手栽あり(この松明治二十年頃枯朽して除かれたり)依て此の處を聖廟と云ふといへり。

高辻中納言家の記録によりて寫すと云へるものに、中田井村松の森天神宮は菅公讚岐國太守の砌自ら松を栽させ給ふ

境内坪數 百六十六坪 崇敬者人員 二千人

(三五) 菅原神社 常磐村大字植田字天神

祭神 天満大自在天神

由緒 天慶四年(紀元一六〇一)神惠院の僧仁賢に神託あり、仁賢神像三軀を刻し、植田村に祠を建て其の一を奉齋す。即ち當社なりと傳ふ。古來植田の天神と奉稱せらる。社頭に一大松樹あり、菅公此の國に守たりしとき手栽し給ふ所と傳へ、植田の松として其の名甚だ高く、西讃府志に『圍リ一丈五尺 高五丈 東西ノ枝十間 南北ノ枝十八間』とあり。全讃史に『植田天神在植田村庭有菅公手栽松一盤屈乎數百步因立此祠』と見ゆ。三豊郡史によれば、本郡の僧道賢吉野金峰山に登りし時神託を蒙り、歸郷してこの祠を立つ(北野宮縁起弘化錄)、菅公の道賢に對する託宣は元享釋書、本朝神社考、本朝奇談、神異說、梅城錄等の諸書に載すと記せり。明和九年二月權大納言菅原家長扁額を奉納す。明治十一年安藤榮三郎、同芳三郎、若山常彦等社殿を改築す。(全讃史 西讃府志 讃州府志 三豊郡史)

祭日 陰曆六月二十五日

御地なり。社内平安の岳茂林御神殿を覆ひ甚だ殊勝の地なり。昔は五社の五殿ともあり。中納言藤原爲家卿の眞筆にて銅鳥居の額



には松の森天神とも書殘れり。實に神殿美麗堂を並べて建置かれし古跡なり。則ち神領は古川中田井の兩村にて天神宮御田免と唱ふ。今は俗に天神免とて名のみ殘れり。寛仁二年源賴光の造營ありて、

其の後天正十三年羽柴秀吉四國征伐の折宮殿造營ありて全く造營す。慶長六年祭式を行ふ旨記されたり。眞書生駒記

に『中田井村ニ天満宮アリ、菅公刺史ノ時ノ舊跡ニシテ甚殊勝ノ地ナリ。凡國中天満宮所々ニ有リ、皆々天神ト唱フ、然ルニ當社計リ聖廟ト唱フ』云々とありて、生駒記一本には『土地一堆の平岳なり茂林空を掩ひ甚殊勝の地なり往昔神殿鐘樓梵宇藪を並へ』云々と云へり。全讚史に『聖廟在中田井ニ村社也土人云此菅神別荘之所_レ在也是以國中雖多菅神祠一_レ只此稱_二聖廟_一矣』、神社考には『按菅家文章載_二州廟釋奠有感詩_一……今無_レ知其地_一者蓋此祠今猶有_二聖廟之稱_一而且爲_二公遊蹤之地_一則所謂州廟此祠而後人以_レ公配_レ之也』と載す。而して元文二年八月建立の一對の石燈籠は聖廟の御燈と稱し今猶現存す。爲家筆の額は火災にかゝり亡失せり。社領の天神免は現今の字天神岡の地なりと云ふ。明治四十五年二月十日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。大正六年幣殿、拜殿を改築す。

(生駒記 全讚史 西讚府志 神社考 三豊郡史)

例祭日 十月二十五日

特殊神事 百々手祭 三月十五日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神饌殿 神輿庫

境内坪數 二千五百〇二坪

氏子區域及戸數 大字中田井 百〇三戸

日子根命 天之穗日命 熊野久須毘命

合祀祭神 大物主命荒魂 大物主神 天照大神 山家清兵衛靈

由 緒 天文二十一年の棟札あり。

大正十一年_{字往}遷下_{大神荒魂神社・地神社・明神社、字本村荒魂神社を合祀す。}

例祭日 十月十八日

特殊神事 百々手祭 陰曆二月六日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

寶物 棟札 眞鍮研幣_{延享元年}氏子奉納

境内坪數 百六十八坪

氏子區域及戸數 大字本大 百二十二戸

境内神社 荒魂神社(大物主命)

(二七) 祇園神社 一ノ谷村大字本大字江藤道西

祭神 素盞鳴命

由 緒 一ノ谷村神社五柱神社境外末社。西讚府志に『祇園祠 江頭ニアリ』と見ゆ。

祭日 一月七日 六月七日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内神社 荒魂神社(大物主神) 祀 宇氣毛智神 備中守

義武靈) 明治四十五年字池下稻荷神社、字西下所大西神社を合祀す。

熊野神社(伊弉册命 事解男命 早玉男命) 祀 市村島姫

命) 元字平塚に鎮座ありしを大正五年移轉遷座して境

内神社となし、同年字平塚殿島神社を合祀す。

猿田彦神社(佐田比古命) 祀 大鶴鶴命) 大正五年字池下

社とし、同年字石ノ經

若宮神社を合祀す。

山神社(大山祇命)

(二五) 池之宮神社 一ノ谷村大字中田井字天神岡

祭神 瀬於理津比賣神(一に曰 瀬織都媛神 西島八兵衛靈)

由 緒 辻村郷社菅生神社境外末社。當村一ノ谷池の守護

神なり。一ノ谷池は寛永十六年西島八兵衛の築造に係り、

其の周圍二十五町、郡内の大池なり。

祭日 七月二日 主なる建造物 本殿

境内坪數 十七坪 崇敬者人員 八千五百人

(二六) 村五柱神社 一ノ谷村大字本大

祭神 正哉吾勝々速日天之忍穗耳命 天津日子根命 活津

境内坪數 六十五坪 崇敬者人員 二百二十五人

(二八) 村吉岡神社 一ノ谷村大字吉岡字道上

祭神 帶比賣命 品陀和氣命 玉依姫命

由 緒 傳ふる所によれば、當所字宮高の地は往昔觀音寺琴

彈八幡宮の御旅所なりしにより、村人此所に八幡宮を奉齋

せむとし、御分靈を御幣に需めて歸りしに、本村、土居の

人等互に御神體を得むと争ひ、本村は御衣を、土居は御袖

を奪ひ取りて各それを祭り、本村なるを御衣神社、土居な

るを袖之神社と奉稱し、御神體を争ひし地を袖もぢきと稱

し紀念の爲め一社を創立して袖抜神社といへり。明治十年

五月御衣神社、袖之神社兩社とも村社に列せられしが、大

正四年六月十三日村社御衣神社を袖之神社に合併すると共

に、字道上の現社地に遷座して社號を吉岡神社と改稱せり。

大正六年十月十二日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

(西讚府志)

例祭日 十月十八日

特殊神事 百々手祭 三月九日

主なる建造物 本殿 拜殿 隨神門 門 神饌所 社務所

覆舎

境内坪數 七百〇五坪

氏子區域及戸數 大字吉岡 百十戸

境内神社 荒魂神社(祭神不詳) 龜之神社(祭神不詳)

荒魂神社(祭神不詳)

(二九) 村 荒 魂 神 社

一ノ谷村大字古川字 堂ノ南

祭 神 素盞鳴命

合祀祭神 菅原道真公 大鷦鷯命

由 緒 古老の傳ふる所によれば、當地に雁渡氏なる豪族ありて同氏の建立する所と云ひ、境内北側なる近傍にその邸宅ありて、且つ境内に墓ありしが、後これを辻村小松尾大興寺に移せりと云ふ。而して當社は今猶雁渡宮の稱あり。西讃府志に『荒神祠、社地一段二畝、元祿六年再建、社僧大興寺、祠官眞屋筑前神子一人』。神社考に『三寶荒神村社在古川村』と見ゆ。大正八年一月十一日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

大正三年^{字切}天神社、^{宇谷}間原若宮神社を合祀す。

例祭日 十月十八日

特殊神事 百々手祭 三月十日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 廊下 神饌所 社務所 門

境内坪數 七百六十一坪

氏子區域及戸數 大字古川 百三十戸

二六 辻 村

(三〇) 郷 菅 生 神 社 辻村字西側(山本)

祭 神 品陀和氣命 息長帶媛命 玉依姫命 邇々杵命 天

種子命 天押雲命

合祀祭神 久那斗大神 八衢比古神 八衢比女神 大物主

神荒魂

由 緒 菅生八幡宮、福生八幡宮と並び稱へられ、往古は二社なりしを正徳二年兩社造りの一社とし、明治十二年以後専ら菅生神社と奉稱するに至れり。

讚陽物語所載の縁起によれば、嘉祿二年(紀元一八八六)二月十五日、香西左近將監資村、河内國丹比郡菅生神社の靈

夢を蒙り、使者を河内に遣して此の旨を告げ、三野郡大野村相模重政(敏達天皇の皇子に座せる春日皇子の後胤)神靈を奉じて室本浦に着き、假殿を古川村に造り、更に山本の地に勧請せり。世俗古川村假殿の地をがんど宮と呼ぶ。

天福元年(紀元一八九三)

八月十三日豊前國宇佐よ

り八幡大神を迎へ福生八

幡宮と奉稱し、刈田郡天

福田にて高六石を神領と

せり。天福田は今の福田

の地なり。大野村小野右

京太夫橋重磨、同右門政

康父子神主として相勤

む。これ現社司眞屋氏の

祖なりと云へり。一説

に、福生八幡宮は天福元年三月十五日古川村鎮座の八幡宮を奉遷し、曆號により福生八幡宮と奉稱せしものなりとも云ふ。

當地は古く山本郷と稱し、石清水文書に同社莊園讚岐國山本庄の事、保延三年、仁安三年、元久三年、嘉禎三年等屢



郷 菅 生 神 社

々見え、讚岐國山本庄は阿野郡山本郷(坂出、西庄)と當郷とあれども、當社は豊田郡山本郷即ち辻村、古川村、河内村、中田井村、新田村、原村七ヶ村の産主神として崇敬せられ、地勢、祭神等の關係より見るも、日吉社領たる柞

田村の日枝神社、祇園社莊園たる財田大野村の須賀神社の如く、當社も亦石清水の莊園たる山本郷に八幡宮を勧請せしものにあらずやと云ふ。中古兵火に罹りて文書等の傳はるものなけれども、豊臣時代には領主高井下總守尊崇し、その後裔現在も猶崇敬す。徳川時代は七ヶ村

民の崇敬を集めたること社家の文書に詳なり。正徳二年本殿及び社殿の改築ありて頗る大社となれり。寛保元年の祭祀に付、従先例諸事執行之覺書、寶永二年の神事記録等を存す。明治九年本殿を改築す。

明治五年郷社に列せられ、同四十年九月二十一日神饌幣帛

料供進神社に指定せらる。

(全讚史 西讚府志 古名勝圖繪 神社考)

大正十三年^{字中} 遷 寒神社・荒魂神社を合祀す。

例祭日 十月三日四日五日

特殊神事 百手祭 陰曆二月五日

除蝗祭 陰曆六月朔日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神輿庫 社務所

寶物 書(詠詞)^{中院通} 書(百人一首)^{僧正長圓設秀} 折

本堀江次郎齋 劍長船義光 廣 槍文殊 其他扁額、鏡、琴

等二十四點

境内坪數 六千〇十八坪

氏子區域及戸數 辻村 豊田村大字原 新田 池尻の一部

河内村 一ノ谷村大字中田井 古川 千三百三十六戸

境内神社 金刀比羅神社(大物主大神) 神武天皇神社

(神倭伊波禮毘古乃命) 帶神社(息長帶比女命)

高良神社(武内宿禰命) 大山祇神社(大山祇命)

荒魂神社(大物主荒魂) 祀合 天照皇大神 御氣津能神 市

寸島比賣命 猿田彦神 大山祇命 高淤加美神 高井下

總守靈) 明治四十二年^{字西光寺} 遷 宇宮神社、宇鳥突山之神社、宇

目井上神社、宇大辻若宮神社、宇寺岡殿島神社、宇大辻五音殿

神社を合祀。昭和四年^{字三谷} 遷 猿田彦神社を合祀す。

(三〇一) 五 鈴 神 社 辻村字西側

祭神 天照皇大神

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

祭日 十月十七日 主なる建造物 本殿

境内坪數 六坪 崇敬者人員 約二千五百人

(三〇二) 山 之 神 社 辻村字西側

祭神 大山祇命

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

祭日 十月四日 主なる建造物 本殿

境内坪數 三十六坪 崇敬者人員 約二千五百人

(三〇三) 稻 積 神 社 辻村字西側

祭神 宇氣持命

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

祭日 六月十二日 主なる建造物 本殿

境内坪數 百二十坪 崇敬者人員 約三百人

祭日 陰曆九月一日 主なる建造物 本殿

境内坪數 二十坪 崇敬者人員 五十人

(三〇七) 定 秀 神 社 辻村字南岡

祭神 定秀靈

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

祭日 八月十日 主なる建造物 本殿

境内坪數 十八坪 崇敬者人員 五十人

(三〇八) 朝 日 神 社 辻村字南岡

祭神 高木大神

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

祭日 八月十二日 主なる建造物 本殿

境内坪數 十二坪 崇敬者人員 約二十五人

(三〇九) 船 玉 神 社 辻村字南岡

祭神 佐田比古命

料供進神社に指定せらる。

(全讚史 西讚府志 古名勝圖繪 神社考)

大正十三年^{字中} 遷 寒神社・荒魂神社を合祀す。

例祭日 十月三日四日五日

特殊神事 百手祭 陰曆二月五日

除蝗祭 陰曆六月朔日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神輿庫 社務所

寶物 書(詠詞)^{中院通} 書(百人一首)^{僧正長圓設秀} 折

本堀江次郎齋 劍長船義光 廣 槍文殊 其他扁額、鏡、琴

等二十四點

境内坪數 六千〇十八坪

氏子區域及戸數 辻村 豊田村大字原 新田 池尻の一部

河内村 一ノ谷村大字中田井 古川 千三百三十六戸

境内神社 金刀比羅神社(大物主大神) 神武天皇神社

(神倭伊波禮毘古乃命) 帶神社(息長帶比女命)

高良神社(武内宿禰命) 大山祇神社(大山祇命)

荒魂神社(大物主荒魂) 祀合 天照皇大神 御氣津能神 市

寸島比賣命 猿田彦神 大山祇命 高淤加美神 高井下

總守靈) 明治四十二年^{字西光寺} 遷 宇宮神社、宇鳥突山之神社、宇

目井上神社、宇大辻若宮神社、宇寺岡殿島神社、宇大辻五音殿

神社を合祀。昭和四年^{字三谷} 遷 猿田彦神社を合祀す。

(三〇四) 地 神 社 辻村字西側

祭神 天祖皇大神 大己貴命 埴山比女命 少彦名命 受

持大神

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

祭日 三月二十二日 九月二十二日

主なる建造物 本殿 境内坪數 十一坪

崇敬者人員 約二百人

(三〇五) 宗 像 神 社 辻村字西側

祭神 狹依毘賣命 多紀理比賣命 多岐都比女命

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

祭日 陰曆九月九日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 二百二十三坪 崇敬者人員 七百九十五人

(三〇六) 一ノ宮 神 社 辻村字山本

祭神 猿田毘古大神

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 八月十二日 主なる建造物 本殿
境内坪數 二坪 崇敬者人員 約五十人

(三〇) 大藏神社 辻村字南岡

祭神 御年大神
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 八月十二日 主なる建造物 本殿
境内坪數 十坪 崇敬者人員 約五十人

(三一) 塞神社 辻村字道下

祭神 久那斗大神 八衢比古神 八衢比女神
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 陰曆六月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 百五十六坪 崇敬者人員 七百九十五人

(三二) 靈神社 辻村字五ツ

祭神 方日靈

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 一月 五月 九月 各二十七日
主なる建造物 本殿 境内坪數 十四坪
崇敬者人員 約三十五人

(三三) 中西神社 辻村字中西

祭神 大國主命 素盞鳴命
合祀祭神 少彥名命
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社。大正二年字中東神社
を合祀す。
祭日 陰曆六月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 九十二坪 崇敬者人員 百三十五人
境内神社 稻荷神社(保食神)

(三四) 高良神社 辻村字東側

祭神 武内宿禰命 天照皇大神
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 十月十二日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 九十九坪 崇敬者人員 約六十人

(三五) 荒魂神社 辻村字鐘鱒原

祭神 大物主神荒魂
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 十月十七日 主なる建造物 本殿
境内坪數 四十九坪 崇敬者人員 五人

(三六) 熊野神社 辻村字寺岡

祭神 伊弉册命 速玉男命 事解男命
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社。西讃府志に『熊野祠
大興寺ニアリ』と見ゆ。

祭日 十月十二日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 二百二十一坪 崇敬者人員 六百八十人
境内神社 荒魂神社(大物主神荒魂)

(三七) 荒魂神社 辻村字段之岡

祭神 大物主神荒魂

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社

祭日 九月二十五日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 百十坪 崇敬者人員 百十人

(三八) 高木神社 辻村字新日

祭神 一條兼房公
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 陰曆八月二十三日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 七十坪 崇敬者人員 四百五十人

(三九) 若宮神社 辻村字三谷

祭神 不詳
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 十月十九日 主なる建造物 本殿
境内坪數 二十一坪 崇敬者人員 百人

(四〇) 荒魂神社 辻村字大興寺

祭神 大物主神荒魂

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 十月二十日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 百四十六坪 崇敬者人員 百人

(三三) 沙々貴神社 辻村字菩提

祭神 少名比古名命
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 四月二十七日 主なる建造物 本殿
境内坪數 三百〇五坪 崇敬者人員 五百人

(三三) 霽神社 辻村字菩提

祭神 高淤加美神
由緒 辻村郷社菅生神社境外末社
祭日 四月二十七日 主なる建造物 本殿
境内坪數 九十六坪 崇敬者人員 約二千五百人

二七 河内村

(三三) 村河内神社 河内村字坪屋

祭神 天津彦根命
由緒 古くより河内村の産土神にして三部大明神と奉稱せられ、當村大喜多家記録に『三部神社 字山之神ニ勸請文祿三甲午年其後即今之社地へ轉殿ハ元祿五壬申年以後變更ナシ』又社僧たりし藥王寺記録に『京極長門守殿御領内豊田郡山本郷河内村三部大明神往古ノ社ハ河内村長野ト申所ニ御座候處元祿五年壬申年九月十四日只今ノ社地ニ遷シ申候何年中ニ奉勸請ト申譯相知レ不申候』とありて、古く山之神元明神と唱ふる地に鎮座ありしを、元祿五年現今の地に遷座し奉れり。神社考に『三部大明神村社在河内村ニ所祭天津彦根命按三神代紀天津彦根命是凡河内直山代直等遠祖也又曰茨城國造額田部連等遠祖也蓋以ニ其河内山代茨城等三部之祖ニ稱レ之也村名本三于此』と載せ、西讃府志村名考の條に『河内、此地ノ氏神ヲ三部明神トテ天津彦根命ヲ祭ルト云リ、三部トハ此神凡河内直、山代直等祖又茨城國

造額田部連等祖ナド神代紀ニ見エタレバ、河内直、山代直、額田部等ノ三部ノ祖ナル故奉稱御名ト聞エタリ、ソガ



村河内神社

中ニ河内直ノ縁アリテ爰ニ祭リタルニテ、地ノ名ヲモ即チカクヨベルニヤ』と云へり。河内村誌に、内山家の五代の祖先磯右衛門なる人、御室御所にて剃髮し秦翁と云ふ。京より神輿を求め來て當社に奉納し藩主の許を得て神事を興したることを載す。慶應元年五月火災に罹り本殿を始め神庫、

神器等悉く烏有に歸し、同年六月幣殿、拜殿を造營、同七年本殿を再建、同十一年神輿庫を造營す。明治三年十一月河内神社と改稱し、同五年村社に列せらる。明治二十二年舊丸龜藩主京極高徳より四ツ目紋入幕の寄進あり。同四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

(西讃府志 讃州府志)

例祭日 十月十五日

主なる建造物 本殿 渡殿 幣殿 拜殿 神饌殿 神輿庫
寶物 棟札二點 其の他樂器、劍等五點

境内坪數 二千九百三十一坪

氏子區域及戸數 河内村上中下三部落 百八十二戸

境内神社 菅原神社(菅原道眞公)

(三四) 村國修神社 河内村字轟口

祭神 大國主命
由緒 昔時藤原太郎右衛門(藤川家の祖)、藤田九左衛門、荒川久太夫(大矢家の祖)、藤田四郎左衛門、川崎伊右衛門の五人にて奉祀せる社にしてその子孫相繼ぎて祭祀に興り來たり、今猶此の家を五頭と呼び大祭の儀式には必ず參列

するを例とす。(現今の五頭は藤川・川崎二家のみその家筋なりといふ)



社 神 修 國 社 村

て地藏大権現と呼ばれしが、その時共に廢れたりしを後里人再興して現今の社地に奉祀せりといふ。社地の近邊所々

祭 日 陰曆六月二十八日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 四百二十八坪 崇敬者人員 約四百二十五人

(三六) 霽 神 社 河内村轟口

祭 神 大彦龍神(一)に曰 高麗神 闇麗神)
由 緒 口碑の傳ふる所によれば、享祿三年(紀元二一九〇)四月の鎮座にして、往時大旱の際頗る靈驗あり、よつて現地に奉祀すといへり。爾來早厄の毎に祈りて靈應あり。村民厚く尊崇す。(香川縣史)
祭 日 陰曆六月二十八日 主なる建造物 本殿
境内坪數 百六十七坪 崇敬者人員 約百七十五人

二八 豊 田 村

(三七) 郷 社 黒 島 神 社 豊田村大字池ノ尻字黒島

祭 神 闇山祇神 瀬織津姫神
合祀祭神 大己貴命 天照大神 高麗神 少彦名神 倉稻

の土中より古瓦を出す。

大喜多家記録に『在長野國修神社勸請年月日不詳尤神殿建築棟札現存せり其寫し左の通り』とありて、元和二年二月創立、寛永十五年九月本殿再建立、元禄五年八月本殿改築、文化十年五月本殿屋根葺替、天保五年三月本殿屋根葺替、文久元年十一月本殿改築等の記録あり。
明治三年十一月、地藏權現社を國修神社と改稱す。明治十年八月拜殿再建、同二十二年及び三十九年に本殿の御屋根葺替ありて昭和九年五月本殿御屋根の模様替を爲す。

例祭日 十月七日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

寶 物 棟札元祿五年一點 樂器二點

境内坪數 千三百八十一坪

氏子區域及戸數 河内村字長野 三十三戸

(三五) 荒 魂 神 社 河内村字坪屋

祭 神 大物主神荒魂

由 緒 寛永三年(紀元二二八六)の創始にして、疫癘滅攘の神として崇敬せらる。

魂命 大物主神 底土神 赤土神 石土神 玉依姫命 埴安姫命 應神天皇 保食神 素盞鳴命

由 緒 延喜神名式に『讚岐國刈田郡小黒島神社』とありて、讚岐國式内二十四社の一なり。全讚史に『古傳云黒雷神爲主……今爲三村社(池尻及原村二村之社也)。西讚府志に『祭神黒雷神 祭祀九月七日、式内二十四社ノ一、社地東西三十八間南北六十八間、供田四石寛延四年先公寄附シ玉フ』とあり。官社考證に『神社は山本郷池尻村に有、生駒記、式社考、廿四社考、廿四社名目、土人境内をさして黒島といふ。社傳未詳、祭神さだかならず、或は闇御津羽神、式社讚留靈記附録には 又闇山祇神考 又黒雷神目、全讚史 又佐須良姫命廿四社名目 とも云、偕上なる三神は皆社號の黒と云につきての説ならむか、又佐須良姫の祭神と云は古傳かいとめづらし……川崎氏家記に萬延三年領主京極高矩ぬし江戸の邸にありし時將軍家より悍馬を賜りし或夜の夢にわれは領内なる黒島神なりと告給ひて奇瑞の事有しより祭田十石餘を寄附せられたりと云事を載せたり』と見ゆ。神社考に『黒島神社 村社在池尻村一所祭黒雷神或傳闇山祇神、池宮大明神今與黒島神社合殿所祭水波女命此地在新居池之後故名』と載せたり。明治維新の際村社に列せられ、

同四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定、大正六年郷社に昇格、同七年十月神饌幣帛料供進神社に指定せらる。(生駒記 全讃史 西讃府志 古名勝圖繪 官社考證)

神社考 三豊郡史)

大正六年^{字久}荒魂神社・御恩殿神社、^{宇山}靈神社・靈神社、^{砂長}稻荷神社、^{字大}金比羅神社、^{字中}鎮守神社・大森神社、^{字石}若宮神社、^{宇黒}若宮神社、^{宇池}神社・徳宗神社・若宮神社・牛神社、^{字中}地神社を合祀す。

例祭日 十月二十二日

主なる建造物 本殿 拜殿 寶庫 社務所

境内坪數 三千百七十九坪

氏子區域及戸數 大字池ノ尻 百八十戸

境内神社 荒魂神社(大物主荒魂神) 地神社(大地主神)

若宮神社(祭神不詳)

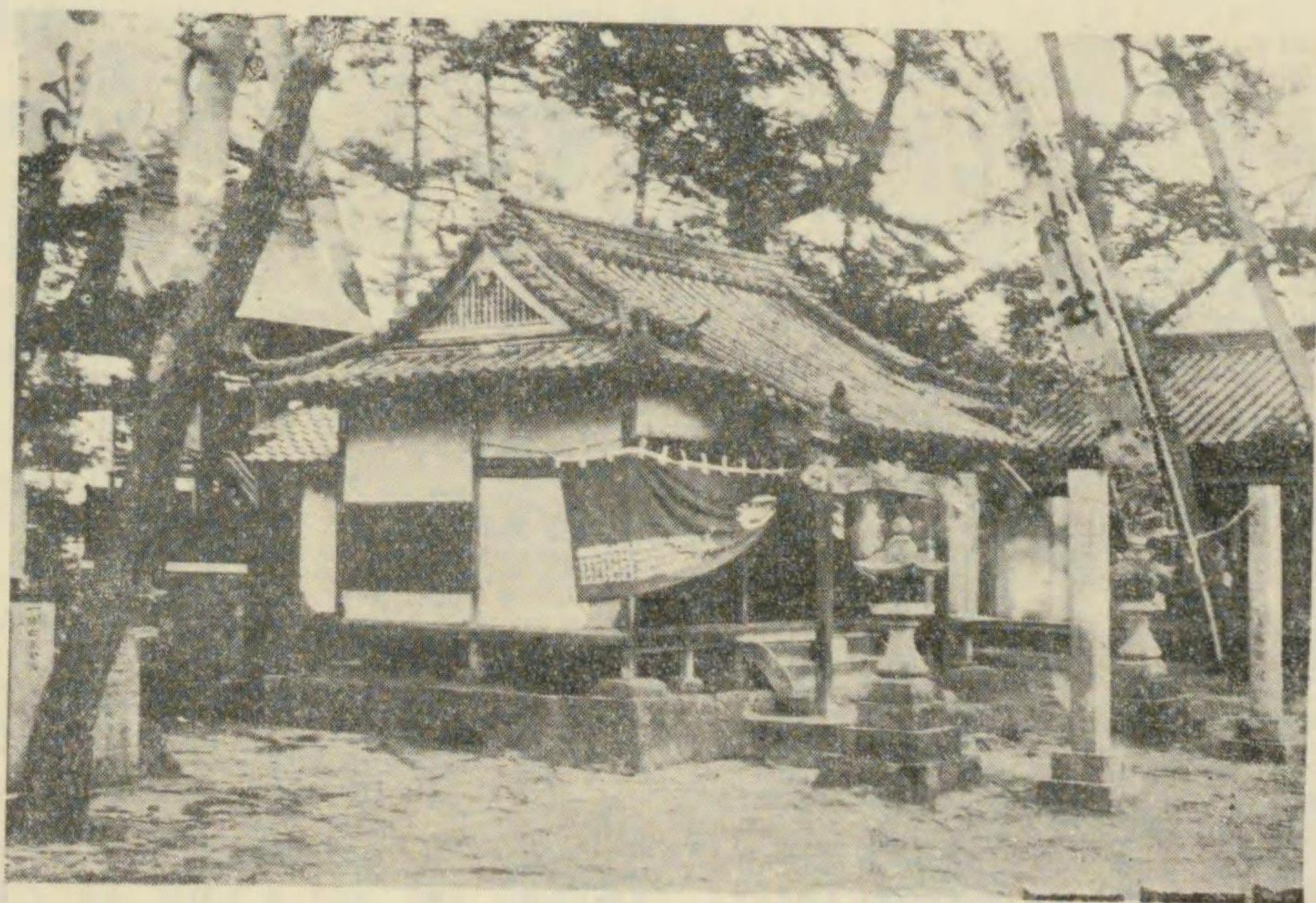
(境内祖靈社 社守大西曾代吉の祖先を祀ると云ふ)

(三八) 村 荒魂神社 豊田村大字新田字粟屋

祭神 大物主神荒魂(一に曰 大物主命)

由緒 古くより此の地に鎮座ありしを、慶長四年阿波國よ

り兵右衛門なる者來りて當地を開墾し、後庄屋となりて、その阿波より出づるを以て阿波屋新田と稱し、當社を以て

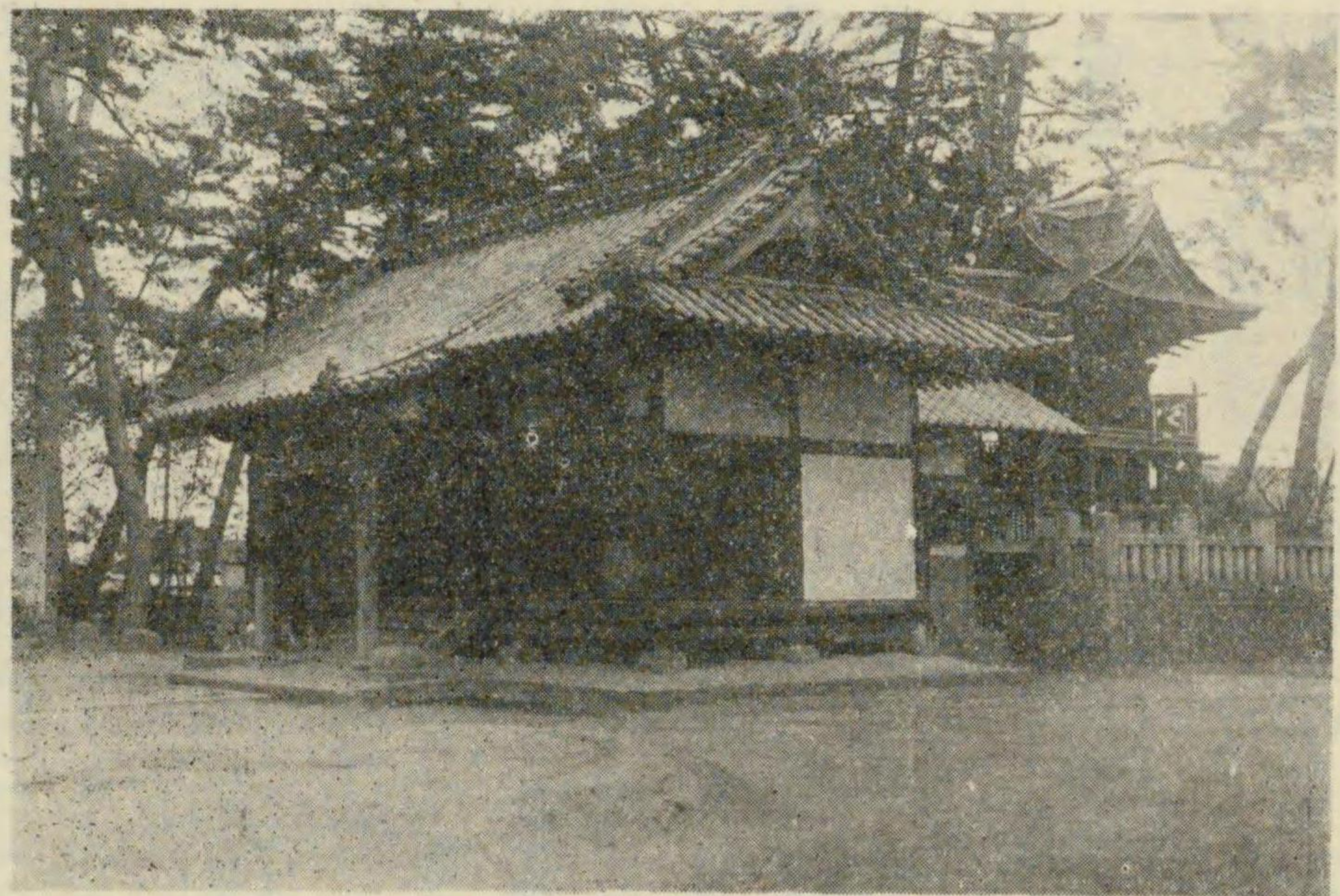


氏神として奉祀せりと云ふ。地名粟屋は阿波屋新田より轉訛せしものにして、社古くは獨立の荒一村なりしが元和二年新田村に合併せられたりと云ふ西讃府志に、『荒神 粟屋ニアリ、此地ノ氏神ト崇ム社地五段』。

全讃史に『三寶荒神在新田村一里社也』と見ゆ。

元祿十年拜殿建築、元文元年本殿建築、寶曆二年社殿修

史に『金安大明神在新田村一社也填安彦命填安姫命爲主矣』西讃府志に『金安大明神……又兵衛楠ヲ以テ祠ヲ造リテ齋ヒ祭



リシヲ、延寶五年村人相謀リテ再ビ其祠ヲ修メ氏神ト崇ムト云、社地一段五畝祠官眞屋筑前』安と見ゆ。神社考には『金安大明神 村社在新田村一所祭未詳按金山彦命填安命蓋鑄工之所祭也』と載

せたり。

元祿七年十月再興、享保七年現地に遷座あり。明治十一年

理、文化八年本殿修繕、天保九年本殿改築、慶應四年拜殿改築、昭和七年本殿改築等あり。
例祭日 十月二十二日
主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所
境内坪數 四百二十坪
氏子區域及戸數 字粟屋 三十六戸

(三九) 村 金安神社 豊田村大字新田字立石

祭神 八意思兼命

由緒 豊田村誌によれば、萬治二年新田村開發の後に又兵衛なる者大病に罹り、辻村大興寺の住職眞澄房へ祈禱並に占を依頼せしに、家の西南に神の在す所を田地に開き穢したる咎なりと云ふ、即ち其所を掘りて楠の大木一本圓石一箇鏡一面を得たり。之を清めて其の所へ小祠を營み、楠木宮と稱へ又兵衛専ら奉仕しけるが、庄屋治右衛門の發議により、曩に掘出せる楠の木を以て小祠を造り氏神として奉祀するに至れり。遷宮師は眞澄房、社人は辻村より萬日なる者を迎へその子祠官となり、眞屋信濃丞と呼ぶ。又兵衛は祝主なるを以て總願となり代々相勤むと云へり。全讃

本殿再建、大正五年本殿御屋根替、大正九年社務所及び神
興庫を新築す。明治四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神
社に指定せらる。

(全讃史 西讃府志 神社考 今名勝圖繪 豊田村誌)

例祭日 十月二十二日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神興庫 社務所

寶物 棟札一點 鏡一點

境内坪數 七百十九坪

氏子區域及戸數 大字新田(粟屋を除く) 二百三十戸

(境内祖靈社 西山神社 西山九郎右衛門兼貞之靈を祭る)
西山九郎右衛門は粟井村の人なり。萬治二年父と共に新田村に移
住し開拓を爲す。寛文元年粟井村奥谷池を築造し、新田村の庄屋
となる新田村開發の人なり。後藩吏の惡む所となり正徳三年六月
十七日死に處せらる。世に斬られ庄屋と稱す。村民その徳を慕ひ
享和三年金安神社境内に祠を立て、六月十七日を
以て祭日とし厚く崇敬す。(豊田村誌 西讃府志)

(三〇〇) 荒魂神社 豊田村大字原字有廣(野田)

祭神 大物主神荒魂

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社。西讃府志に『三寶荒

神祠 野田ニアリ 社地二段七畝 社僧大通寺 祠官眞屋

筑前』と見ゆ。

は、田中半左衛門なる人の開墾にかゝると傳へらる。當社
は當所の開拓者として田中半左衛門を祭れるなりと。

祭日 陰曆九月九日 主なる建造物 本殿

境内坪數 百五十九坪 崇敬者人員 約六十人

二九 粟井村

(三〇一) 嚴島神社 豊田村大字原字青塚

祭神 市寸島比賣命

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社 西讃府志に『辨天祠

青塚ニアリ 昔清少納言此地ニ來リテ是ヲ祭レリト云』と

見ゆ。

祭日 十月二十二日 主なる建造物 本殿

境内坪數 二百五十八坪 崇敬者人員 百〇五人

(三〇二) 今宮神社 豊田村大字原字小立岡

祭神 闇山祇命

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社。西讃府志に『今宮祠

小立岡ニアリ 社地五畝』と見ゆ。

祭日 十月二十二日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

祭日 十月七日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 八百九十二坪 崇敬者人員 三百三十人

境内神社 高良神社(武内宿禰命)

(三〇三) 金神社 豊田村大字原字内田原

祭神 伊弉許理度賣命 大物主神荒魂

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社。西讃府志に『金神祠

荒神祠 原ニアリ 二祠相殿金神へ往昔鑄物師此地ニアリ

シ時祭ルト云。神社考に『金神宮村社在原村ニ所祭金山彦

命傳云昔鑄工多居于此ニ因所祭也今移居ニ辻村』と見ゆ。

祭日 十月二十二日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 百二十坪 崇敬者人員 三百人

(三〇四) 若宮神社 豊田村大字原字小立岡

祭神 半左衛門靈

由緒 辻村郷社菅生神社境外末社。由緒詳ならずと雖も

當地は往昔野田原とて原野なりしを開墾して野田の原村と

いひ、後單に原村と稱するに至れり。中にも小立岡等の地

境内坪數 百七十坪 崇敬者人員 約九百人

境内神社 須賀神社(武速素盞鳴尊)

(三〇五) 縣栗井神社 栗井村字射場

祭神 天太玉命

相殿 天照皇大神 月讀命 保食命

由緒 延喜神名式に『讚岐國刈田郡栗井神社名神續日本

後紀に『承和九年十一月乙卯讚岐國栗井神預之名神』と

ありて、當國式内二十四社の一にして名神大社なり。而し

て延喜臨時祭式名神祭二百八十五座の内『栗井神社一座

讚岐』と載せられ、事實名神祭にも預らせ給へり。三代實

錄に『貞觀六年冬十月十五日戊辰授讚岐國正六位上粟井

神從五位下』とありて、永徳元年には正三位に昇らせらる。

上古讚岐の忌部等阿波國より迎へて奉齋せりと傳へられ、

阿波忌部社傳に、天日鷲命三十一代武持の二男久名なるも

の、時當所に奉遷せりと云へり。古くは刈田大明神と奉稱

し、刈田一郡を以て神供料に充て奉りしを以て郡名を神田郡と云ふと云ひ、後の豊田郡これにして以てその宏大なりしことを察するに足るべく、村名粟井も亦この神の坐すによりて起ると云ふ。尙三豊郡史に本郡に於ける上代古墳は本村を中心として豊田、紀井、辻、萩原其の他各村にありて、當地が夙に開明の域にありしことを立證するに足ると云へり。古くは現今の鎮座地より五六町ばかり南にありしが、火災にかゝりて今の所に遷座せられたりと。

慶長八年二月生駒讃岐守の臣佐藤掃部祭供料として米一石六斗を献納し、元和六年九月國主生駒正俊本殿を再建し西島八兵衛之尤をして代拜せしむ。元和七年八月西島八兵衛常夜燈一對を奉納せり。寶曆五年二月丸龜藩主京極佐渡守高短、神名扁額一面と樹木及び田一段二畝を奉納、明治四年四月丸龜藩主京極朗徹雪洞一對及び幕を奉納す。明治十二年八月十二日縣社に列せられ、同四十年三月二十二日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

(生駒記 全讚史 西讚府志 神社考 今名勝圖繪 官社考證 三豊郡史 特選神名牒)

例祭日 十月二十六日
特殊神事 百々手祭 二月二十八日

(明細帳には後龜山帝に供奉して移住すあり)平内に二子ありて兄を源左衛門弟を源三郎と云ふ、寛正五年夏四月より百日餘雨なく、兩人龍王神に祈雨す。時に夢告により今の鰻淵を掘りしに清水湧出し小鰻出で、岩上に上りしに忽ち大雨あり。依て兄弟この祠を建つと云へり。

荒魂神社 (大國主大神) 元祿四年九月二十七日大西備中守源元守國祐の孫大平傳兵衛創立すと云ふ。

與禮神社 (天太玉命)

飛羅岐神社 (天太玉命) 右二社は粟井神社を阿波國より奉遷せし時、里民の奉迎せし舊跡に粟井大神の御分靈を奉齋せしものなりと傳へられ、生駒記に「粟井村奥谷ト云フ所ニ飛羅伎ノ神社ト與連神社ト申スニ社ノ舊跡アリ是太玉ノ命阿州ノ忌部ヨリ當國ニ移リ給フ節國人等迎ニ出テ餉器ヒラキソテ飛羅岐ト云ヒ又是ヘ御寄レト願ヒシ所ヲ與連ト云フ、兩社共ニ太玉命ヲ祝ヒシ所ノ由農夫古老共申ナリ」とあり。全讚史に「飛羅伎神社在粟井村奥谷一里社也土人云昔忌部氏奉ニ粟井明神ニ從レ阿來開ニ行厨於ニ是因遂立レ祠曰ニ飛羅伎神ニ也祈ニ此神ニ則妖怪忽亡矣因記之……御與連神社在二同村……亦里社也」とあり。後境内に遷座せり。(全讚史 生駒記 西讚府志)

地神社 (天照皇大神)

(境内祖靈社 祭神は天日鷲命とも、粟井神社を) 當地へ奉遷せし神なりとも云ふ。

(三六) 村 於 神 社 粟井村字上野

祭 神 譽田別命

合祀祭神 素盞男之命

三 豐 郡

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神輿庫 社務所 神樂殿 寶庫 繪馬殿

寶物 扁額 京極高一點 鏡四點

境内坪數 三千八百三十九坪

氏子區域及戸數 粟井村 四百二十戸

境内神社 須賀神社 (素盞鳴命 高御産巢日神 應神 天皇 市杵島姬命 天日鷲命 少彦名神 天照皇大神 壇安姬神 大己貴神 保食神 武内宿禰命 菊理姬命)

正徳三年九月母神山より遷座せりと云ふ。西讚府志には元祿八年の遷座とあり。明治四十五年宇下末信荒魂神社を合祀、大正三年宇下常次高木神社、宇上本庄荒魂神社、須川神社、宇下竹成巖島神社、宇射場御膳守神社を合祀、大正五年宇北峰地神社、宇下竹成住吉神社、宇上常次荒魂神社、宇母神白山神社、宇大飛荒魂神社を合祀す。(西讚府志 神社考)

杉尾神社 (大穴貴命)

官社考證によれば、粟井神社火災の爲め此處へ遷座以前此地に地主の神と云ふ小社ありしが當社にして、當社即ち刈田神なるべく、粟井神社遷座以後自然粟井神社を刈田神社と稱するに至りしものならむ、日本紀略に「延喜六年二月七日授讃岐國刈田神從五位下」とありて、粟井神社は貞觀六年從五位下を授け奉れるものなれば再び從五位下を奉るべきものはと云へり。三豊郡史に「祭神詳ならざれども、神祇志に武内宿禰なるべしと云へり。思ふに宿禰の裔なる刈田氏の紀伊郷に蔓延せしこと前述の如くなれば此の地在住の紀氏なる刈田氏が其遠祖なる武内宿禰を祭れるものなるべしと載す。(官社考證 同附録 三豊郡史)

稻荷神社 (豐受之大神)

應永元年大和國高市郡別所平内なる者粟井村奥谷に移住せり。

由 緒 延喜神名式に「讚岐國刈田郡小於神社」とありて延喜式内讚岐國二十四社の一とす。中古廢絶せしを、寶曆五年丸龜藩主京極高短再興して鳥居額を奉納すと云へり。生駒記に「於神社 不詳 粟井村上野ト云フ所ニ有ル森ノ由、上野神トモ申ス山云々。西讚府志に「於神社 上野ニアリ式内二十四社ノ一ナリ、八幡宮又若宮トモ云、祭神詳ナラズ、先公ノ額アリ」。讚州府志ニ「土人上野八幡宮若宮トモ云祭神ハ壇安姬命或ハ應神天皇ト云モ未ダ一定セズ」とあり。神社考には「於神社村社在粟井村一今稱ニ上野八幡宮ニ是也於訓字倍此字常在ニ文之上故與ニ上字ニ同訓」と見ゆ。官社考證に「祭神不詳あるひは壇安姬命 讚留靈記附録 又は八幡大神なりとも 廿四社名目 云ふ。共におぼつかなし」云々とあり。(全讚史 生駒記 西讚府志 今名勝圖繪 讚州府志 官社考證 神社考 三豊郡史)

大正三年 宇上 荒魂神社を合祀す。

例祭日 十月二十五日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

寶物 扁額 京極高一點 棟札一點

境内坪數 二百六十四坪八合二勺五才

氏子區域及戸數 粟井村 四百二十戸

三〇 紀伊村

(三七) 村雨之宮神社 紀伊村大字丸井字平岡

祭神 天照

皇大神

(一)に曰

高麗神

闇麗神

合祀祭神

大物主命

大山祇命

魂之祖命

天目一乃

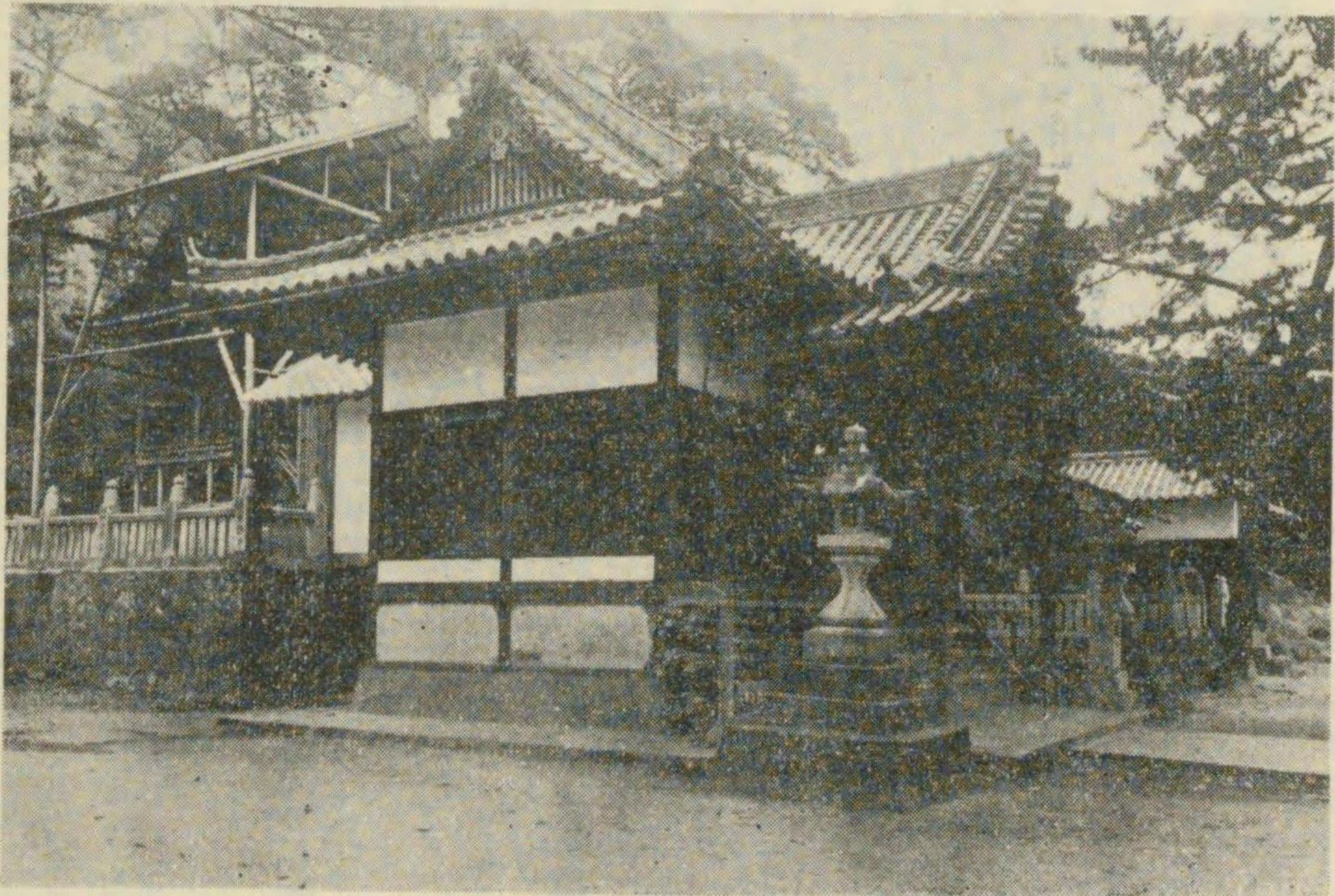
命 猿田

彦命 應

神天皇

由緒 全讚

史に「雨宮



社神宮之雨社村

大明神在丸井村一社也十輪寺主其祠。神社考に「雨宮大明神村社在丸井村」所祭未詳按水波女命或高麗神闇麗神。西讚府志に「雨宮大明神祭祀九月九日、社林南北七十間東西三十三間、社僧十輪寺神子一人」と見ゆ。明治十一年幣殿及び拜殿を新築し、同二十八年本殿を改築す。

明治四十五年^{宇山}荒魂神社、^{宇大}河内山之神社、^{宇山}寶田神社、^{宇山}字豊 銀神社、^{宇川}幸之神社、^{宇川}大神社、^{宇平}荒魂神社を合祀す。

例祭日 十月二十日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神輿庫 社務所

境内坪數 二千七百四十坪

氏子區域及戸數 大字丸井 百五十三戸

境内神社 伊勢宮(天照皇大神)

(三八) 社頂懸神社 紀伊村大字青岡字天神

祭神 大己貴命 須勢理比女命

由緒 古くは藏王權現、又鎮宮權現と稱へられ、西讚府志に「藏王權現昔鎮宮權現トモイヘリ、祭祀九月九日、社地八畝、社僧延命寺、祠官三谷駿河」とあり。

(三九) 社千尋神社 紀伊村大字木郷字三谷

祭神 伊邪那岐命 伊邪那美命

合祀祭神 和田姫命 素盞鳴命 高麗命 大國主命

由緒 景行天皇の皇女和田姫命この地に來住し給ひ創祀せらるゝ所と傳へられ、西讚府志に「千尋大明神 祭神伊邪諾尊伊邪冊尊 木下大明神 祭神和田姫命 二社相殿……相傳フ和田姫ハ景行天皇ノ皇女ニテ、神櫛皇子ト共ニ此國ニ降り玉ヒ爰ニ住玉フ、比地中村ナル兔上トコ、ナル羽上トヲ陰陽ノ山ト見定メ玉ヒ、二柱神ハ此姫命ノ祭り玉フト云」云々と載せ、木下大明神は木郷の里に和田姫命を祭りたるものなりしを、年月不詳(三豐郡史に天正の亂火災にかり)氏神千尋大明神に合祀せしものと云ふ。神社考に「千尋大明神郷社所祭伊邪冊尊在羽上山傳云三野郡有兔上大明神在兔上山所祭伊邪諾尊兔上與父神一羽上與母神訓通按萬葉集丹比真人詠筑波岳歌……千蔭曰此山峯並有男女二神各坐一峰相對故云播磨國有陽頭山亦祭二神一本州北條郡亦有男山女山所祭同諸國此類猶多……神代紀曰伊邪冊尊生火神時被灼而神去矣故葬于紀伊國熊野之有馬村焉松下見林曰有馬村產田宮乃冊尊神

例祭日 十月十四日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所

境内坪數 五百三十坪

氏子區域及戸數 大字青岡 柏原 百戸

境内神社 荒魂神社(大汝貴命荒魂)

(三九) 社頂懸神社 紀伊村大字福田原字下所

祭神 大國主命 須勢理姬命 大物主命 大己貴命 猿田

彦命

由緒 古くは藏王權現と稱へられ、明治三年頂懸神社と改稱す。大正二年字坂下なる村社頂懸神社(祭神猿田彦命)へ移轉して二社を合併し、更に舊鎮座地なる現社地へ遷座せり。神社考に「藏王權現村社在福田村」と見え、西讚府志に「藏王權現、祭祀九月九日、社林四段六畝、社僧十輪寺、神子一人」とあり。

例祭日 十月二十日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所

境内坪數 八百七十八坪

氏子區域及戸數 大字福田原 六十戸

去之地……蓋此神自紀伊所移而鄉名紀伊也猶山城國稻荷神社移于紀伊而號紀伊也紀伊本作木國和銅年間改今字土俗云木訓與姬音同故此鄉本與姫同鄉而後相別者蓋訛傳也千尋名未詳其所出とあり。又西讚府志紀伊郷の條に『今按攝津國風土記ニ比賣島松原、昔輕島豐阿伎羅宮御宇天皇之世新羅國有女神遁去其夫來住筑紫國岐伊比賣島乃曰此島者猶不遠若居此島男神尋來乃遷來停此島故取本所住之地名以爲島號トアリ、又和名抄ニ肥前國基肆郡姫社郷見ユ、此女神トイフハ日本書紀古事記等ニ見エタル姫社神ニテ此處彼處ニ夫ヲ遁レンコト見エタリ、サテ和田姫トイヒ傳ヘタルハ此姫社神ニテハアラヌカ……サラバ紀伊姫ナドノ郷名右ニ引ケル風土記ノ説トヨク合ヘリ』とあり。尙三豊郡史には紀伊郷の名は武内宿禰の裔たる紀氏によれること明なりと云へり。當社棟札に『紀之郷千色大明神宮一字 元和元年十一月七日大檀那孫兵衛』、『奉建立千紀大明神宮一字 寛永十二年八月吉日 大檀那高橋久太郎』とありて千色大明神と奉稱されしことあり。其の後安永七年神輿庫再興、享和三年拜殿修覆、文化十三年本殿再建、文政八年木下大明神一字葺替、文政十一年御輿庫再建の棟札あり。當社は羽上山(母神

山)西麓に鎮座ありしを昭和九年請川奎治等村民と謀り山頂を開拓して本殿拜殿を新築し、同年九月二十七日遷座式を執行せり。現社地よりは開墾の際多數の古土器類を出土せりと。(西讚府志 神社考 三豊郡史)
明治四十五年字田丸荒魂神社、字道荒魂神社、字片龍王宮、字柿木下神社、川原地神社を合祀す。

例祭日 十月十五日
主なる建造物 本殿 拜殿 拜所 神饌所
境内坪數 二千九百九十一坪
氏子區域及戸數 大字木ノ郷及び百々 二百五十一戸

(三三) 須賀神社 紀伊村大字木郷字山田

祭神 須佐之男命
由緒 紀伊村村社千尋神社境外末社
明治四十五年字道上荒魂神社を合祀す。
祭日 十月十四日
主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神饌所
境内坪數 九百四十八坪 崇敬者人員 約百七十五人

(三二) 大山積神社 紀伊村大字丸井字瀬戸

祭神 大山祇命
由緒 不詳
祭日 十月十三日 主なる建造物 本殿
境内坪數 二百四十坪
境内神社 嚴島神社(市杵島姫命) 舊鎮座地不詳。明治三十五年移轉して境内神社となす

三一 萩原村

(三〇) 村井上神社 萩原村字岡之山

祭神 天照大神 市杵島比賣命 多紀都比賣命 田紀理比賣命
合祀祭神 大物主命 大山祇命 少彥名命 木花咲耶姫命 高皇產靈神
由緒 往古より村内に松井神社、宗像神社の二社ありて、松井神社は井上大明神と奉稱され上社と云ひて字東中村に鎮座し、宗像神社は下社と云ひて字西ノ後に鎮座ありしを



舊鎮座地は古宮と稱へ共に其の跡を存す。生駒記に『松井神社、上村ノ宮ト號ス、今井上大明神ト稱ス、所祭上二座、罔象女神命 相殿少彥社名命 貞觀中勅授從五位下……宗像神社 田心姫命 孝徳天皇ノ御宇豊前

國岡島ヨリ鎮座シ給フ由……天照太神宮ノ姫御子ニ座シ給フ故ニ此郷ヲ姫ノ郷ト曰フ由社家ノ傳記ニ之ヲ載ス』

とあり。西讃府志に「井上大明神 祭神天照大神 宗像大明神 祭神田心姫命 相殿少彦名命……社林五町三段社僧地藏院新藏坊 祠官眞鍋薩摩」云々とありて、三代實録に「元慶元年夏四月七日戊寅授讃岐國正六位上松井神從五位下」とあるは當社なりと云へり。一説に延喜神名式に「讃岐國刈田郡小於神社」とあるは當社ならむかと云ふ。又宗像神は、全讃史に「孝德帝御宇從筑前迎之云蓋當時有從筑紫來住者也」と見え、讃岐海部と關係深き神社なるべしと云ふ。明和三年、當社の祠官眞鍋大隅の記せる宗像井上二社記と云ふものありて、西讃府志に見ゆ。明治三十年社殿火災ありて、同三十五年再築せるもの現今の社殿なり。明治四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

境内の風光眺望よくして四時賽客絶えず、梅花の頃は殊に多し。陸軍砲兵實彈射撃場に隣接し第十一師團歴代將星の崇敬厚し。(生駒記 全讃史 西讃府志 神社考 官社考 證 同附録 讃岐通史 三郡豊史)

明治四十三年^{字切}荒魂神社、^{字西}荒魂神社、^{字池}山ノ上神社、^{字東}井上神社、^{字中}中將神社、^{字西}産靈神社、^{字後}基宮神社、^{字早}瘡神社、^{字嘉}聖子神社、^{字萬}坊荒魂神社を合祀す。

九日、祠官三谷駿河太刀一口アリ、有木左衛門ノ納ム處ト云、生駒記曰……今按ニ有木左衛門ハ鎌倉ノ落人トイヘリ、左衛門、有盛ノ卿是非詳ナラズ、疑クハ有盛ノ卿コ、ニ隠レ玉ヒシ時、姓名ヲ有木左衛門ト變シナルベシ」と載せたり。正徳年間の阿彌陀堂記には「讃州豊田郡有木邨阿彌陀堂者辨ニ章其舊聞……文治比……平家武士有ニ左衛門尉某者……始開ニ於此地……有ニ餘力ニ建ニ立小堂一字……建立之日有ニ老翁來助ニ其功問之即曰吾是山神感ニ汝深志ニ權現ニ干此ニ自今以後宜ニ護ニ汝末ニ莫ニ敢ニ爾葬ニ告了化去云々遂造ニ小社ニ爲ニ所鎮守ニ今三部大明神是也」其始有付之義地名曰有付後改ニ有木」とありて、當社は有盛の創建する所とせり。有盛奉納の太刀は慶長年中國守生駒一正之を高松の武庫に收めしに城中數々怪異ありて又當社に復せりと云ふ。

(生駒記 全讃史 古名勝圖繪 西讃府志 神社考 三豐郡史)

明治四十三年^{字落}大山祇神社、^{字合}八幡神社、^{字荒}荒魂神社、^{字川}山神社、^{字山}山神社、^{字山}山神社、^{字ミ}砂大山祇神社、^{字山}山神社、^{字唐}山神社、^{字蛇}山神社、^{字口}大山祇神社、^{字野}々々大山祇神社を合祀す。
例祭日 十月二十日

例祭日 十月十二日
主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神輿庫
境内坪數 二千四百八十五坪
氏子區域及戸數 萩原村 三百五十二戸

三二五 郷 村

(三四) 村 三部 神社 五郷村大字有木字本村

祭神 天津彦根命

合祀祭神 大山祇命 應神天皇 大物主神

由 緒 全讃史に「三部大明神村社也祝吏云天兒屋命爲主矣今考之曰神閉于天岩窟也諸神遣天兒屋命而祈之於是天兒屋命掘天香山之眞坂木上枝懸石凝戸邊所作八咫鏡中枝懸天明玉所作八坂瓊曲玉下枝懸忌部所作木綿云々然則石凝戸部天明玉部忌部之三神爲三部也而祝吏失傳謬爲此說耳」。生駒記に「姫ノ郷ノ中ニ有木村ト云フ山家ノ村アリ谷間ニシテ隠レ里ナリ、昔元曆ノ戰終リテ小松少將有盛隠レ居タル由、此村三寶荒神ヲ以テ産階神トス、則チ素盞鳴尊ナリト云フ。有盛幣料ノ太刀ヲ奉納シ今ニ有リ」とありて、西讃府志に「三部大明神 祭祀九月

主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 九十二坪

氏子區域及戸數 大字有木 五十戸

(三五) 村 瀧宮 神社 五郷村大字井關字宮本

祭神 須佐之男命 瀬織津姫命

合祀祭神 大物主命 猿田彦命

由 緒 西讃府志に「瀧宮大明神 祭神素戔鳴尊 祭祀九月九日 社林四段 社僧地藏院 祠官三谷駿河」と見ゆ。明治四十年^{字後}荒神社、^{字保}森木神社を合祀す。

例祭日 十月二十日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 千三百二十六坪

氏子區域及戸數 大字井關 百十七戸

境内神社 荒神社(荒魂神)

(三六) 孫嫡子神社 五郷村大字井關字辻ノ山

祭神 稻舂脛命

由緒 西讚府志に「相傳フ、明曆一年ノ春痘瘡大ニ流行ス、死セル者オホカリ、時ニ村人佐伯太郎左衛門乘宣トイヘル者男子七人アリ、大ニ是ヲ憂フ、一夜ノ夢ニ、我ハ驚大明神ナリ、我ヲ齋ヒ祭ラバ此難免ルベシ、昔シ長徳四年六月八日越前國南條郡陽尾ノ峠ニ顯レシ孫嫡子ノ神トイフモ我コトナリト告玉フ、是ニ於テ乘宣其言ノマ、ニ祠ヲ立テ齋ヒ祭レリ」云々と見え、全讚史には「孫嫡子祠在井關村ニ村社也爲ニ痘瘡護ニ矣社傳云昔安部清明與ニ加茂保憲ニ歷ニ遊天下ニ到ニ越前亥野音下ニ腰レ石而休時有ニ老翁云子何爲者保憲曰吾監ニ人生涯之運氣救ニ其患ニ者也清明曰吾是爲ニ祈禳ニ濟ニ人之患難ニ者也翁曰吾是爲ニ瓊々杵尊ニ使ニ天下人痘瘡ニ者也二人曰然則吾濟ニ救患ニ痘者危急ニ矣遂三人相作而行後越前有ニ嫡子患ニ痘死者其孫亦患ニ痘祈ニ此神ニ而得ニ全終立レ孫爲ニ嫡子ニ而其家綿々因ニ此世稱ニ此神ニ曰孫嫡子今曰孫赤子ニ訛世此祠中央爲ニ瓊々杵尊ニ左爲ニ加茂保憲ニ右爲ニ安部清明ニ祭田朱印百五十石 御炊黒門太夫於ニ越前亥野音下ニ嚴然存焉然今井關村有ニ此祠ニ者蓋昔從ニ越來者迎而祠レ之也 雲邊寺及三谷日向主ニ其祭」と載す。又神社考に「孫嫡子大明神村社在ニ井關村ニ所祭瓊々杵尊按天照太神當ニ以ニ葦原中國ニ授レ之吾勝尊ニ而皇孫瓊々杵尊年既長久

是以授ニ之皇孫ニ蓋有ニ以レ孫爲ニ嫡子ニ之義ニ故有ニ此稱ニ也越前國有ニ孫嫡子社ニ世稱ニ痘瘡神ニ又式有ニ尾張國愛智郡孫若御子神社ニ蓋與レ之同神」と見ゆ。

(全讚史 西讚府志 神社考)

祭日 八月十日 主なる建造物 本殿

境内坪數 百四十坪 崇敬者人員 百十五人

(三七) 龍王神社 五郷村大字井關字山旗

祭神 水分命

由緒 不詳

祭日 八月十五日 主なる建造物 本殿

境内坪數 二十坪 崇敬者人員 五百六十一人

(三八) 鎌倉神社 五郷村大字田野々字廣野

祭神 景政靈

合祀祭神 大物主命 大山祇命 大日留賣命 水分命 大

國主命

由緒 全讚史に「鎌倉大明神在ニ田野村ニ村社也少彦名命爲

(三九) 村三部神社 五郷村大字内野々字砂

祭神 天津彦根命

合祀祭神 大山祇命

由緒 西讚府志に「三部大明神 祭祀九月九日 社林二段

社僧地藏院 祠官三谷駿河」と見ゆ。

明治四十二年^{字奥}野山神社を合祀す。

例祭日 十月二十日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 千三百十四坪

氏子区域及戸數 大字内野々 五十戸

(四〇) 土竈神社 五郷村大字内野々字砂

祭神 猿田彦命

由緒 不詳

祭日 九月十五日 主なる建造物 本殿

境内坪數 二坪 崇敬者人員 三十五人

主矣土人云法泉寺主レ之先有ニ美田左衛門者負ニ彌陀及明神像ニ來立ニ祠及寺ニ以居レ是以及レ今」とあり。西讚府志に

よれば、鎌倉の落人飛田左衛門尉常清なる者、僧親鸞に歸依し、親鸞より授かりし佛像を持ちて此の地に來り草庵を

營みしもの即ち寶泉寺にして、常清薙髮して淨信と云ひしが正元元年九月五日入寂せりと見ゆ。神社考に「鎌倉大明

神村社所祭權五郎景政」と見ゆ。

(全讚史 神社考 西讚府志)

明治四十三年^{字下}荒魂神社、^{字竹}谷大山祇神社、^{字繩}古宮神

社、^{字新}砂古神社、^{字尾}龍王神社を合祀、大正二年^{字美}田鎮守

神社を合祀、大正四年^{字繩}大社神社を合祀す。大社神社は

西讚府志に「大社大明神 妙兒大明神 二社相殿……社

林四段祠官眞屋山城」とあり。

例祭日 十月二十日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 七百十五坪

氏子区域及戸數 大字田野々 百十三戸

境内神社 伊勢神社(天照大神)

(三五) 捧賀神社 五郷村大字海老濱字谷口

祭神 大物主神

合祀祭神 天照大神 大己貴命 少彦名命 埴安命 保食

命 水分神 大山祇命

由緒 西讃府志に『捧賀大明神 祭神大物主神 祭祀九月

九日 社林一段一畝 祠官眞屋山城』とあり。神社考に『捧賀大明神村社在海老濱村』所祭大己貴命按大神調於保牟和或於保賀蓋於保賀之轉訛也式有三大神神社所祭與之同』と載す。而して海老濱の地名は、日本武尊蝦夷を征し給ひ、捕虜の蝦夷を伊勢神宮に獻ぜしが後之を五ヶ國に配置し、讃岐も其の一にして當地エビスクヒは夷組なりと云へり。西讃府志に『捧賀へ大神ヲ訛レルニテ即三輪神ノコトナレバ、彼蝦夷等漸王化ヲ蒙リシヨリ皇國風ニ心化テ、其初メアタリニ住シ程ヲ思出シテ彼大神ヲ祭リシニヤモアラン』と云へり。元祿八年拜殿建立、文久三年本殿再築等の棟札あり。明治四十二年字中山口より現地に遷座す。
(全讃史 西讃府志 神社考)
明治四十二年 字岩 石砂神社、字中地神社、字石龍王神社・大山祇神社を合祀す。

荒魂神社、字尾 金能神社、字前 前田神社を合祀す。

例祭日 十月十七日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 八百十四坪

氏子區域及戸數 和田村 五百戸

境内神社 靈神社(天之水分命)

(三五) 藤之森神社 和田村大字和田字岡向

祭神 猿田彦命

由緒 和田村村社五十鈴神社境外末社

主なる建造物 本殿 拜殿 境内坪數 九十四坪

崇敬者人員 百十四人

(三五) 須賀神社 和田村大字和田字岡

祭神 素盞鳴命

合祀祭神 大物主命

由緒 和田村村社五十鈴神社境外末社。

明治四十二年 字荒 荒魂神社を合祀す。

祭日 十月二十日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所

寶物 棟札四點 境内坪數 四百五十坪

崇敬者人員 二百八十四人

三三三 和田村

(三五) 村 五十鈴神社 和田村大字和田字寺山

祭神 天照大神 保食命

合祀祭神 大物主命 市杵島比賣命 級津彦命 級津姫命

事代主命 大山祇命 金山彦命 月讀命

由緒 明治四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

明治四十四年 字前 荒魂神社、字棚 荒魂神社、字向 荒魂神社、地神社、字吉山 産靈神社、字山 荒魂神社、字丸 荒魂神社、字新 荒魂神社、字船 船岡神社、字梶 嚴島神社、地神社、荒魂神社、岡 船岡神社、字梶 嚴島神社、地神社、荒魂神社、地神社、荒魂神社、荒魂神社、岡地神社、字西山 地神社、字飛 蛭子神社、字中 荒魂神社、字谷山 山田 荒魂神社、吉田神社、字雲 岡

主なる建造物 本殿 拜殿 境内坪數 百三十八坪

崇敬者人員 百九十五人

(三五) 大西神社 和田村大字和田字道溝

祭神 猿田彦命

由緒 和田村村社五十鈴神社境外末社

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 百二十坪 崇敬者人員 三百三十三人

(三五) 荒魂神社 和田村大字和田字道溝

祭神 大物主命

由緒 和田村村社五十鈴神社境外末社

主なる建造物 本殿 拜殿 境内坪數 二十四坪

崇敬者人員 八十四人

(三五) 村 田神社 和田村大字箕浦字宮ノ下

祭神 大己貴命

合祀祭神 保食命 水波女命 金山彦命 大山祇命 猿田

彦命 事代主命 大物主命

由 緒 全讃史に『神田大明神在_三蓑浦_一村社也天目一箇神爲_レ主矣鍛冶之初神也神田大和主其祭』とあり。神社考に『神田大明神村社在_三蓑浦村_一所_レ祭平將門』。又西讃府志に『神田大明神 祭神平將門 祭祀九月九日 社僧宗林寺』と見ゆ。三豊郡史によれば、天慶の時、藤原純友等の亂を起すや、豊田郡は伊豫に隣接せるを以て夙に其の配下に屬せり。當社に平將門を祭りしは純友等徒黨の者の、將門に呼應して勢力扶殖に資せむとする所よりなるべしといへり。明治三十五年拜殿を新築す。明治四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

(西讃府志 神社考 三豊郡史)

明治四十一年_宇鳥越_越鳥越神社・同境内神社由賀神社を合祀、翌四十二年_宇堀荒魂神社を合祀、明治四十三年_宇山龍王社・大山祇神社・大山祇神社、_宇四ノ松神社、_宇地神社、_宇荒魂神社、_宇岩本神社、_宇蛭子大神、_宇大山祇神社、_宇井之神社を合祀す。

例祭日 十月二十日

主なる建造物 本殿 拜殿

平田正重 平田正純

由 緒 當社所藏の元祿六年の大野原氏宮正八幡宮本社幣殿拜殿建立書の中に『右之意趣細棟札依_レ難_レ書載_一此一縫記箱内納_レ之 當社者上古雖_レ爲_レ大社_一因_レ數世罹_レ兵燹_一自廢墟矣 從_レ其已來以_三社跡之塚穴_一仰而爲_レ社 當_レ寛永二十癸未年_一京師之任人平田與_一左衛門正重_{入道}圓龜城主山崎甲州公江願上便訴_二于江府_一許容_下嚴命_一甲太守任_二衆意_一令_レ之發_二仍平田正重永代之請所拜_レ領_レ之子孫傳_レ之也 其砌高松城下之任人工匠作太夫爲_レ棟梁_一奉_レ寶殿建立_一云々とあり。三豊郡史に『八幡宮は里人之を太子殿とも稱し久しく荒廢して塚穴の中に祭りしが平田氏此地を開墾するに當り地主神の祟を恐れ、一夜靈夢に感じて一宮一刹を建立せり。大野原村八幡宮及慈雲寺是なり』と載す。

大野原村には古墳甚だ多く、當社が鎮座ありし椀貸塚は縣下最大の古墳なり。當村は奈良朝以前は頗る發達せしが其の後荒廢して久しかりしを西島八兵衛之が開墾に着手して果さず。寛永二十年京都鹿ヶ屋の人平田與_一左衛門正重巨資を投じて開發し、其の子與左衛門之を承けて治績大に擧れり。寛永二十年正重此の地を墾くや、先づ當社の社殿を營みて塚より遷座せしものにして、椀貸塚は西讃府志に

境内坪數 二千二百六十七坪

氏子區域及戸數 大字箕浦 二百五十戸

境内神社 天満神社(菅原神) 祇園神社(素盞鳴命)

(三五八) 七福神社 和田村大字箕浦字西福井

祭神 句々廻馳命

合祀祭神 大己貴命 大山祇命 保食命 大物主命

由 緒 文政八年(紀元二四七一)九月の創建といふ。

明治四十四年_宇尾崎若宮神社・大山祇神社、_宇道東地神社・地神社、_宇東金刀比羅神社を合祀す。

祭日 七月二十二日 主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 百二十二坪 崇敬者人員 約五百七十人

三四 大野原村

(三五九) 郷八幡神社 大野原村大字大野原 字椀貸塚

祭神 足仲日子命 譽田別命 息長帶姫命(二に曰 配祀)

『椀貸塚ハ八幡宮ノ祠後ニアリ、相傳フ昔地主神イマシテ太子殿ト申セリ、穴ノ中ニ入ル者ナシ、アタリノ村人椀ヲ



借サンコトヲ 乞バイツモ此 穴ヨリ出シテ 貸セリ……此 地開キシ時 初テ入ル者ア 郷リ、時ニ八幡 八宮ヲ祭ルベシ 幡ト云神託ア 神リ、因テ今ノ 社ハ建リ、故ニ俗ニ此穴ヲ 八幡宮ノ奥院ト稱リ』とあり。平田氏の社殿建立以後

丸龜藩主京極家の崇敬厚く例祭、臨時祭には幣物を奉り、又藩主自らも參拜ありき。現今の社司宅の正門は元御成御

門と稱し藩主参拜の際にのみ開門せりと云ふ。全讃史に「大野原八幡宮……一郷之社也慈雲寺主其祭時從龜府吏人來監之」と載す。正保三年社殿建築成る。元祿六年夏大早ありて里人當社に雨を祈りしに忽ち靈驗ありて大雨數日に亘り諸人歡喜舞躍せり。依て報賽して本殿の上葺を爲し幣殿、拜殿を建立す。現今の社殿は弘化三年の再建なり。明治五年郷社に列せられ、同四十年九月二十一日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。(全讃史 西讃府志 三豊郡史)

例祭日 十月二十三日二十四日二十五日

特殊神事 神相撲 十月二十四日 氏子中十五歳の少年十五名を選び、内一名行司となりて之を行ふ。

百々手祭 陰曆二月一日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神符守札調製殿 神輿庫 繪馬殿 隨神門

境内坪數 千七百八十九坪

氏子区域及戸數 大字大野原 千百五十戸

境内神社 五十鈴神社(天照大神)

安國神社(進男神 猿田彦神)

荒魂神社(奥津彦神 奥津姫命)

産靈神社(高皇産巢日神 神皇産巢日神)

ニ「應神祠 大野原八幡宮ノ社後椀貸穴ノ上ニアリ、昔ヨリ此村(中姫村)人祭ヲナセリ、一説ニ式内ナル於神社是ナリトイヘリ」と載せたり。中姫村の産土神にして、鎮座地は郷社八幡神社の境内に在りしを以て古來屢々八幡神社と境界を争ひ遂に丸龜藩に訴へ境石を建て、紛争の事止みたり。而して今猶神社の維持、祭典等當社の東數町を隔れる中姫の人によつて行はる。

當社鎮座地は大野原村の中において中姫村の飛地として中姫に屬せしが、明治二十三年飛地取調に際し大野原村の所屬となれり。(全讃史 西讃府志 三豊郡史)

祭日 十月十三日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 四十九坪 崇敬者人員 約七百五十人

(三二) 山 祇 神 社 大野原村大字大野原字高松

祭神 大山祇神

合祀祭神 大物主命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社。西讃府志に「山神祠 高松ニアリ」と見ゆ。

大正六年^{字高松}荒魂神社を合祀す。

琴平神社(大物主神)

松木神社(松木春彦靈)

菅原神社(菅原道真公) 郡内に數萬の崇敬者あり。例祭日たる二月二十五日には参拜者頗る多し。陰曆八月二十五日、臨時大祭なる陰曆

(三〇) 應 神 社 大野原村大字大野原字椀貸塚

祭神 品陀和氣命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社。古くより椀貸塚の東腹に鎮座ありて、古來中姫村の産土神として崇敬せられたり。椀貸塚は周圍七十餘間ありて縣下最大の圓形古墳にして、此の地上代は大に開發せられしが後荒廢して原野となりしを、寛永二十年平田正重の開拓せしものにして當時百七十餘の古墳ありしと云ひ、今猶多數の古墳を存せり。傳ふる所によれば、武内宿禰の裔紀氏この地を開拓して住し、當社は紀氏の崇敬厚かりし神社と云ひ、延喜式内於神社は即ち當社なりと云ふ。西讃府志に「椀貸塚ハ八幡宮ノ祠後ニアリ、相傳フ昔地主神イマシテ太子殿ト申セリ……塚上山ニ應神祠アリ、當時中姫村ノ人此祠ニ事アル時ハ食器皆此穴ヨリ借テ事ヲ行ヘリ、因テ椀貸穴トヨベリ、其後村人はヲ借テ一器ヲ失フ、是ヨリ其事止ト云」又同書

祭日 十月十九日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所

境内坪數 百八十五坪 崇敬者人員 約二百八十人

(三一) 地 主 神 社 大野原村大字大野原字秋下

祭神 天照大御神 倉稻魂命 大己貴命 少彦名神 埴山姫命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 十月一日 主なる建造物 本殿

境内坪數 四坪 崇敬者人員 約三百二十人

(三三) 荒 魂 神 社 大野原村大字大野原字伐留

祭神 大物主神

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 十月二日 主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 二百六十四坪 崇敬者人員 約三百人

(三六) 杉東神社

大野原村大字大野原字杉林

祭神 大物主命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 十月三日

主なる建造物 本殿 神饌所

境内坪數 二十六坪

崇敬者人員 約三百二十人

(三七) 日隅神社

大野原村大字大野原字辻東

祭神 大己貴命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 二月一日

主なる建造物 本殿

境内坪數 五坪

崇敬者人員 約百人

(三五) 杉西神社

大野原村大字大野原字杉林

祭神 大物主神

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 十月三日

主なる建造物 本殿 拜殿 神饌所

境内坪數 四十八坪

崇敬者人員 約二百五十人

(三八) 荒魂神社

大野原村大字大野原字辻東

祭神 大物主命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 二月十日

主なる建造物 本殿 神饌所

境内坪數 八十八坪

崇敬者人員 約五百五十人

(三六) 杉南神社

大野原村大字大野原字杉林

祭神 大物主命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 十月三日

主なる建造物 本殿

境内坪數 七十三坪

崇敬者人員 約三百二十人

(三九) 地主神社

大野原村大字大野原字宮ノ下

祭神 大地主命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 九月一日

主なる建造物 本殿

境内坪數 四十四坪

崇敬者人員 約三百二十人

(三〇) 八雲神社

大野原村大字大野原字宮ノ下

祭神 大己貴命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 九月十五日

主なる建造物 本殿 拜殿

境内坪數 九十六坪

崇敬者人員 約五千七百人

(三一) 稻荷神社

大野原村大字大野原字屋敷

祭神 倉稻魂命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 五月十日

主なる建造物 本殿

境内坪數 十二坪

崇敬者人員 約九十人

(三二) 神風神社

大野原村大字大野原字白坂

祭神 天照大御神

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 五月一日

主なる建造物 本殿 神饌所

境内坪數 五十坪

崇敬者人員 約三百五十人

(三四) 地主神社

大野原村大字大野原字井手下

祭神 大己貴命

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 一月十日

主なる建造物 本殿

境内坪數 十二坪

崇敬者人員 約五十人

(三三) 加藤神社

大野原村大字大野原字岡之塔

祭神 加藤清正靈

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 五月五日

主なる建造物 本殿

境内坪數 十四坪

崇敬者人員 約四十五人

(三五) 荒魂神社

大野原村大字大野原字札場

祭神 大物主神

由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社

祭日 一月十五日

主なる建造物 本殿 神饌所

境内坪數 二十一坪

崇敬者人員 約五百人

(三六) 残水神社 大野原村大字大野原字残水

祭神 大物主神
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 十月十日 主なる建造物 本殿 神饌所
境内坪數 三十七坪 崇敬者人員 約三百十人

(三七) 荒魂神社 大野原村大字大野原字桐ノ木

祭神 大物主神
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 五月一日 主なる建造物 本殿 神饌所
境内坪數 六十二坪 崇敬者人員 約百人

(三八) 琴平神社 大野原村大字大野原字桐ノ木

祭神 大物主神
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 九月十五日 主なる建造物 本殿
境内坪數 三坪 崇敬者人員 約百人

(三九) 下林神社 大野原村大字大野原字下林

祭神 大物主神
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 五月八日 主なる建造物 本殿 神饌所
境内坪數 三十七坪 崇敬者人員 約三百二十人

(四〇) 大井神社 大野原村大字大野原字大井手

祭神 大地主神 倉稻魂命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 五月二十八日 主なる建造物 本殿
境内坪數 五坪 崇敬者人員 約百三十人

(四一) 井中神社 大野原村大字大野原字大井手

祭神 大地主神 倉稻魂命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 九月二十八日 主なる建造物 本殿
境内坪數 六坪 崇敬者人員 約百三十人

(四二) 巖島神社 大野原村大字大野原字林屋敷

祭神 市杵島姫命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 九月十五日 主なる建造物 本殿
境内坪數 三坪 崇敬者人員 約百九十人

(四三) 荒魂神社 大野原村大字大野原字林屋敷

祭神 大物主命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 十月一日 主なる建造物 本殿 神饌殿
境内坪數 四十四坪 崇敬者人員 約三百六十人

(四四) 地主神社 大野原村大字大野原字五屋敷

祭神 大國主神 倉稻魂命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 五月一日 主なる建造物 本殿
境内坪數 十四坪 崇敬者人員 約百二十人

(四五) 井下神社 大野原村大字大野原字大井手

祭神 大地主神 倉稻魂命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 九月二十八日 主なる建造物 本殿
境内坪數 二十二坪 崇敬者人員 約二十五人

(四六) 木外神社 大野原村大字大野原字木戸

祭神 大物主命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 九月十日 主なる建造物 本殿 神饌所
境内坪數 百〇一坪 崇敬者人員 約二十人

(四七) 野田神社 大野原村大字大野原字野田松

祭神 大己貴命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 五月三日 主なる建造物 本殿
境内坪數 四十八坪 崇敬者人員 約二十五人

(三八) 石砂神社 大野原村大字大野原字石砂

祭神 猿田彦命 久那戸神
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 五月五日 主なる建造物 本殿
境内坪数 二十九坪 崇敬者人員 約四十人

(三九) 佐岐神社 大野原村大字大野原字鷺之首

祭神 大物主命
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 十月三日 主なる建造物 本殿 神饌所
境内坪数 三十坪 崇敬者人員 約三百人

(四〇) 荒魂神社 大野原村大字大野原字三軒屋

祭神 大物主神
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 十月二十八日 主なる建造物 本殿
境内坪数 十八坪 崇敬者人員 約百五十人

境内神社 天満神社(菅原道真公)

三神社(菟道和氣郎子命 神皇産魂命 高皇産魂命)

(四一) 荒魂神社 大野原村大字中姫字森下

祭神 大物主神
由緒 大野原村郷社八幡神社境外末社
祭日 九月二十八日 主なる建造物 本殿
境内坪数 百三十一坪 崇敬者人員 約五十人

(四二) 菅原神社 大野原村大字中姫字天神前

祭神 菅原道真公
合祀祭神 大物主命 大名主命
由緒 寛喜二年(紀元一八九〇)の創建といふ。元祿十五年氏子相議りて社殿を再建し、弘化三年修造を加ふ。西讃府志に『天満宮 安井ニアリ社林三段三畝』と見ゆ。大正五年幣殿及び拜殿を新築し、昭和四年三月三十日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

大正二年^{字森}荒魂神社を、同三年^{字森}若宮神社を合祀す。

(四三) 村八幡神社 大野原村大字中姫字監物

祭神 帶日子命 帶日賣命 品陀和氣命
合祀祭神 大物主神 天津日高日子穗瓊々藝命
由緒 傳ふる所によれば、元龜、天正の頃粟井村藤目城主齋藤下總守社殿を造營して氏神と崇敬せりといふ。全讃史に『大社八幡宮在仲姫村二村社也亦曰仲姫宮新藏坊主其祠祝三谷日向』とあり。西讃府志に『八幡宮 宗像宮 二祠相殿 祭祀八月十五日此社八幡ト稱テ一國一社トイヘリ、昔齋藤下總守氏神ト崇メ祭レリ、今良ノ方入口アリ、齋藤門ト云リ、又末社ニ齋藤氏ヲ祭ル祠アリ』と見ゆ。文化年中社殿を再建す。大正三年十月神饌幣帛料供進神社に指定せらる。(全讃史 西讃府志 神社考)
明治四十年^{字監}荒魂神社、^{字南}荒魂神社、^{字赤}荒魂神社を合祀、明治四十二年^{字南}鎮神社を合祀、同四十四年^{字大}鎮神社、^{字蓮}鎮神社を合祀す。
例祭日 十月十五日
主なる建造物 本殿 幣殿 渡殿 拜殿 神輿庫 社番所
境内坪数 二千三百八十六坪一合
氏子区域及戸数 大字中姫 百八十戸

例祭日 十月二十五日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪数 千二百二十四坪

氏子区域及戸数 大字中姫字安居 六十戸

(四四) 村三島神社 大野原村大字花稻字東三島

祭神 大山祇神
合祀祭神 中筒之男命 保食命 金山彦命 大物主命 仁徳天皇 天之水分命 倉稻魂神
由緒 古來三島大明神と奉稱せられ花稻一村の産土神にして、西讃府志に『三島大明神 祭神大山祇命 祭祀九月九日 社地五畝 社僧延命寺 満願寺 神子一人』と見ゆ。大正十一年二月十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。
明治四十二年^{字東}稻荷神社、^{字中}稻荷神社、^{字新}新田神社、^{字西}住吉神社、^{字新}新地神社、^{字切}荒魂神社、^{字子}荒魂神社、^{字若}若宮神社、^{字東}荒魂神社、^{字五}荒魂神社、^{字錢}荒魂神社、^{字荒}荒魂神社、^{字稲}稻荷神社、^{字稲}稻荷神社を合祀す。
例祭日 十月十八日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 神輿庫 社務所

境内坪數 二百四十七坪
氏子區域及戸數 大字花稻 二百十戸

(三五) 一 寶 宮 大野原村大字花稻字東三島

祭 神 佐久夜比女命

由 緒 大野原村社三島神社境外末社。一放宮、寶神社と稱へられしを、明治十九年現社號に改む。西讃府志に「一放宮 祭神木華開屋姫命 三島社境内ニアリ」と見ゆ。安産の神として崇敬せらる。

祭 日 三月 六月 九月 各十五日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿

境内坪數 八十坪 崇敬者人員 千人

三五 柞 田 村

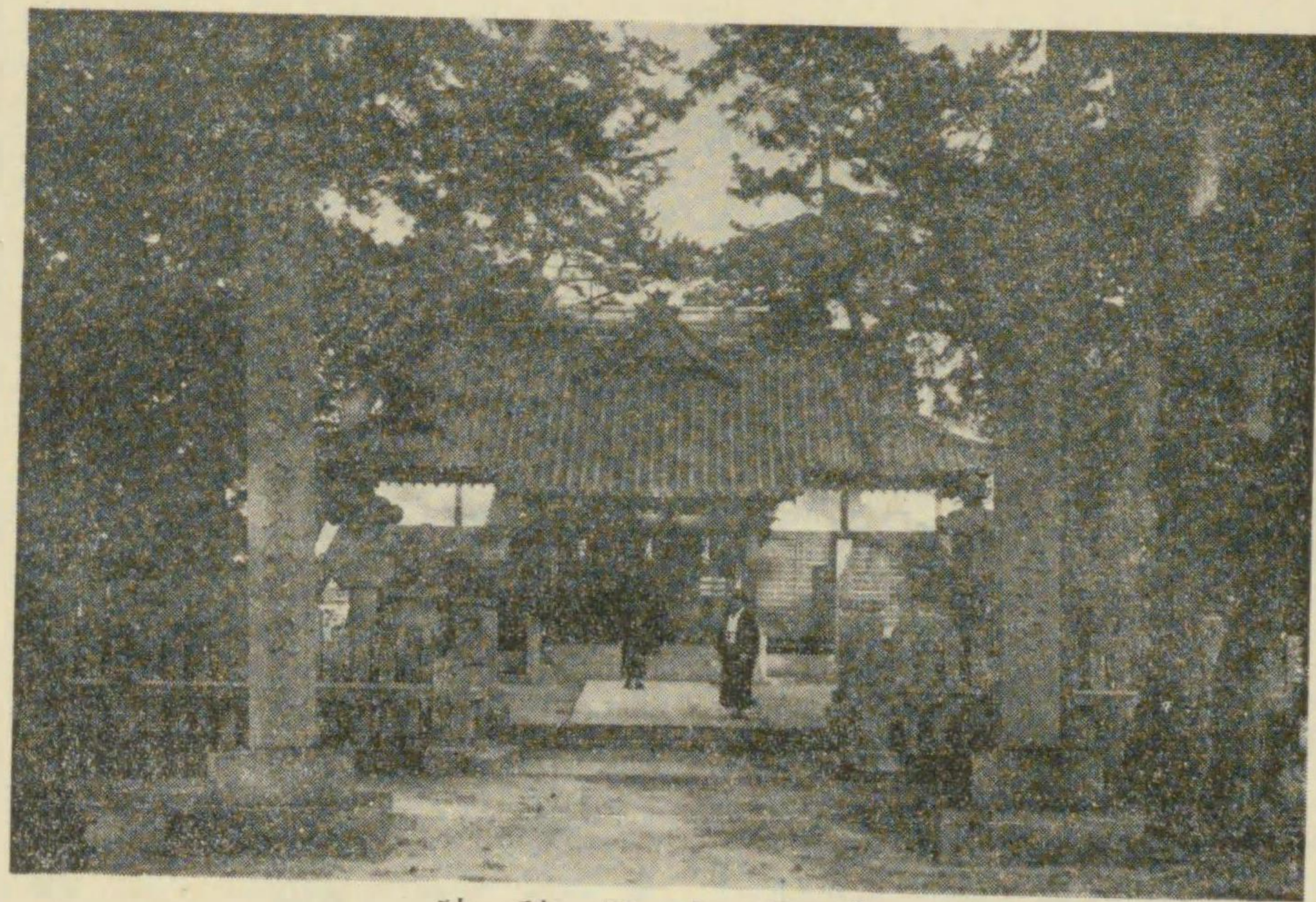
(三六) 郷 山 田 神 社 柞田村字中新田

祭 神 大穴牟遲命

配 祀 少名毘古那命 山田大娘神

柞田村は舊柞田郷にして、黒淵、山田尻、北岡、大畑の四村これに屬し、當社は黒淵村に鎮座ありて、黒淵村は古く山田村と稱されしことは黒淵村の後なる村を山田尻と云へるによりて明かなり。山田村の名は山田皇女の御名代地たりしを以て起りしものならむと云ふ。配祀の山田大娘神は即ち春日山田皇女にして安閑天皇の皇后にましまし、大日本神名辭書に、御子なきを以てその名の亡びむことをいたみ匝布屯倉を賜ひて御名を表す云々、讃岐國三豊郡柞田村に山田神社あり此の命を祀ると見ゆ。又少名毘古那命は元小田明神と稱へられ同村に鎮座ありしを合せ祭れるものとす。生駒記に「山田神社小黒淵村、昔ハ豊田社ト云フ豊田ノ義籠ル由、祭所神 月讀命」。全讃史に「山田神社在黒淵村古傳云月讀命爲主矣蓋亦此地之社稷也既廢久矣今爲村社」。二十四社考に「山田神社式小社也祭神素盞鳴尊」。西讃府志に「山田神社……祭神大己貴命 祭祀九月九日、社地三段三畝……小田明神 祭神少彦名命 此祀今廢ス、山田神社ニ移シ祭レリ」と見ゆ。又神社考に「山田神社村社在黒淵村」所祭月讀尊 按此下有山田尻村一則此地常稱山田一乎、又山田尻の條に「此地在黒淵之後」而名山田尻 按黒淵有山田神社蓋其地舊稱山田一也」と

合祀祭神 八衢比古命 八衢比女命 久那止神 大物主神 荒魂



郷 山 田 神 社

由 緒 延喜神名式に「讃岐國刈田郡小山田神社」とありて、式内當國二十四社の一とす。往古より柞田一郷の大社にして、古くは當村中河原の地に鎮座ありしが、後現今の地に遷座せられしものにして、舊地には今猶神事に用ゐられし井戸を存す。

載せたり。社殿の造營往古の事は詳ならず。貞享四年拜殿造營、元祿八年豊田郡奉行河口久右衛門木材を寄進して本殿を改築、文政三年黒淵邑庄屋秋山平右門、北岡邑庄屋爲右門等本殿御屋根替、寶曆七年、延享五年の兩度亦兩村庄屋の盡力により本殿、拜殿の改築ありたり。舊藩主京極家の崇敬亦厚かりしといふ。

明治四十年九月二十一日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。(生駒記 全讃史 西讃府志 古名勝圖繪 官社考證 神社考 三豊郡史 特選神名牒)

大正二年^{字黒淵}荒魂神社・寒神社を合祀す。

例祭日 十月九日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所

境内坪數 千二百五十八坪

氏子區域及戸數 柞田村 九百十五戸

境内神社 嚴島神社(市木島比女命) 西讃府志に「辨天祠山祿八年井上氏貞重建之云」と見ゆ

建之云」と見ゆ

(三七) 靈 神 社 柞田村字大間

祭 神 水分神 高淤加美神

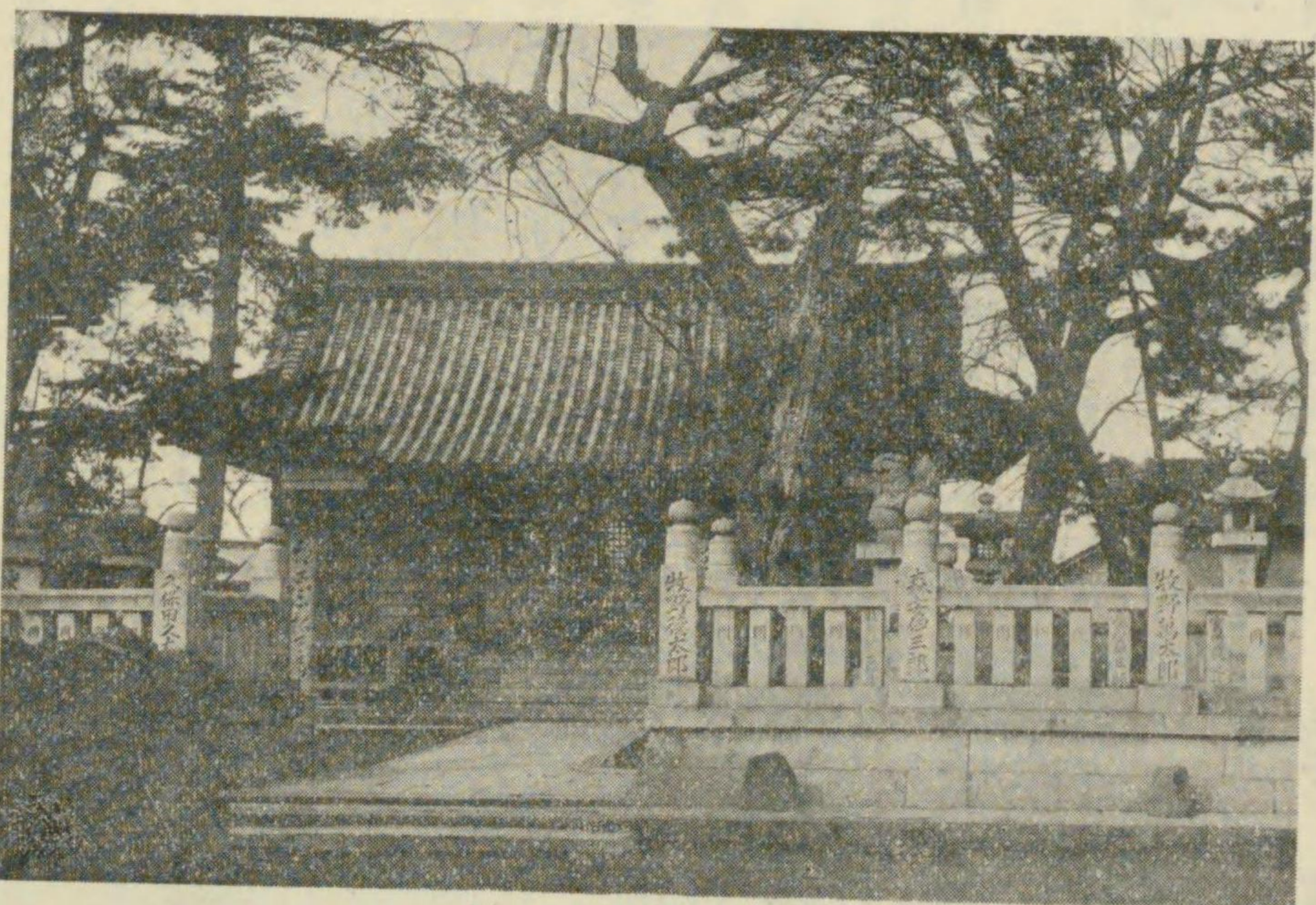
合祀祭神

市寸島比女命 大穴牟遲命 少名毘古那命 宇氣持命 天照皇大神 埴山比賣命 大物主命荒魂 大物主命

由緒 柞田村郷社山田神社境外

末社。慶安四年(紀元二二三一)

一) 油井の人は右衛門なる者松井神の神託を蒙りて、山田尻村の村はづれの松林中に奉齋せりと傳ふ。往古柞田郷に松井と稱する出水あり、其の邊に小祠ありて松井神社と奉稱せり。西讃府志に『松井御前祠 油井ニアリ 祭神速秋津姫命 按三代實錄ニ元慶元年四月七日、讃岐國松井神從五位下トアルハ或ハ當社ナランカ』云々と載せたり。傳ふる所によれば松井御前は往古油井の浦に都より漂着したる貴人にして、此の地に止り、漂着の日なる水無月晦日及び文月朔日に松井の水の注ぐ海に入りて身を清むれば畜類に至



社 神 龍

祭日 四月十四日十五日

神社、宇油井、金刀比羅神社を合祀す。

るまで諸病を治し悪疫を免るゝ事を教ふ。而して其の効驗著しかりければ歿後祀りて松井神社と奉稱せりと傳へ、今も猶陰曆六月末日七月一日に牛馬に至るまで海に入りて身を清むる風習あり。慶安四年夏大旱ありし際俄に大雷雨ありて西海に光輝を發するものあり。油井の人は右衛門なる者、松井の神水を天下に分つ爲め八大龍王を迎へたれば汝往きて迎へ祀れと松井神の神告を受けたりとて、海中より御神體を奉じて上り山田尻の村端松林中に奉齋し八大龍王と稱へたりと云へり。大正六年現在の地に社殿を營みて遷座し、松井神社と共に奉齋せり。當社及び山田神社、日枝神社、境八幡神社、須賀神社を柞田五社と稱す。當社は祈雨の神として崇敬せられ、旱天の際は蓑笠を着て社殿を廻り祈願を爲す。(西讃府志)

大正六年宇油井、嚴島神社・地神社、間、荒魂

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿
境内坪數 二百七十五坪 崇敬者人員 千二百人

(三九八) 荒魂神社 柞田村字大間

祭神 大物主命荒魂

由緒 柞田村郷社山田神社境外末社

祭日 九月二十七日 主なる建造物 本殿

境内坪數 百三十九坪 崇敬者人員 約二百五十人

(三九九) 荒魂神社 柞田村字公文明

祭神 大物主命荒魂

由緒 柞田村郷社山田神社境外末社

祭日 九月二十七日 主なる建造物 本殿

境内坪數 百九十四坪 崇敬者人員 約二百五十人

(四〇〇) 荒魂神社 柞田村字山田

祭神 大物主命荒魂

由緒 柞田村郷社山田神社境外末社
祭日 陰曆五月二十七日 主なる建造物 本殿
境内坪數 三百〇五坪 崇敬者人員 約三百二十人

(四〇一) 地神社 柞田村字大畑

祭神 天照皇大神 大己貴大神 受持大神 少名毘古那神

埴山比女神

由緒 柞田村郷社山田神社境外末社

祭日 九月二十二日 主なる建造物 本殿

境内坪數 五坪 崇敬者人員 約三百人

(四〇二) 地神社 柞田村字大畑

祭神 天照大神 大己貴命 受持大神 埴山姫命 少名毘古那神

古那神

由緒 柞田村郷社山田神社境外末社

祭日 九月二十二日 主なる建造物 本殿

境内坪數 四十五坪 崇敬者人員 約三百人

(四三) 荒魂神社 杵田村字大畑

祭神 大物主命荒魂
由緒 杵田村郷社山田神社境外末社
祭日 陰曆九月二十七日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 百五十坪 崇敬者人員 約三百人

(四四) 稻荷神社 杵田村字青木

祭神 大物主大神
由緒 杵田村郷社山田神社境外末社
祭日 八月八日 主なる建造物 本殿
境内坪數 十坪 崇敬者人員 約百五十人

(四五) 荒魂神社 杵田村字下野

祭神 大物主命荒魂
由緒 杵田村郷社山田神社境外末社
祭日 陰曆九月二十七日 主なる建造物 本殿
境内坪數 三十四坪 崇敬者人員 約二百五十人

(四六) 蛭子神社 杵田村字下野

祭神 事代主大神
由緒 杵田村郷社山田神社境外末社
祭日 八月十日 主なる建造物 本殿 拜殿
境内坪數 六十五坪 崇敬者人員 約三百人
境内神社 塞神社(久那斗大神) 八衢比古神 八衢比女神

(四七) 荒魂神社 杵田村字黒田

祭神 大物主命荒魂
由緒 杵田村郷社山田神社境外末社
祭日 九月二十七日 主なる建造物 本殿
境内坪數 三十坪 崇敬者人員 約五百人

(四八) 地神社 杵田村字十宮

祭神 天照皇大神 大穴牟遲命 少名毘古那命 宇氣持命 埴山比女命

由緒 杵田村郷社山田神社境外末社
祭日 九月二十二日 主なる建造物 本殿
境内坪數 七坪 崇敬者人員 約五百人

(四九) 村日枝神社 杵田村字山王

祭神 大山咋神
合祀祭神 大物主命荒魂

由緒 當地杵田莊は建長八年(紀元一九一六)後嵯峨院の
宣旨によりて近江國日吉神社の社領となりし地にして、こ
の故を以て當地に日吉神社の御分靈を奉齋せるものなり。
國史大系に『注進 言上日吉社領讚岐國杵田庄境四至打
勝示事……右依去三月十四日宣旨引奉國使境四至
打勝示畢仍注進言上如件 建長八年八月二十九日……
國使散位布師 散位藤原朝臣資員 散位藤原朝臣長知
官使右史生中原久景』とあり。當社々人は御分靈に供奉し
て當庄に遷りしものと云ふ。又同書日吉社々頭注進記に
『讚岐國杵田莊 二宮十禪師大行事長日御供十禪不斷經二
季大般若料所後嵯峨院御寄附權禰宜成貫申云當莊者成貫相
傳地也而行顯僧都無故押領之間經奏問最中也……祝



部成盛申云當莊者爲後嵯峨院御寄附之地建武年中被仰
成茂宿禰以來成材成顯成盛等相傳無相違之地也云云
とあり。

當社祭典座席
に、萩原村地
藏院、別當延
命寺、祠官牧
村 加賀、社人仁
社 右衛門、黒淵
日 組大庄屋、大
枝 畑村庄屋、山
神 田尻村庄屋、
社 北岡村庄屋、
黒淵村庄屋及
び組頭、小頭、
諸役人其の他
列席の事を記
せり。

古來山王權現と奉稱せられ、武神として藩主生駒家の崇敬
厚く、棟札によれば寛永七年山王宮上棟には玄信上坂勘解

由、貞信上坂式部少等大旦那となり、寛永十五年拜殿建立に際しては、竹越道齋、生駒八兵衛、生駒主水、上坂勘解由春信、大庄屋井下彌右衛門等大旦那たり。上坂氏は生駒家々老にして高丸の城主たりし人なり。次で明暦二年、延寶三年、正徳四年、享保十九年、天保四年、天保九年等上葺、再興、石鳥居建立、修葺の棟札ありて夫々地方有志の崇敬を示せり。

昭和五年五月八日村社に列せられ、同年十月十八日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。境内老樹鬱蒼として社頭の樟樹は周囲二十四尺に及び枝葉繁茂して頗る森嚴なり。

(全讃史 西讃府志 讃州府志 三豊郡史)
大正六年^{字岡}殿荒魂神社を合祀す。

例祭日 十月十七日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 隨神門 社務所 神輿庫
寶物 假面、扁額、刀等五點

境内坪數 九百七十坪
氏子區域及戸數 字下野 八町 油井 大畑 上出在家 三百九十戸

(四〇) 村 須 賀 神 社 柞田村字花ノ井

祭神 武速素盞鳴命 櫛稻田媛命 少名毘古那命
合祀祭神 大物主神荒魂

由 緒 傳ふる所によれば、仁和、寛平年間諸國天變地異疫疾つづき、當郡内殊に其の被害多かりしかば、寛平元年(紀元一五四九)正月二十五日、僧圓珍(智證大師)この災異を祓はむとして、京都なる八坂神社より天王社を勧請せしものなりと云ふ。故を以て古くは牛頭天皇と奉稱せられたり。夙に悪疫除避、牛馬守護の神として遠近の崇敬厚く又武神として崇敬せらる。棟札によれば元和三年八月黒淵大庄屋井下彌左衛門善次大檀那として天王宮一宇上棟とあり。又寛永十二年八月上坂勘解由大檀那として御屋根葺替を爲す。明治三年十一月須賀神社と改稱し、昭和六年三月十七日村社に列せられ、同年五月十六日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。昭和三年京都恩賜博物館考證委員小川榮三郎より社藏寶物高麗犬は八百年以上のもの、同隨神像は四百年前後の物と考證せらる。

(西讃府志 讃州府志 全讃史)
大正二年^{字北岡}殿荒魂神社を合祀す。

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 社務所 神輿庫 守所及繪馬堂

寶物 高麗犬一對 隨神像二軀
境内坪數 五百六十三坪
氏子區域及戸數 字北岡 中出在家 下出在家 二百二十六戸

(四一) 村 境 八 幡 神 社 柞田村字濱ノ内

祭神 品陀和氣命 息長帶媛命 玉依姫命

由 緒 大化五年(紀元一三〇九)宇佐八幡宮の御分靈を奉祀せしに始る。社記によれば、當地累年悪疫に苦めらるること多く、郷人相謀りて大化五年宇佐八幡宮の御分靈を勸請し、柞田郷と姫江郷との境に鎮祭して四境の悪癘退散及び侵入防止の祈願を爲せしに、諸疫頓に止み爾來當地は悪疫の憂なしと云ふ。この事に依りて毎歳陰曆六月十五日を以て氏子の者晝夜參籠して加護を祈るを例とす。山田八幡宮或は境八幡宮と奉稱せられ、一説に、延喜式内山田神社は當社ならむと云へり。當地もと山田尻村と稱され、神社考に『八幡宮村社在山田尻大島屬之』と見え、官社考證に『山田神社……柞田郷山田尻村に山田八幡宮と稱あり

例祭日 十月十二日

特殊神事 牛馬祭 三月二十五日 當社には古來牛馬講なるものあり

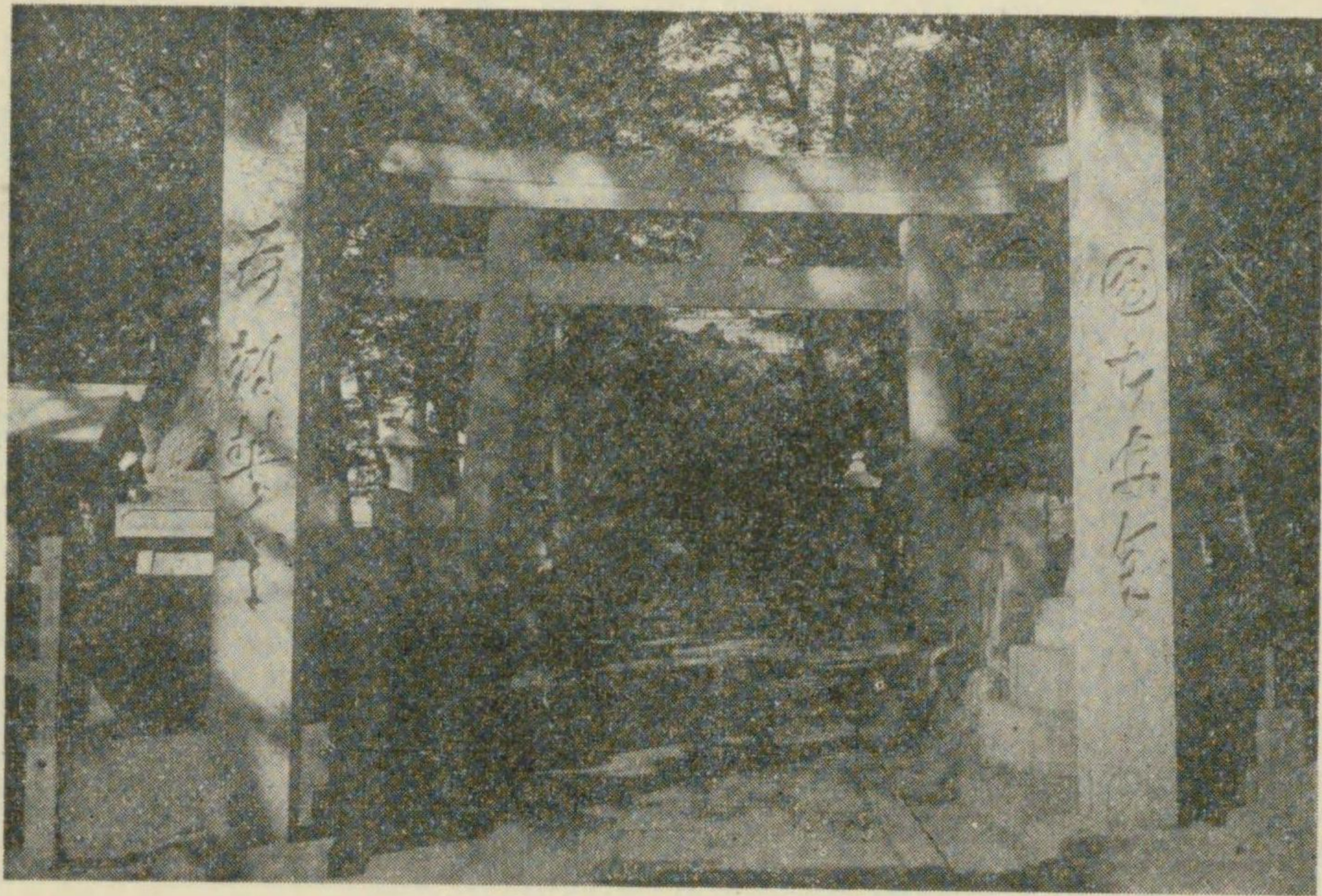


村社 須賀神社

て遠近より崇敬者多かりしが、一時中絶せしを昭和四年三月より復興す。當日は當村及び觀音寺、常磐、豊田、大野原、萩原、五郷、豊濱、和田の各町村より牛馬を牽きて參詣する者頗る多し。

百々手祭 二月一日

て之ならむともいふ。式社考に観音寺ノ半里バカリ西ニ山田尻ト云アリ、ツコノ社ナリト云々……黒淵村なる山田大明神社と山田尻村の山田八幡宮と互に縁ありて聞れば定めがたけれど……猶後人の考を俟つ」と載せたり。當社は古來悪疫除避の神として尊崇せられ、享保十年六月丸龜藩主京極高矩祈禱料として社地廻りにて林一段五畝を寄進せられ、享和二年十月藩主京極高中封内巡視の御親しく参拜し



社神幡八境社村

て悪疫防止の祈願を爲せり。又文久四年五月藩主京極朗徹参拜あり、明治元年藩醫高橋清吾を通じて紀念の爲め燈籠を寄進す。依つてその名を冠して朗徹燭と稱す。當社注連柱の文字は朗徹の揮毫なり。寛永四年本社再建、明治三十四年本殿を、大正七年拜殿を改築す。明治四十年十月二十四日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。昭和十年官幣大社宇佐神宮々司横山秀雄より、當社に於ける孝徳天皇の御世宇佐八幡宮より勸請の記録傳記は事實相違なき旨の證明書を寄せらる。

(官社考證 讃州府志 西讃府志 神社考 三豊郡史)

例祭日 十月二十一日

特殊神事 疫神祭 陰曆六月十五日

百々手祭 陰曆二月十二日

主なる建造物 本殿 幣殿 拜殿 釣殿 神饌殿 廊下 神輿庫 社務所

境内坪數 千三百十九坪

氏子区域及戸數 字山田 百〇二戸

(四二) 崇像神社

杵田村字上出在家

祭神 狭依毘賣命 多紀理比賣命 多岐都比女命

由緒 西讃府志に「宗像祠山王馬場ニアリ」と見ゆ。

祭日 十月九日 主なる建造物 本殿

境内坪數 三十二坪 崇敬者人員 約三百二十人

(四三) 金刀比羅神社

杵田村字大畑

祭神 大物主大神

由緒 不詳

祭日 十月十日 主なる建造物 本殿

境内坪數 三坪 崇敬者人員 約二百七十人

(四四) 若宮神社

杵田村山田

祭神 山田地主靈

由緒 不詳

祭日 八月十日 主なる建造物 本殿

境内坪數 五十二坪 崇敬者人員 約五十人

境内神社 金刀比羅社(大物主大神)

(四五) 荒魂神社

杵田村字大道上

祭神 大物主神荒魂

由緒 不詳

祭日 九月二十七日 主なる建造物 本殿

境内坪數 五十八坪 崇敬者人員 約百五十人

(終)

附

錄

一、祭神名索引

一、年表

一、編纂後記

祭神名索引

凡例

- 一 各市郡毎に神社に番號を附し、索引は總て番號を以て表示した。
- 一 ◎印を付したものは明治以降神社の合併による合祀祭神であつて、舊來の相殿神、配祀神は區別を設けなかつた。
- 一 △印を附したものはその神社の境内神社の祭神で、境内神社への合祀祭神は區別しなかつた。
- 一 明細帳による祭神は全部、神社より提出の資料による祭神にて明細帳と相違せるものは悉く之を擧げた。異説による祭神は之を擧げてない。
- 一 同神か異神か疑問のある祭神は双方共之を擧げた。
- 一 檢索の便宜上一神にて索引の二ヶ所又は三ヶ所に擧げたものもある。
- 一 祭神不詳の神社は省略した。

〔ア〕の部

赤土神 (中筒男神ノ條ニ入ル)
 開嚙神 飽咋之宇斯神 (大川 〇三三)
 (小豆 〇二四)
 秋葉大神 (小豆 △〇九)
 秋津根王 (綾歌 三三七)
 足名椎神 脚摩乳神 (小豆 一四一)
 (綾歌 三三三 三五〇)
 阿須波神 (香川 〇二五) (三豐 〇三〇 〇三四 〇五二)
 阿遲須伎高彦根神 味鋤高彦根神 足
 津喜高彦命 (綾歌 五四 七五)
 (仲多度 △三三) (三豐 〇二五 〇八六
 一八八 二六四)

祭神名索引

阿比岐神 (三豐 〇三〇)
 淡海之事佐久能命 (仲多度 二二七)
 (原淡海公と事佐久能命との二柱と
 なり居れり)

天照大御神 大日靈尊 (高松 △一
 △四 一五 三三 二四 二八)
 (丸龜 〇四 △一〇 二〇)
 (大川 △一 三三 三九 △七
 △四 七 六 九 △九
 九 △七五 △八〇 一八三 一八四
 △〇一 △〇七 △三九 二三四 二五三
 二二九 二四〇 二四六 二四九 二五二
 二六一 二七〇 三〇〇 三三三 三三〇)
 (木田 一五七 一六一 二二三
 二四〇 △三五 △六六 三〇〇 三三〇)

三三五 三七三 (小豆 〇三三 △四三
 △六 七四 五 △二九 一四五)
 (香川 〇三三 △三五 △三三 四
 〇五 △六 七五 七 八 全
 △六 〇二三 〇二四 一九 〇三三
 △三四 △三六 一六 一九 △〇七
 三三 二八 三九 三三 三五)
 (綾歌 一 二〇 六 六 四
 △四三 〇五 〇六 〇六 〇六
 七四 一〇八 一三三 一五 一五〇
 一五 二八 二三四 二四九 〇五
 二九九 〇三九 △三二 三三六
 三四五 △七一 △七一 △三六
 △三〇 〇四八 四三 △四九 四四一
 四四七 四七 四三 四四 四三
 一 四三 四四 四三 四三

(三豐) 〇一四 〇三五 〇四四
 荒魂五名神 (小豆 二三 二九)
 (大神大物主荒魂五名神八別項)
 沫那藝之神 (仲多度 〇六)
 沫那美之神 (仲多度 〇六)
 安徳天皇 (木田 天 〇一〇)
 (香川 〇二三 〇二四 〇三五 〇一六)
 (一豊) (仲多度 二〇五) (三豊 一五七)
 顯仁尊 (崇徳天皇ノ條ニ入ル)
 安閑天皇 (廣國押建金日天皇ノ條ニ入ル)

〔イ、巾の部〕

五十河姫神 (綾歌 三三四)
 生産靈神 生産巢日神 (綾歌 四八)
 (仲多度 五九)
 活津彦根命 (丸龜 四)
 (木田 一六六) (綾歌 一九五 四〇)
 (四八) (三豊 一三六 二九六)
 伊香沙和氣神 (小豆 九二)
 伊弉諾尊 伊弉那岐神 (高松 二〇
 一六) (大川 四 一三三 三三二)

(木田 二四 二六〇 二九〇 三九四)
 〇五五 四四 四七 (小豆 四)
 三 二九 〇四〇 (香川 〇四)
 四 〇七 二八 〇三三 〇三四
 一元 一三三 〇四〇 一四 二四
 〇三九) (綾歌 四四 〇五二 四
 六 〇六 〇四七) (仲多度 六
 元 〇三三 〇二九 二〇七 三〇
 三三 二五) (三豊 二五 〇六
 〇六三 〇九 〇二〇 二二 一九
 〇三三 〇三七 〇三二 二五 二五
 (三〇)
 伊弉冉尊 伊弉那美神 (高松 二
 三) (大川 四 一八五 〇一
 二〇二 二七 三〇) (木田 六
 四 六 二六 一四三 一三
 一七 一八五 二四三 〇五三 三九
 三五 〇五六 元二 元四 〇五五
 四九) (小豆 四 〇三 〇二九
 〇四〇) (香川 〇四 二五 四
 六 〇七三 一八 〇二四 二九
 一三三 〇一〇 一四 三三 〇三九)
 (綾歌 四三 〇五 七四 六

四
 二四〇 (二四) (仲多度 二 三
 五 一六 〇六 〇三三 〇七
 一〇四 二六 〇三六 一三三 〇四三
 二〇七 三〇 三三三 二五)
 (三豊 二五 〇六 一三三 〇三七
 〇三三 二五 二五 二四 〇九四
 三六 三〇)
 五十狹芹彦命 彦五十狹芹彦命
 (香川 二 五)
 石槌彦命 (大川 九 九三)
 石槌姫命 (大川 九 九三)
 石擬姥命 伊斯許理度賣命 (大川 二六)
 (木田 〇五九) (綾歌 二五 一三
 一〇 二六) (三豊 三三)
 五十猛命 (木田 一六) (香川 一五)
 (綾歌 四 八 三三 〇三三
 〇四九 〇三三) (仲多度 〇三 二八)
 (三豊 〇四〇 〇四七 〇六七)
 市杵島姫命 嚴島姫命 狹依比賣命
 伊知幾島媛命 (高松 三)
 (丸龜 〇二 二〇 三)
 (大川 五 七 三 五
 〇九 〇四 〇六 一六 〇一

〇〇六 〇〇七 〇三九 二四 二六〇
 二四 三九 三三 〇三七)
 (木田 〇六 〇三三 〇五
 〇五 七 一六 二一
 三六 三〇 三六 四八)
 (小豆 一五 四 八 六
 〇九 〇四 一七) (香川 元 八
 三 〇五 〇七 〇六 〇二七
 〇二三 〇五六 一七) (綾歌 二七
 〇二 〇四 〇七 〇五 〇五
 〇二 〇七 〇三三 〇七七 四
 四九 〇四九 〇四〇) (仲多度 八
 二四 元 〇三三 元 五
 〇五 〇六 〇七 〇七 〇七
 〇九 一五 一五 〇六 〇六
 〇六五 〇六六 〇一九 〇三三
 一三〇 〇三三 〇四〇 二四 二七
 〇六三 〇六九 〇五三 〇五〇
 三〇五 三三三 〇三三 〇三三

祭神名索引

〇五二 〇七九 〇六六 〇七七 四三)
 一條兼房公 (三豊 三八)
 嚴魂彦命 (仲多度 〇三)
 伊豆魂神 (三豊 七)
 伊豆能賣神 (綾歌 四八)
 伊豆守六郎將武命 (三豊 〇五)
 糸目彦惣之靈 (木田 九)
 稻依別王 (大川 〇六)
 稻背脛命 (三豊 〇六)
 稻荷大神 (三豊 一五七)
 稻田姫命 (奇稻田姫命ノ條ニ入ル)
 齋主神 (經津主神ノ條ニ入ル)
 石土比古命 (高松 二六)
 (木田 二四七) (綾歌 四七)
 齋火武主比神 (火産靈神ノ條ニ入ル)
 磐長姫命 (綾歌 四八) (仲多度 〇九
 〇五)
 飯依比古命 (大川 〇七五)
 (綾歌 三三)
 息吹戸主神 (大川 〇九 〇七五)
 (綾歌 〇四九) (仲多度 〇三 〇七)
 伊豫津彦神 (三豊 一四)
 伊豫津姫神 (三豊 一四)

入江大炊助景隆之靈 (綾歌 〇八)
 〔ウの部〕
 倉稻魂神 宇賀之御魂神 (高松 〇
 四 一 三)
 (丸龜 〇〇) (大川 〇六 元
 四 〇四 〇四 〇七 〇七
 二二 〇〇一 〇〇七 〇五五 〇〇
 三三 三三 三九 〇七)
 (木田 七 七〇 〇一〇 二
 一四 一六 一八 二四 〇五
 〇五 二五 二七 〇九 〇七
 三〇 〇六〇 〇六五 元八 〇
 四九 四四) (小豆 〇一 〇
 〇三 〇六 〇四 〇五 〇七
 七四 〇五 〇七 二〇 二六
 一四〇 一四) (香川 〇一 〇
 〇五 〇六 〇七 〇九 〇三
 〇二五 〇三三 〇三四 〇六〇
 一六 〇七 一八 三三 一四
 (綾歌 〇一 〇七 〇八 一〇
 〇二 〇三 〇四 〇五 〇六
 〇八 元 二二 三 〇三
 五

三六 △三五 (木田 七 九
 元六) (小豆 △二〇九) (香川 △三
 〇三) (三〇四 一七三) (綾歌 八
 九 二六八 三〇〇 四六 四五)
 (三豐 一 一三 五 五 六
 六 一〇九 △元 一五 一六 一六
 二四 〇二〇 二六九 四九)
 大雀命 大鷦鷯尊 仁徳天皇 大佐々
 岐神 (高松 △一) (大川 △
 九 一〇三 △二七 〇三六 一五
 △一〇 △六 △二〇 〇〇六 △二七
 △三四 二五五 二六 〇三三 △四七
 (木田 △一 △壺 三三 △四九
 △三五 △元 二六 △〇三 △三三
 △元 △元七) (小豆 △六 六
 一四 △五) (香川 △三 〇一九
 〇二五 〇四〇 〇四四 一六三)
 (綾歌 一五二 三五 四四)
 (仲多度 一〇 三 五 五 五
 〇三 〇六 〇九 △三 〇四
 △七 △八 一四 一六 〇四
 〇六 一六 〇六 〇三 一五
 一七五

〇一六 〇一六 〇一〇〇 △〇〇 二〇四
 〇二五 二〇九 二二 三五 二六
 〇三〇 〇三七 二六 〇三元 〇四
 二九 一五 二五 一七〇 二八
 △二四 〇一九 〇元四)
 大氣都姫神 大食津姫神 (大川
 △一 〇二) (綾歌 二九 四五)
 大御饌津神 (御食津神ノ項ニ入ル)
 大彦命 (大川 二六〇 △三五)
 大衰彦命 (大川 二三)
 大倭根子彦國玖琉命(孝元天皇)
 (大川 一九 一七〇 一七)
 大倭根子彦太瓊命(孝靈天皇)
 (大川 △〇〇)
 太田神 (大川 △壺)
 (木田 〇五三) (仲多度 〇六)
 大伴武日命 大伴武日連命 (大川 △六) (仲多度 〇六)
 (大川 △六) (仲多度 〇六)
 大海津見神 大津津見神 少童神 海
 積神 和天津美神(上、中、底津綿津見
 神ノ別項) (高松 △六 △元
 三 △七) (丸龜 〇一 六
 二〇) (大川 八 二〇 二五

二七五 △三五 (三〇一) (木田 一三
 一七 〇六 三 二六 二六
 元二 三〇〇 三七 三五)
 (小豆 △三 △九 △四)
 (綾歌 △一 二 二四 △七
 六 一九 二四 四九)
 (仲多度 一七 △三〇 三六
 三〇〇) (三豐 △三 〇四 四)
 大宮能賣神 大宮女命 (木田 三三
 〇七九) (仲多度 三五)
 大宮姫神 (綾歌 四六)
 (仲多度 五 八 八)
 (三豐 △六 〇一 一九)
 大土神 (木田 △五)
 (香川 一七)
 大土祖神 (三豐 二五 二六〇)
 大奴泥比賣命 (小豆 二〇)
 大内義興靈神 (香川 二六)
 大内之命 (高松 四)
 大直日神 (大川 一八)
 (綾歌 △七 一四 △三 〇四
 〇九 〇八) (仲多度 〇二六
 (三豐 九二)

大雷神(綾歌 四三 △四)
 (仲多度 二〇)
 大久保大學命 (綾歌 △二七)
 大龍神(龍神ノ條ニ入ル)
 大龍彦神(仲多度 △六)
 大龍姫神(仲多度 △六)
 大彦龍神(三豐 三六)
 大綾津日神 八十枉津日神
 (綾歌 △五 一四) (仲多度 〇九)
 (三豐 九二)
 大押立神(仲多度 二〇四)
 大靈神(小豆 △四 一四)
 (仲多度 一九)
 大屋毘賣命 (三豐 〇三元)
 大加牟豆美命 (三豐 〇三元)
 大葦原四郎將平 (三豐 △五)
 [カの部]
 柯遇突智命 迦具土神 (火産靈神ハ
 別項) (大川 〇二 三三 〇三三
 △〇一 〇〇六 二四 三三 三三)
 (木田 四 一五) (小豆 △三
 一八 四 △六 七 八〇

八九 △一九 〇三五 一四
 (香川 八 △五 △六 一〇
 二一 〇二五 一五 一六)
 (綾歌 二二 一五 二五 △四)
 (仲多度 〇壺 〇六) (三豐 〇六)
 景安靈神(川田景安) (香川 二六)
 景政神(鎌倉權五郎) (仲多度 五
 〇 〇八〇 一三) (三豐 三六)
 笠縫神(三豐 一六)
 春日大神(小豆 〇四 〇四)
 (仲多度 △三 △五) (三豐 △三
 二六三)
 勝速日命(天忍穗耳尊ノ條ニ入ル)
 勝佐備神(素盞鳴尊ノ條ニ入ル)
 加藤清正命(三豐 〇〇〇 〇三)
 金山彦神(丸龜 七 △二〇)
 (大川 〇四 元 △四 五
 三 六 一〇九 二九 一四
 △一〇 △二〇 〇〇六 二四 二五
 二五 二五 三三) (木田 七
 元 二九 △六〇 四五 四六)
 (小豆 一六 八 九 七
 一〇) (香川 七 △三 △七

△六 △三四 一五 〇五)
 (綾歌 〇六 三 一四 二四
 二二 〇七 元 元九 元九)
 (仲多度 二二 〇二 △三 〇三)
 (三豐 △三 〇六 〇五 〇六)
 金山姫神(大川 一九 三七)
 (小豆 一六 三 九 七
 一〇) (香川 △三 〇五)
 (綾歌 〇六 元)
 金武彦命(大川 二四)
 金支靈神(仲多度 △八)
 竈神(奥津彦神、奥津姫神ノ別項)
 (仲多度 三 三〇 △三九)
 加夜鳴海神 (仲多度 △三)
 草野姫神 鹿屋野比賣神 菅野姫命
 野椎神 野槌神 (高松 △四)
 (木田 △五 一九 〇四 一五
 〇五四) (香川 △七 三三)
 (綾歌 三三 〇五 四三 四八)
 (仲多度 〇五 三 二八)
 (三豐 三 〇六)
 賀茂御祖神 (香川 △六一)

(三豐 二六九)
 賀茂別雷神 別雷神 (大川 二〇八)
 △七五 (木田 一〇六) (香川 〇四)
 〇六 〇七 二三元 (綾歌 八三)
 (仲多度 五五) 六 三元 一五
 一六 一六 二七 (三豐 八)
 〇六 〇八 二九
 賀茂建角見神 建角見神 (小豆 二二)
 (香川 一八七)
 神皇產靈神 神產巢日神 神御結神
 (高松 三)
 (丸龜 一三) (大川 九五)
 (小豆 三四) 一五〇 (香川 △二五)
 (綾歌 △二五 四八) (仲多度 〇二)
 △三三 五九 〇六 〇九 八一
 〇八 △二〇 (三豐 一五) 一五
 一五 一六 〇七 〇三 二六
 二四 △五九 △元二)
 神櫛王命 神櫛明命 (大川 △七五)
 △七五 (木田 三) 〇 四七
 (香川 二六) (綾歌 九) 三四
 〇七 〇九 〇七 四〇 四八)
 (仲多度 二二) 三 九 九

〇三三 一六 〇一〇 〇三二)
 神櫛王子臣四十二神 (綾歌 〇七)
 (仲多度 〇九)
 神倭磐余彦火々出見尊 神倭伊波禮彦
 神 磐余天皇 (神武天皇)
 (綾歌 〇一) 一〇九 (仲多度 △八)
 二六 三九 (三豐 △三〇)
 神直日神 (大川 一八) (綾歌 △七)
 一八 (仲多度 〇二六)
 [キの部]
 吉備武彦命 (大川 六)
 (仲多度 七)
 吉祥姫 (綾歌 一七)
 吉光神 (木田 四二)
 清賀大神 (木田 △二五)
 [ケの部]
 久岐年命 (木田 三六)
 久々能智神 句々廻馳神 屋船久々能
 智神 (高松 △四〇) (木田 △四)
 四九 四五 (香川 △八) △九
 一五 二二 (綾歌 △二) 一七

一四
 四八) (仲多度 四 〇七 二二
 〇三〇 〇四) (三豐 一五 〇四〇
 三五)
 菊理姫命 (木田 三五) (仲多度 一四)
 (三豐 二五) △三五)
 玖佐屋姫命 (三豐 三三)
 奇稻田姫命 櫛名田姫命 稻田姫命
 (大川 六) (小豆 六 △二四)
 (綾歌 〇) 七 △七 一〇三
 一七五 三五〇 四八) (仲多度 △三)
 二〇六 三四) (三豐 八三 △六二
 四一〇)
 櫛磐間戸神 櫛石碓之神 (小豆 △二七)
 (綾歌 二六 〇五九) (仲多度 〇
 〇三二)
 奇魂神 (綾歌 △四三)
 楠正成朝臣 (香川 △二三) (三豐
 〇一六 〇三二)
 久那斗神 岐神 衝立船戸神 船頭神
 (丸龜 〇四) (大川 五 〇
 五 〇 〇一 〇二六 △〇七
 △二九 △二九 △二九 一六七 △七四
 二九三 三五 三六 三七)

(木田 〇七 九 一三
 二八 二〇六 二〇九 〇五 〇三五
 四二 四三 四九) (小豆 九 〇
 〇五〇) (香川 △五 二四 〇二九
 〇三四 一八四 △八五 二二) (綾歌 〇五 〇五〇 〇四六 〇四三)
 (仲多度 △三 〇四 〇七 〇八
 △一〇 〇三 〇一六 〇二〇 〇四〇
 三五) (三豐 〇四 △一六 〇一六
 〇一六 〇三〇 〇六九 〇三〇 〇三一
 〇三八 〇元六 △四六)
 國常立尊 國底立尊 (大川 六)
 (木田 △四) (香川 〇一九 一六
 一五) (綾歌 一四 一五 一八
 一六 一七 一三 一四 〇四六
 四五) (三豐 七五)
 國水分神 (木田 三 〇五)
 (香川 六 二五 二七)
 (綾歌 △六三 四一 四九)
 (仲多度 一〇五 〇一九 一四二)
 (三豐 〇四 一七 〇一九 〇三三)
 國狹立尊 國狹槌尊 國狹土命
 (小豆 五 五 〇 一三)

(綾歌 三五) (仲多度 △八六)
 (三豐 一五)
 國久比奢持神 (三豐 〇三)
 熊野大神 (丸龜 △三)
 熊野櫛樟日命 熊野久須昆命 熊野忍
 踏命 (丸龜 四) (木田 一八)
 (香川 八七) (綾歌 一五 一五
 三四 〇 〇八) (三豐 一六
 二六)
 熊野結神 (三豐 〇三三 〇三五)
 熊野新宮分靈 (木田 三七)
 (香川 〇五)
 熊野那智分靈 (木田 三八)
 (香川 〇五)
 闇山祇神 (木田 〇四九) (三豐 〇三六
 三七 三四)
 闇籠神 暗於加美神 (丸龜 〇四)
 (香川 六 九 〇二五 〇三三
 〇三三 〇〇八 二五 二七 二六
 二二 二五 二四 二四 二五)
 (綾歌 六 七 〇 〇八 一三
 一六 一六 四三 四三 四三
 △六 四七 〇九) (仲多度 〇三

〇六 〇九 〇九 〇一〇
 二二 〇二九 〇三) (三豐 〇九
 △一五 一六 〇七 一七 〇九
 〇一〇 一〇〇 〇三〇 〇三〇 〇三三
 〇三三 二四 二四 二九 三六
 △三五 三七)
 闇罔象命 闇水波女命 (仲多度 六)
 (三豐 〇三七 〇三〇 〇三三)
 黒雷命 (大川 △七五) (香川 〇二四)
 [ケの部]
 景行天皇 (綾歌 三四)
 [コの部]
 孝明天皇 (大川 一八)
 孝元天皇 (大倭根子彦國玖琉命ノ條ニ
 入ル)
 孝靈天皇 (大倭根子彦太瓊命ノ條ニ入
 ル)
 高良玉垂大神 玉垂命 (武内宿禰命ハ
 別項) (大川 △三五) (三豐 一〇五)
 皇靈神 (仲多度 △三二)
 幸嚴神 (大川 △二〇)

四〇〇 (仲多度 五 九 六)
 〇七 八 一〇〇 二九 〇六
 (三豐 一六 〇六一 三〇〇 〇三三)
 三〇五 三三三 四二二
 瀧姫命 (綾歌 二九)
 栲機千々姫命 萬幡姫命 天萬栲機千々姫命 (丸龜 〇) (大川 三六)
 (綾歌 三三三 三九〇) (三豐 三三)
 武甕槌神 武雷神 建御賀豆知命 建布都神 (高松 四四) (丸龜 〇)
 (大川 二 四〇 三三九 三二九)
 〇七五 元一 三三三 (木田 〇五)
 三六 〇三九 三七五 四四
 (小豆 〇) 二〇 三〇
 (香川 二六) (綾歌 三七 三七)
 五〇 五七 七 八三
 二六 一六 一七 二二 三〇
 〇四三 〇四四 〇五九 (仲多度 三三)
 〇三三 〇五五 〇三三 〇九 〇四
 〇〇〇 二〇 〇二九 三三 〇三二
 〇四〇 (二〇七) (三豐 一) 〇三六
 〇二七 一六 一九 〇三〇 〇三七
 建御名方神 建南方神 (高松 一八)

(大川 三四) (木田 一 二五)
 一四 三三三 (香川 一七 一八〇)
 (綾歌 〇三六 三七〇 四八)
 (仲多度 〇二 四 〇六 〇六五)
 一〇一 〇三三 (三豐 一五 一四)
 〇二五 一三〇
 武内宿禰命 (高良玉垂命ハ別項)
 (高松 一) (丸龜 〇三)
 (大川 一) 六 九 〇六)
 (木田 一〇六 一五) (小豆 一)
 〇六 三二 〇三九 〇二五)
 (香川 〇三三 三三 一三三)
 (綾歌 〇五 一四 二二 二九)
 〇〇一 〇五五 〇七〇 (仲多度 〇五)
 五 五 六 一〇三 〇六七
 〇一六 一八 三三 (三豐 一)
 一 〇七 〇四 〇四七 〇三
 〇四四 一三 一五 〇九 〇〇〇
 三四 〇三三 〇三五)
 武甕王 武甕王 武卯王 建貝兒王
 (大川 〇六) (木田 二六)
 (綾歌 一七) (三豐 一)
 竹内御前靈神 (小豆 七)

健甕龍命 (香川 〇三)
 武田勝頼命 (仲多度 〇六〇)
 建角見神 (加茂建角見神ノ條ニ入ル)
 橘重康命 (綾歌 〇四六)
 手力男命 (天手力男命ノ條ニ入ル)
 龍田大神 (香川 三 四 五)
 七 三 九 一六)
 龍田彦神 (仲多度 〇七九) (三豐 〇三三)
 龍田姫命 (仲多度 〇七九) (三豐 〇三三)
 田作神 (仲多度 三)
 帶刀之大神 (仲多度 〇二五)
 玉姫命 (大川 一〇七) (小豆 二〇)
 七)
 玉依姫命 (木田 一八四 二三四) (小豆 三)
 三 〇二九 (香川 三三 三六)
 二七 二六 二九 〇二五
 一五 (綾歌 〇六五 〇六 二五)
 一四 四三 (仲多度 五 二七)
 (三豐 一 一七 四 一〇)
 一六 一九 二〇 二四 二九
 三〇〇 〇三七 四一)
 玉櫛彦命 (香川 二五七)
 玉屋命 (綾歌 二五)

魂之祖命 (三豐 〇三七)
 玉留産靈神 玉積産日神 (綾歌 四八)
 (仲多度 五 八)

足仲彦尊 仲哀天皇 (高松 一)
 (大川 六 二七 九 一七五)
 二〇五 二〇七 二〇 三三 三三
 二二 二二 二七五 三三
 (木田 五 五 一〇六 二四九)
 二五 三三 三三 (小豆 三)
 二九 一五) (香川 三 六 六)
 三 六 一五 二四 二五 二五
 一五 二〇九 二四 二六 二六
 (綾歌 〇五 一〇六 一〇九 一五)
 一四 一五 一九 二六 三三 三五
 四六) (仲多度 二 〇三 〇三 〇三)
 〇九 八 一〇三 一九 二二 二二
 (三豐 三 三 五 六 六)
 一〇三 二〇 〇二五 二六 三三 三三
 (元) 一
 太郎命 (香川 〇四)
 足産靈神 足産巢日神 (綾歌 四八)
 (仲多度 五 八) 一
 多和神 (大川 七) 一

〔チの部〕

道反大神 (綾歌 〇五〇) (仲多度 〇九)
 〇〇 〇五 一〇 〇六)
 地神大神 (綾歌 一四 〇三)
 (仲多度 一〇)
 千葉之介平常胤公 (木田 二四)
 千幡比賣神 (栲機千々姫命ノ條ニ入ル)
 道保神 (香川 〇三五)
 仲哀天皇 (足仲彦尊ノ條ニ入ル)

〔ツの部〕

積羽八重事代主神 (事代主神ノ條ニ入ル)
 衝立船戸神 (久那斗神ノ條ニ入ル)
 月讀命 天月夜見尊 (大川 〇七五)
 (香川 〇六) (綾歌 二六 〇四九)
 〇三七) (三豐 三三 〇五)
 〔テの部〕
 手名椎神 手摩乳神 (小豆 一四)
 (綾歌 三 三三)

〔トの部〕

天智天皇 (三豐 〇四〇)
 天神七代地神五代 天神地祇十二神
 (綾歌 二〇七 二五 四八 〇五九)
 東照大神 徳川家康公 (高松 一)
 (木田 五) (小豆 一四七)
 (仲多度 九 三三 三六)
 所主神 (綾歌 五二)
 三年神 (大年神 御年神 若年神ハ別項)
 (香川 三三 二八 三三)
 舍人親王 (三豐 二六七)
 友安刑部靈 (高松 一)
 友安治部靈 (高松 一)
 戸山祇命 (木田 〇五)
 豊受姫命 豊宇氣毘賣神 屋船豊受姫神 (高松 一)
 (丸龜 〇二五 二〇) (大川 一三)
 (一九) (木田 四三) (小豆 七)
 三 〇三 〇三 一四)
 (香川 〇八七 三三 三三)
 (綾歌 〇四三 〇五 〇四 〇三)
 〇四九 四四 四七 四四)

(仲多度 二〇) △三一 二三 三三
 (三豐 〇一五) 一五七 〇五七 一六九
 △六六 △九六 二二二 三三三 〇三七
 〇三〇 〇三三 〇三四 〇三七 〇四〇
 二四五 〇五二 〇六九 △三五五
 豐玉彦命(香川) 〇二三 △三四
 (綾歌 三五) 〇五 (仲多度 一六)
 豐玉姬命(大川) 四三 七二 一五
 一六〇 二二三 △三九 △三七五
 (木田 五) 〇五 一八四 二三四
 △七八 (小豆) △一 八 二〇
 〇二九 (香川) 九 九 三三
 〇三三 △一五 △八五 (二五九)
 (三豐 △一 五二 二二三 二四)
 豐姫命 淀姫命(大川) 三三
 (三豐 二六)
 豐磐間戸命 豊石窓之神 (小豆
 △四七) (綾歌 二九六 〇四九)
 (仲多度 〇八〇 〇三三)
 豐聰耳皇子 (仲多度 △八八)
 豐臣秀吉公(仲多度 △三三) (三豐 〇一〇)
 鳥船神(香川 二四八)

鳥之取樟船命 (仲多度 △五)

〔十の部〕

中筒男命 中筒之男命 赤土神
 (高松 △一 元 △三)
 (丸龜 二〇) (大川 〇一 二)
 七九 三五 △〇七 △三四
 (木田 四三) 一〇八 (二六八)
 (小豆) △九 △六 △三 二二
 △三六 △四〇 △四二 〇五〇 (一五)
 (香川 九) 一〇 一七 二四
 二五二 二五五 二六〇 (二六)
 (綾歌 一〇四 三五五 〇四九)
 (仲多度 〇四 三九 五 〇二〇
 一六) (三豐 △一 三 △七
 △三 △四七 五 〇四
 〇三七 〇四四)
 仲姫皇后 仲姫尊 (大川 一
 一六 二〇九) (小豆 一 元
 五 一三 一四) (綾歌 五五)
 (仲多度 五 八)
 中津島姫命 (小豆 △〇九)
 中津綿津見神 中津少童神 (香川

一六 二五三 △六一 △六一
 (綾歌 四七八)

中臣鳥賊津臣命 (仲多度 五)

長白羽神(三豐 〇一六)

長雷命(小豆 一四)

泣澤女神 哭澤女神 (綾歌 △二五
 一四)

鍋姫靈神(仲多度 △八)

直毘神(大川 一八)

鳴雷神(香川 四) (三豐 △五
 〇六一 〇六三)

〔二の部〕

西島八兵衛 (三豐 二九五)

瓊々杵尊 邇々藝命 天津彦火邇々岐
 命 (高松 二) (大川 一四)

(木田 三四) (小豆 △六)

(香川 七四) (綾歌 三六 三九〇)

(仲多度 一 〇六五) (三豐 〇一六
 三七 三三 △四〇 二六〇 二六九
 三〇〇 〇七一)

瓊々杵尊供奉三十一神 (仲多度 一)

丹生都姫命 (大川 △七五)

(木田 一)

新田義貞朝臣(三豐 一四三)
 新田義興朝臣(三豐 一四三)
 仁徳天皇(大雀命ノ條ニ入ル)

〔一の部〕

野椎神 野槌神 野津知神 (草野姫
 神ノ條ニ入ル)
 野見宿禰命 (高松 △)
 (綾歌 一七二)
 野老主神(綾歌 四四)
 乘次靈(大川 一七)

〔八の部〕

長谷川佐太郎命(仲多度 △九)
 八幡大神(ヤハタ大神ノ條ニ入ル)
 八將之王子 (綾歌 一七五)
 八神殿大神 (仲多度 〇九)
 初田助十郎命 (仲多度 △九)
 埴山彦神(香川 △七三) (三豐 〇六〇)
 埴山姫神(丸龜 〇四) (大川 二二六
 二五〇) (綾歌 〇三 三三 一五
 一〇三 四三 四三) (仲多度 〇五

△九 △一〇〇 一一 二二 〇三
 △三三) (三豐 〇二七 〇三〇 〇三三
 〇三四 〇四四 〇五二 〇九七 四〇一
 四〇二 四〇八)
 埴安彦神(香川 三二 二八 三三)
 埴安姫神 波邇夜須毘賣神 (丸龜
 △二〇) (大川 元 四 四
 △七五 〇〇〇 三三) (木田 △五
 △七四 〇五 三三〇) (小豆 〇三
 七 七五) (香川 △六 △六
 〇三三 〇二五 △五六 一六 三三
 二八 三三) (綾歌 三 六
 一〇八 一三二 一三五 一五〇 二四九
 △四〇 △七二 △七二 △六六 △九〇
 四三 四四) (仲多度 五 一〇八
 〇一六) (三豐 〇元 〇五 〇六
 △三九 〇六一 〇七二 〇七五 〇九
 〇三三 〇三七 △三五五)
 埴安神 波仁夜須神 (大川 二三
 三七 三五) 三五 三七)
 (仲多度 〇五 〇五 〇四〇 〇六
 〇七 一七) (一八九) (三豐 △三

△六 △一三 〇五五) (香川 三三 三六
 三三)

波邇二柱神 (香川 三三 三六
 三三)

波比支神 矢筈神 (大川 一七)

(香川 〇二五)

速秋津彦神 (仲多度 〇六)

速秋津比咩神 速開都比賣神 (大川
 九 △七 一〇五 △七五 △七五)

(木田 △一五) (綾歌 △四九)
 (仲多度 △三 〇三 〇九)

速佐須良比咩神 (大川 △九 △七五)
 (綾歌 二〇〇 △四九 四七八)
 (仲多度 〇七九) (三豐 〇五)

速玉男神(大川 一三 △一〇一 二〇四)
 (木田 〇五三 三九四 四四)
 (小豆 △三 一四 一四)
 (香川 二五 四 六九)

(仲多度 二 三 一五 △六
 △三 一〇四 一六 一三 〇一四)
 (三豐 △九四 三六)

被戸四柱神 (大川 △九)

(仲多度 〇七九)

原山祇神(木田 〇四九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

(仲多度 〇七九)

春彦靈神 (仲多度 九七)
半左衛門靈 (三豐 三三)

[七の部]

彦狹知神 (木田 五五) (香川 二)
△三三 (三豐 四四)
彦火々出見尊 火々出見尊 (丸龜 九)
△一五 (香川 二五九) (仲多度 二六)
△二一 (三豐 二六六) 二三 △四〇
二六一)
彦稻飯神 (三豐 二六〇)
彦五十狹芹彦命 (五十狹芹彦命ノ條 二八九)
聖 神 (小豆 一〇〇) (香川 二四〇)
備中守義武靈 (三豐 二九四) △二四
比天山彦神 (三豐 二〇四)
一言主命 (綾歌 六六) △三五
(仲多度 三三) 二二〇)
比賣神 毘女大神 (八幡神社、春日神社ノ祭神ヲ含ム) (大川 二七五)
二二一 三三三 (木田 三六二)
(小豆 三〇) (綾歌 五五) 五
五 六二 三六 一六 三五

二六一 四五 四九 四四
(仲多度 五一) 三三
一八〇 (三豐 二六) 一八
比賣多々良伊須氣余理比賣命 (仲多度 七九)

平田正重命 (三豐 三五九)

平田正純命 (三豐 三五九)

廣瀨大神 (香川 二一) 七)

廣國押建金日命 (安閑天皇) (仲多度 二六) 六)

[フの部]

兩道入姫命 (大川 六)
藤原鎌足朝臣 (高松 二)
藤原璋子命 (綾歌 二)
藤原淡海命 (仲多度 二七)
藤原景清朝臣 (三豐 一七三)
經津主神 布津奴肆神 齋主神 伊波比主命 (高松 二) (丸龜 一)
(大川 二) 天 二七 二七五
二八 二九 三三 三五
(木田 二〇五) 四九 三五九 四六
四四 (小豆 三〇) 一四

(香川 二六) (綾歌 二七) 五
三三 五 八二 二六 一六
三三 二八 二九 三九
(仲多度 二五) 三三 三九
三三 一〇〇 二〇 三三 九
△四〇 (三豐 二六) 四 二七
△二二 一八 一九 △三〇
布都御魂神 (大川 四) 二七)
船山神 (仲多度 五)
舟戸祇命 (香川 一四)
船戸神 船頭神 (久那斗神ノ條 入ル)

[ハの部]

平家四將 (三豐 二二三)

[ホの部]

方日靈 (三豐 三三)
北斗星 (木田 二九)
火須勢理命 (三豐 一〇)
火雷神 (仲多度 二四) (三豐 二九)
火産靈神 火結神 火魂神 齋火武主比神 (迦具土神ハ別項) (高松 二七)

一六 三 五 (大川 五)
八 二 一六 一五 二〇六
三五 三六 三六 三三 三三
三五七 (木田 一〇) 五 七
八二 九 一八 一九 一九
一五 一九 二〇 二〇 二五
二七 三五 二七 二八 三三
二〇 二二 二二 二二 二八
二六一 四〇 四七 四三 三
(小豆 二七) 一〇九 一四 一五
(香川 四〇) 二五 二七 三三
△五五 二六三 (綾歌 五五) 六七
(仲多度 二二) 二二 二九
(三豐 一四) 二二 一七 二七
△二四 二四 二四 二四 二
譽田別尊 品陀和氣命 保牟田別命
品田天皇 譽田天皇 應神天皇 大鞆別尊 (高松 一) 一五)
(丸龜 三) 二〇 (大川 一)
三 四 六 七 三
九 一〇 一五 一四 一五
一五 一八 一六 一五 一五
二七 二九 三三 二四 二五

二六 二七 三〇 三三 三四
三三 三二 二五 二二 二四
三五 二 二五 二八 一
一〇六 一五 一八 二八 二九
二五 二五 三〇 三〇 三三
四三 四八 (小豆 一) 二
二九 四 三 二九 二
一五 一四 一五 (香川 一)
二 一〇 三 二 二
一五 一六 一五 一四 二七
二〇 二〇 二四 二〇 二七
(綾歌 一) 九 二 三
三 天 元 四 五
△六 空 六 四 二
二五 一五 一五 一五 一五
一五 一七 一六 一六 一六
二六 二六 二四 二六 二六

三〇三 三五 三五二 三五八
△三九 三七一 三九三 四〇八
△四〇 四六 四五 四九
五〇 五九 (仲多度 四) 二
△三 四 五 五 六
△七 七 九 八 八
△八 九 一〇 一〇 一五
△四 一四 一四 一五 一七
一七 一八 一五 一九 一九
二二 二四 二六 (三豐 一)
二 三 四 四 五
八 九 九 一〇 一〇
△三〇 二四 二六 二七
△二九 二八 三〇 三三 三五
△三六 三七 三九 三九 三九
△三二 四二)
譽田天皇の桓數十柱 (香川 二六)
[マの部]
松尾神 (高松 二六)
松平頼重靈 (木田 五)
松田龜吉命外三十四柱 (木田 二五)

松崎佐敏命(澁右衛門) (仲多度)

▲九)

松木春彦靈 (三豐 ▲五九)

〔三の部〕

御井神(香川 四)

甕速日神(綾歌 四五六)

水分之神 水久麻理神 (天水分神)

國水分神(別項) (大川 九)

▲九) (木田 八)

(香川 二三) (綾歌 五九 七)

▲二五 一五 一七 一七 一七 一七

▲三六) (仲多度 ▲七 二二 二六

一七) (三豐 五 三六 四〇

三〇七 三〇八 三〇九 三一〇

水分二柱神 (香川 六)

御厨三郎將頼命 (三豐 ▲一五)

御食津神 御氣津能神 御膳都神 大

御饌津神(大川 五) (綾歌 四八

四〇 四一) (仲多度 五 八

▲六) (三豐 ▲〇〇)

御子神(大川 三四五)

御子等(天満神社祭神) (綾歌

御年神(木田 三〇四 三〇五 三〇六

(小豆 一三) (香川 九 五

五 五 五 五 五 五 五 五

一五二 一五三 一五四 一五五 一五六

一五七 一五八 一五九 一六〇 一六一

一六二 一六三 一六四 一六五 一六六

一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一

一七二 一七三 一七四 一七五 一七六

一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一

一八二 一八三 一八四 一八五 一八六

一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一

一九二 一九三 一九四 一九五 一九六

一九七 一九八 一九九 二〇〇 二〇一

二〇二 二〇三 二〇四 二〇五 二〇六

二〇七 二〇八 二〇九 二一〇 二一一

二一二 二一三 二一四 二一五 二一六

二一七 二一八 二一九 二二〇 二二一

二二二 二二三 二二四 二二五 二二六

二二七 二二八 二二九 二三〇 二三一

二三二 二三三 二三四 二三五 二三六

二三七 二三八 二三九 三四〇 三四一

三四二 三四三 三四四 三四五 三四六

三四七 三四八 三四九 三五〇 三五

三五二 三五三 三五四 三五五 三五六

三五七 三五八 三五九 三六〇 三六一

三六二 三六三 三六四 三六五 三六六

三六七 三六八 三六九 三七〇 三七一

三七二 三七三 三七四 三七五 三七六

三七七 三七八 三七九 三八〇 三八一

三八二 三八三 三八四 三八五 三八六

三八七 三八八 三八九 三九〇 三九一

三九二 三九三 三九四 三九五 三九六

三九七 三九八 三九九 四〇〇 四〇一

四〇二 四〇三 四〇四 四〇五 四〇六

四〇七 四〇八 四〇九 四一〇 四一一

四一二 四一三 四一四 四一五 四一六

四一七 四一八 四一九 四二〇 四二一

四二二 四二三 四二四 四二五 四二六

四二七 四二八 四二九 四三〇 四三一

四三二 四三三 四三四 四三五 四三六

四三七 四三八 四三九 四四〇 四四一

四四二 四四三 四四四 四四五 四四六

四四七 四四八 四四九 四五〇 四五

四五二 四五三 四五四 四五五 四五六

四五七 四五八 五五九 五六〇 五六

五六二 五六三 五六四 五六五 五六六

五六七 五六八 五六九 五七〇 五七一

五七二 五七三 五七四 五七五 五七六

五七七 五七八 五七九 五八〇 五八一

五八二 五八三 五八四 五八五 五八六

五八七 五八八 五八九 五九〇 五九一

五九二 五九三 五九四 五九五 五九六

五九七 五九八 五九九 六〇〇 六〇一

六〇二 六〇三 六〇四 六〇五 六〇六

六〇七 六〇八 六〇九 六一〇 六一一

六一二 六一三 六一四 六一五 六一六

六一七 六一八 六一九 六二〇 六二一

六二二 六二三 六二四 六二五 六二六

六二七 六二八 六二九 六三〇 六三一

六三二 六三三 六三四 六三五 六三六

六三七 六三八 六三九 六四〇 六四一

六四二 六四三 六四四 六四五 六四六

六四七 六四八 六四九 六五〇 六五一

森 兼(大川 一七)

〔ヤの部〕

夜藝速男神 (木田 二五〇)

八坂入姫命 (仲多度 六二)

八島篠神(三豐 四四)

八十柱津日神 (大綾津日神ノ條ニ

入ル)

八咫鳥神(綾歌 三五七)

八衢比古神 (丸龜 四)

(木田 三六) (小豆 四 九

▲二九 ▲一九 ▲四六 ▲五〇

(香川 六) (綾歌 一三 一

三六 四六 四六 四六 四六

(仲多度 三 五 ▲三 ▲三

▲四 ▲七 ▲一〇 ▲一六 ▲二〇

▲二六 ▲三〇 ▲三六 ▲三〇 ▲三

▲三六 ▲四〇 ▲四六 ▲四〇 ▲三

八衢比賣神 (丸龜 四)

(小豆 四 九 ▲四 ▲五〇)

(香川 六) (綾歌 一三 一

三六 四六 四六 四六 四六

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

祭神名索引

御子玉神(三豐 ▲〇五)

道臣命(大川 一六四)

道隆親王(仲多度 一〇三)

水波女神 彌都波能賣神 罔象女神

水速女神 水速賣神 水波能賣神 水

波賣神 (高松 三 二四 元

四) (丸龜 四) (大川 ▲〇一)

(木田 〇 一〇 一四 一七

二五 二七 四四 四七 四七

四四) (香川 ▲三 四 六

六 ▲九 ▲二 ▲六 ▲六

▲三 ▲三 ▲四 ▲四 ▲五 ▲五

▲一 ▲二 ▲三 ▲四 ▲五 ▲六

▲七 ▲八 ▲九 ▲一〇 ▲一一 ▲一二

▲一三 ▲一四 ▲一五 ▲一六 ▲一七

▲一八 ▲一九 ▲二〇 ▲二一 ▲二二

▲二三 ▲二四 ▲二五 ▲二六 ▲二七

▲二八 ▲二九 ▲三〇 ▲三一 ▲三二

▲三三 ▲三四 ▲三五 ▲三六 ▲三七

▲三八 ▲三九 ▲四〇 ▲四一 ▲四二

▲四三 ▲四四 ▲四五 ▲四六 ▲四七

▲四八 ▲四九 ▲五〇 ▲五一 ▲五二

▲五三 ▲五四 ▲五五 ▲五六 ▲五七

▲五八 ▲五九 ▲六〇 ▲六一 ▲六二

▲六三 ▲六四 ▲六五 ▲六六 ▲六七

▲六八 ▲六九 ▲七〇 ▲七一 ▲七二

▲七三 ▲七四 ▲七五 ▲七六 ▲七七

▲七八 ▲七九 ▲八〇 ▲八一 ▲八二

▲八三 ▲八四 ▲八五 ▲八六 ▲八七

▲八八 ▲八九 ▲九〇 ▲九一 ▲九二

▲九三 ▲九四 ▲九五 ▲九六 ▲九七

▲九八 ▲九九 ▲一〇〇 ▲一〇一 ▲一〇二

▲一〇三 ▲一〇四 ▲一〇五 ▲一〇六 ▲一〇七

▲一〇八 ▲一〇九 ▲一一〇 ▲一一一 ▲一一二

▲一一三 ▲一一四 ▲一一五 ▲一一六 ▲一一七

▲一一八 ▲一一九 ▲一二〇 ▲一二一 ▲一二二

▲一二三 ▲一二四 ▲一二五 ▲一二六 ▲一二七

▲一二八 ▲一二九 ▲一三〇 ▲一三一 ▲一三二

▲一三三 ▲一三四 ▲一三五 ▲一三六 ▲一三七

▲一三八 ▲一三九 ▲一四〇 ▲一四一 ▲一四二

▲一四三 ▲一四四 ▲一四五 ▲一四六 ▲一四七

▲一四八 ▲一四九 ▲一五〇 ▲一五一 ▲一五二

▲一五三 ▲一五四 ▲一五五 ▲一五六 ▲一五七

▲一五八 ▲一五九 ▲一六〇 ▲一六一 ▲一六二

▲一六三 ▲一六四 ▲一六五 ▲一六六 ▲一六七

▲一六八 ▲一六九 ▲一七〇 ▲一七一 ▲一七二

▲一七三 ▲一七四 ▲一七五 ▲一七六 ▲一七七

▲一七八 ▲一七九 ▲一八〇 ▲一八一 ▲一八二

▲一八三 ▲一八四 ▲一八五 ▲一八六 ▲一八七

▲一八八 ▲一八九 ▲一九〇 ▲一九一 ▲一九二

▲一九三 ▲一九四 ▲一九五 ▲一九六 ▲一九七

▲一九八 ▲一九九 ▲二〇〇 ▲二〇一 ▲二〇二

▲二〇三 ▲二〇四 ▲二〇五 ▲二〇六 ▲二〇七

▲二〇八 ▲二〇九 ▲二一〇 ▲二一一 ▲二一二

▲二一三 ▲二一四 ▲二一五 ▲二一六 ▲二一七

▲二一八 ▲二一九 ▲二二〇 ▲二二一 ▲二二二

▲二二三 ▲二二四 ▲二二五 ▲二二六 ▲二二七

▲二二八 ▲二二九 ▲二三〇 ▲二三一 ▲二三二

▲二三三 ▲二三四 ▲二三五 ▲二三六 ▲二三七

▲二三八 ▲二三九 ▲二四〇 ▲二四一 ▲二四二

▲二四三 ▲二四四 ▲二四五 ▲二四六 ▲二四七

▲二四八 ▲二四九 ▲二五〇 ▲二五一 ▲二五二

由加神(小豆) △四三
行方親王(綾歌) 三四

〔ヨの部〕

用明天皇(三豊) 一七四
萬幡姫命(栲幡千々姫命ノ條ニ入ル)
吉光神(木田) 四二
淀姫命(豊姫命ノ條ニ入ル)
泉津事解之男神(事解之男神ノ條ニ入ル)

〔リの部〕

龍王神 龍神 大龍神(丸龜) 四二
(木田) △六六 (綾歌) 四〇
(仲多度) 六〇 (三豊) 二四

〔ワの部〕

若年神(小豆) 三三 (香川) 五
英 六 一三 三二 三三
三三 三三 (綾歌) 五三
(仲多度) △三 △二〇
若宇賀能賣命 若宇迦咩命 (高松) △二 (木田) 三三 (小豆) 八
(香川) △二 哭 金 一七

(綾歌) 一六 翌 〇三七 元四
(三豊) △六一 〇七三 二五
若宮賣神(大川) 六 二六六
若宮神(大川) 二六六 (小豆) 一四
(綾歌) 〇二〇
若姫靈 稚日女命 (香川) 一
(綾歌) 〇四三
若皇子命(仲多度) △八〇
稚産靈神 若無須日神 和久産巢日神
(高松) △四 一〇 三三 三三
一四 〇六 一七 三〇 三三
三三 三三 哭 (木田) △六一
(香川) 三三 (綾歌) △八三 二二〇
〇五〇 (仲多度) 三〇 四 一五
△六七 〇七〇 (三豊) 〇一四
若御魂命(仲多度) 〇九
別雷神(加茂別雷神ノ條ニ入ル)
鷲住王(丸龜) 一〇 (綾歌) 三三八
綿津見命 少童神 海積神 和田津美神
(大綿津見神ノ條ニ入ル)
綿津見三柱神 (香川) △六一 △六一
渡會春彦命 (綾歌) 一七二
和田姫命 (三豊) 〇三〇

香川縣神社誌年表

凡例

- 一、本表ハ香川縣内神社ニ關係アル重ナル事項ヲ收録シタ。
- 一、神社ノ創建年代ハ傳承ニ從ウテ之ヲ收録シタ。
- 一、國造、國司ノ任免等ハ不明ナルモノ多ク、亦ソノ明ラカナルモノモ神社ニ關係ナキモノハ之ヲ略シタ。
- 一、天皇ノ諡號ノミヲ掲ゲタル項ハ其ノ天皇ノ御宇ノ意年號ノ下ニ一ヲセルハソノ年間ノ意デアアル。
- 一、神社ノ社格社號等ハ總テ現在ノ稱呼ニ從ウタ。コレ舊稱ニヨル時ハ當該神社ノ想起困難ナルガ爲メデアアル。但シ六國史等ニ見エルモノハ原文ニ從ウタ。

天皇	元號	紀元	事	項
孝靈	—	三七二	〇皇女倭迹々日百襲姫命當國ニ來リ給フ	
崇神	即位七	五〇	〇天社、國社、神地、神戶ヲ定ム	
同	一一	五五	〇四道將軍ヲ派遣ス、西海道吉備津彦命	

同	同	二二	七五	〇讚留靈王南海ノ惡魚ヲ征シ給フ
同	同	四〇	七〇	〇弟橘媛相模灘ニ於テ海ニ入ル
同	同	四三	七三	〇日本武尊薨ズ
同	同	五四	七四	〇木田郡川島町村社清水神社創建
仲哀	即位八	八五	八五	〇神櫛王薨ズ(綾歌郡縣社城山神社々傳)
同	同	九	八〇	〇神功皇后三韓御親征
同	同	一〇	八二	〇神功皇后小豆島ニ御寄島
應神	即位二二	九三	九五	〇天皇小豆島ニ御遊幸
仁德	—	九七	〇木田郡前田村郷社八幡神社創建	
繼體	即位二二	二六	〇仲多度郡那家村郷社神野神社創建	
推古	即位二二	二六	〇三豊郡詫間村郷社浪打八幡神社創建	
孝德	大化五	三〇	〇三豊郡柞田村社境八幡神社創建	
文武	白鳳一一	三三	〇穗積鸕鷹仲多度郡善通寺町縣社大麻神社祭神三十三柱ノ神像ヲ刻ス	
文武	即位三	三五	〇勅使石上麻呂大川郡譽水村縣社水主神社ニ疫病平癒ヲ祈ル	

文武	大寶	三	二六三	○三豐郡觀音寺町縣社琴彈神社創建	聖	武	天平	九	二九七	○綾歌郡林田村郷社總社神社創建
文武		一	(二六六) 二六七	○綾歌郡造田村社梶州神社創建 ○役小角綾歌郡美合村郷社大川神社ヲ創建	同	同	同	一四	一四二	○仲多度郡本島村郷社八幡神社創建
元明	和銅	元	二六八	○三豐郡豐濱町郷社八幡神社創建	同	同	同	一八	一四六	○綾歌郡長炭村社鳩峯八幡神社創建
同	同	二	二六九	○國幣中社田村神社創建	淳	仁	天平	八	一四四	○仲多度郡神野村社神野神社始メテ社殿ヲ建ツ
同	同	四	二七一	○綾歌郡瀧宮村社瀧宮神社創建	光	仁	寶龜	一〇	一四九	○綾歌郡宇多津町縣社宇夫階神社再建
同	同	六	二七三	○古事記成ル	桓	武	延曆	一六	一四七	○綾歌郡宇多津町縣社宇夫階神社再建
元正	養老	四	二八〇	○諸國郡郷ノ名ヲ二字ニ制シ務メテ佳字ヲ用キシム	平	城	大同	元	一四六	○綾歌郡宇多津町縣社宇夫階神社再建
聖武	神龜	元	二八四	○日本書紀成ル	同	同	大同	二	一四七	○綾歌郡宇多津町縣社宇夫階神社再建
同	天平	二	二九〇	○三豐郡莊内村郷社八幡神社創建	同	同	大同	二	一四七	○綾歌郡宇多津町縣社宇夫階神社再建
同	同	三	二九一	○綾歌郡造田村郷社天川神社創建	嵯	峨	弘仁	三	一四三	○古語拾遺成ル
同	同	四	二九二	○平群朝臣豐麻呂讚岐守トナル	同	同	同	四	一四三	○僧空海綾歌郡瀧宮村社瀧宮神社社殿ヲ修ス
同	同	四	二九三	○平群朝臣豐麻呂綾歌郡美合村郷社大川神社ニ雨ヲ祈ル	同	同	同	四	一四三	○阿刀大足綾歌郡加茂村大字加茂字井手東村社鴨神社創建
同	同	八	二九六	○綾歌郡加茂村大字加茂字井手西村社加茂神社創建	同	同	同	四	一四三	○阿刀大足綾歌郡加茂村大字加茂字井手東村社鴨神社創建
同	同	九	二九七	○綾歌郡川津村郷社八幡神社創建	同	同	同	四	一四三	○阿刀大足綾歌郡加茂村大字加茂字井手東村社鴨神社創建
同	同	九	二九七	○在諸國能起風雨爲國家有驗神未預幣帛者悉入供幣	同	同	同	四	一四三	○阿刀大足綾歌郡加茂村大字加茂字井手東村社鴨神社創建

之例(續日本紀)

同	同	六	二四五	○新撰姓氏錄成ル	同	同	仁壽	元	一五二	○天下諸神不論有位無位叙正六位上(文德實錄)
同	同	八	二四七	○僧空海綾歌郡美合村御門淵ニ雨ヲ祈リ、同村社勝浦神社ヲ創建	文	德	同	三	一五三	○香川郡安原村社天野神社創建
同	同	一	(二四二) 二四三	○仲多度郡神野村滿濃池修築	同	同	天安	二	一五六	○紀夏井讚岐守トナル
同	同	一	(二四二) 二四三	○仲多度郡善通寺町大字善通寺村社木熊野神社創建	同	同	天安	二	一五六	○仲多度郡高篠村社雲氣八幡宮創建
淳和	天長	元	一四四	○大川郡鴨部村社志多張神社創建	文	德	天安	一	(一五八) 一五九	○綾歌郡山内村社宇佐八幡神社創建
淳和	天長	二	一四五	○綾歌郡松山村社嚴島神社創建	清	和	貞觀	六	(一五八) 一五九	○紀夏井綾歌郡坂本村社日吉神社ヲ創建
同	同	六	一四九	○大川郡鴨部村郷社鴨部神社創建	同	同	貞觀	六	(一五八) 一五九	○紀夏井綾歌郡坂本村社日吉神社ヲ創建
仁明	承和	三	一四六	○讚岐國水主神奉授從五位下(續日本後紀)	清	和	貞觀	元	一五九	○讚岐國從五位下雲氣神列於官社(二代實錄)
同	同	八	一五二	○日本後紀成ル	同	同	貞觀	元	一五九	○讚岐國從五位下雲氣神列於官社(二代實錄)
同	同	九	一五三	○大川郡引田町郷社譽田神社創建	清	和	貞觀	元	一五九	○讚岐國從五位下雲氣神列於官社(二代實錄)
同	同	九	一五三	○讚岐國粟井神預シ名神(續日本後紀)	同	同	貞觀	元	一五九	○讚岐國從五位下雲氣神列於官社(二代實錄)
同	同	一五	一五八	○安陪朝臣忠雄讚岐介トナル	同	同	貞觀	元	一五九	○讚岐國從五位下雲氣神列於官社(二代實錄)
同	同	二	一五九	○菅原是善兼讚岐權介トナル	同	同	貞觀	元	一五九	○讚岐國從五位下雲氣神列於官社(二代實錄)
同	同	二	一五九	○奉授讚岐國田村神從五位下(續日本後紀)	同	同	貞觀	元	一五九	○讚岐國從五位下雲氣神列於官社(二代實錄)
同	同	二	一五九	○仲多度郡十郷村社葛城神社再	同	同	貞觀	元	一五九	○讚岐國從五位下雲氣神列於官社(二代實錄)

興

清和貞觀三二五三	○大川郡富田村郷社富田神社へ八幡神ヲ配祀ス	清和貞觀一七一五五	○授讚岐國從五位上賀茂天神・神谷天神正五位下(三代實錄)
同 同 六一五四	○授讚岐國正六位上天川神・梶州神・宇夫志奈神・賀富良津神・高屋神・粟井神從五位下(三代實錄)	同 貞觀一(一五九)	○木田郡井戸村郷社和爾賀波神社へ八幡神ヲ配祀ス
同 同 七一五五	○從五位上田村神授正五位下(同)	陽成元慶元一五七	○仲多度郡南村社高幢神社創建
同 同 八二五六	○讚岐國從五位下賀茂神・大水上神・大麻神・城山神・神谷神授從五位上(同)	同 貞觀一(一五九)	○授讚岐國正四位下田村神正四位上(三代實錄)
同 同 九二五七	○授讚岐國正六位上高家神從五位上(同)	同 同 三一五元	○授讚岐國正五位下大水神正五位上(同)
同 同 一一一五元	○授讚岐國正五位下田村神從四位下(同)	同 同 五二五二	○授讚岐國從五位下多和神從五位上(同)
同 同 一四一五三	○續日本後紀成ル	光孝仁和二二五八	○授讚岐國正六位上松井神從五位下(同)
同 同 一七一五五	○三豐郡本山村社高良神社創建		○授讚岐國從五位下天河神從五位上(三代實錄)
	○授讚岐國從四位下田村神從四位下(同)		○授讚岐國正六位上萬濃池神・船山神從五位下(同)
	○菅原道眞讃岐守トナル		

光孝仁和二二五八	○大川郡造田村郷社造田神社へ八幡神ヲ配祀ス	同 同 七一五七	○大川郡神前村社男山神社創建
字多同 四一五八	○菅原道眞綾歌郡府中村縣社城山神社ニ雨ヲ祈ル	同 同 一〇一五〇	○授讚岐國大麻天神從四位下(日本紀略)
光孝仁和一(一五九)	○菅原道眞祈雨ノ爲メ三豐郡觀音寺町縣社琴彈神社ニ參拜	同 同 一二一五二	○授讚岐國氏大神從五位下(同)
字多孝仁和(一五九)	○奉授讚岐國從五位下飯天神從五位上(日本紀略)	醍醐延喜二〇一五〇	○小野好古讚岐權守トナル
字多孝仁和(一五九)	○香川郡多肥村郷社櫻木神社創建	同 同 一五一五五	○木田郡林村社岩田神社創建
字多孝仁和(一五九)	○小豆郡肥土庄山城國石清水八幡宮ノ神領トナル	同 同 一五八	○高松市縣社石清尾八幡神社創建
同 同 三一五二	○三豐郡柞田村社須賀神社創建	同 同 一五六	○正六位上天津高結槻本地祇坐(符讚岐國今奉授從五位下(符宣抄)
醍醐延喜元一五一	○授讚岐國從五位下宇夫階神從五位上	同 同 一五七	○小豆郡五社八幡(池田町郷社龜山神社・淵崎村郷社八幡神社・苗羽村郷社八幡神社・福田村郷社八幡神社・四海村村社八幡神社)創建
同 同 三一五三	○三代實錄成ル	朱雀承平元一五一	○延喜式成ル
同 同 五一五	○菅原道眞太宰府ニ貶謫セラル	同 同 二一五二	○三豐郡比地大村郷社熊岡八幡神社創建
同 同 六一五六	○高松市村社華下天滿神社創建	同 同 二一五三	○南海ニ海賊蜂起ス
	○仲多度郡吉野村郷社大宮神社創建	同 同 五一五五	○大川郡譽水村縣社水主神社南海ノ凶賊平定ノ祈願ヲ修ス
	○授讚岐國氏太神・刈田神・連岳神・國榮神從五位下(日本紀略)	同 同 六一五六	○大川郡長尾町郷社宇佐神社・同

朱雀 承平 六 一五九	郡石田村郷社石田神社創建 ○(其ノ他大川・木田二郡ニ於テ極樂寺記ニ當年ノ創建トナセル神社多シ)	冷泉 天元 二 一六元	○仲多度郡象郷村村社石井神社創建
同 天慶 三 一六〇	○天下ノ諸神ニ位一階ヲ増ス ○承平五年依ニ海賊事一正五位下水主神(長寛勘文)	一條 正曆 元 一六〇	○木田郡木太村郷社八坂神社創建
同 同 四 一六一	○小野好古藤原純友討伐ノ途次、三豊郡莊内村三崎神社ニ戰勝ヲ祈ル	同 長保 三 一六一	○勅ヲ奉ジ藤原實秋、國幣中社金刀比羅宮社殿ヲ修ス
村上 天曆 二 一六八	○綾歌郡瀧宮村縣社天滿神社創建 ○木田郡三谷村郷社八幡神社創建 ○勅使橋直幹大川郡譽水村縣社水主神社ニ參向	後冷泉 永承 六 一七二	○源賴義ノ代參三豊郡觀音寺町縣社琴彈神社ニ願文ヲ納ム
同 同 五 一六二	○木田郡牟禮村村社八幡神社創建 ○仲多度郡十郷村村社加茂神社創建	白河 延久 四 一七三	○山城國石清水八幡宮寺ノ莊園ヲ定ム
同 天德 二 一六八	○三豊郡上高瀬村村社産巢日神社創建	同 同 五 一七三	○課ニ那珂郡山北村・同郡金倉郷・多度郡葛原郷・同郡三井村・堀江濱各地頭一創ニ建八幡宮(道隆寺温故記)
同 應和 二 一六三	○勅使大川郡譽水村縣社水主神社ニ雨ヲ祈ル	白河 延久 一 一七元	○綾歌郡法勤寺村村社八幡神社ニ八幡神ヲ配祀ス
同 康保 元 一六四	○綾歌郡川西村村社春日神社創建	同 承曆 四 一七〇	○神祇官謹奏……坐ニ讚岐國大魔神・櫛梨神・大水上神・田村神云々(朝野群載)
		堀河 寛治 四 一七五	○天下ノ諸神ニ位一階ヲ増ス ○三豊郡仁尾町郷社賀茂神社創建 ○三豊郡仁尾町葛島ニ山城國賀茂社ノ御厨ヲ置ケ

同 同 七 一七三	○院宣ヲ以テ三豊郡仁尾町郷社賀茂神社ニ神田三十町ヲ御進納	同 永萬 元 一八五	○國幣中社金刀比羅宮ニ崇徳天皇ヲ配祀ス
同 嘉保 二 一七五	○源義家三豊郡觀音寺町縣社琴彈神社社殿ヲ造營	高倉 承安 元 一八三	○源賴政三豊郡仁尾町郷社賀茂神社ニ戰勝ヲ祈ル
同 永長 元 一七五	○綾歌郡西分村村社曲木神社創建	同 治承 二 一八元	○香川郡弦打村郷社岩田神社創建
鳥羽 天仁 二 一七九	○三豊郡大見村村社正八幡神社創建	同 同 三 一八元	○小豆郡大鐸村村社離宮八幡神社創建
同 天永 元 一七〇	○藤原經隆讚岐守トナル	同 同 四 一八四	○天下ノ諸神ニ位一階ヲ増ス
同 保安 元 一七〇	○藤原家成讚岐國務トナル	安徳 壽永 二 一八四	○天皇當國ニ行幸
崇徳 永治 元 一八一	○天下ノ諸神ニ位一階ヲ増ス	後鳥羽 元曆 二 一八四	○天下ノ諸神ニ位一階ヲ増ス
近衛 天養 元 一八四	○香川郡安原村村社平尾神社創建		○源氏ノ將士綾歌郡西分村村社曲木神社ニ戰勝ヲ祈ル
後白河 保元 元 一八六	○崇徳上皇當國ニ御遷幸		○源平兩氏屋島ニ戰フ
同 同 二 一八七	○木田郡東植田村郷社藤尾八幡神社再營		○綾歌郡陶村村社北宮八幡神社創建
二條 長寛 元 一八三	○崇徳上皇國幣中社金刀比羅宮ニ御參籠	後鳥羽 文治 一 一八五	○木田郡田中村村社熊野神社創建
同 同 二 一八四	○崇徳上皇綾歌郡府中村鼓岡ニ崩御	同 建久 四 一八五	○綾歌郡山田村村社福ノ宮神社創建
	○綾歌郡坂出町縣社白峯宮、同郡松山村社青海神社創建	同 建仁 元 一八一	○源賴朝綾歌郡坂出町縣社白峯宮ニ稻稅ヲ宛行フ
	○綾歌郡松山村社高家神社ニ崇徳天皇ヲ配祀ス	同 建仁 一 一八一	○天下ノ諸神ニ位一階ヲ増ス ○香川郡下笠居村村社加茂神社創建

東山	寶永元	二二六四	○松平頼豐東讚ヲ領ス
同	同	六二二六九	○松平頼豐綾歌郡美合村郷社大川神社再營
中御門	享保二	二二七七	○松平頼豐諸社へ寄進狀ヲ出ス
同	同	八二二六三	○松平頼豐綾歌郡栗熊村社住吉神社へ社領二十一石三斗ヲ寄進ス
同	同	九二二六四	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	二〇二二九五	○松平頼桓東讚ヲ領ス
同	同	二〇二二九五	○京極高慶多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
櫻町	元文四	二二九九	○松平頼恭東讚ヲ領ス
同	寬保二	二二〇二	○松平頼恭諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	延享二	二二四五	○京極高矩三豐郡觀音寺町縣社琴彈神社再營
同	同	三二二〇六	○翁姫夜話成ル
同	同	四二二〇七	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	延享一	二二〇四	○生駒記成ル
同	寶曆二	二二四三	○讚州諸社由來成ル
同	同	三二二三	○國幣中社金刀比羅宮へ勅願所仰建
櫻町	元文四	二二九九	○松平頼恭東讚ヲ領ス
同	寬保二	二二〇二	○松平頼恭諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	延享二	二二四五	○京極高矩三豐郡觀音寺町縣社琴彈神社再營
同	同	三二二〇六	○翁姫夜話成ル
同	同	四二二〇七	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	延享一	二二〇四	○生駒記成ル
同	寶曆二	二二四三	○讚州諸社由來成ル
同	同	三二二三	○國幣中社金刀比羅宮へ勅願所仰建
櫻町	寶曆四	二二四四	○京極高矩仲多度郡筆岡村郷社雲氣神社再興
同	同	五二二四五	○綾北間尋抄成ル
同	同	六二二四六	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	七二二四七	○讚陽綱目成ル
同	同	八二二四八	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
後櫻町	同	九二二四九	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	寶曆一	二二四一	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	二二四二	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	三二二四三	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	四二二四四	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	五二二四五	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	六二二四六	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	七二二四七	○讚陽綱目成ル
同	同	八二二四八	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	九二二四九	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一〇二二五〇	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一一二二五一	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一二二二五二	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一三二二五三	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一四二二五四	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一五二二五五	○讚陽綱目成ル
同	同	一六二二五六	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一七二二五七	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一八二二五八	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一九二二五九	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	二〇二二六〇	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	二一二二六一	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	二二二二六二	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	二三二二六三	○讚陽綱目成ル
同	同	二四二二六四	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	二五二二六五	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	二六二二六六	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	二七二二六七	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	二八二二六八	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	二九二二六九	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	三〇二二七〇	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	三一二二七一	○讚陽綱目成ル
同	同	三二二二七二	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	三三二二七三	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	三四二二七四	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	三五二二七五	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	三六二二七六	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	三七二二七七	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	三八二二七八	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	三九二二七九	○讚陽綱目成ル
同	同	四〇二二八〇	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	四一二二八一	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	四二二二八二	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	四三二二八三	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	四四二二八四	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	四五二二八五	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	四六二二八六	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	四七二二八七	○讚陽綱目成ル
同	同	四八二二八八	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	四九二二八九	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	五〇二二九〇	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	五一二二九一	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	五二二二九二	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	五三二二九三	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	五四二二九四	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	五五二二九五	○讚陽綱目成ル
同	同	五六二二九六	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	五七二二九七	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	五八二二九八	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	五九二二九九	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	六〇三〇〇〇	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	六一三〇〇一	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	六二三〇〇二	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	六三三〇〇三	○讚陽綱目成ル
同	同	六四三〇〇四	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	六五三〇〇五	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	六六三〇〇六	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	六七三〇〇七	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	六八三〇〇八	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	六九三〇〇九	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	七〇三〇一〇	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	七一三〇一一	○讚陽綱目成ル
同	同	七二三〇一二	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	七三三〇一三	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	七四三〇一四	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	七五三〇一五	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	七六三〇一六	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	七七三〇一七	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	七八三〇一八	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	七九三〇一九	○讚陽綱目成ル
同	同	八〇三〇二〇	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	八一三〇二一	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	八二三〇二二	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	八三三〇二三	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	八四三〇二四	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	八五三〇二五	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	八六三〇二六	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	八七三〇二七	○讚陽綱目成ル
同	同	八八三〇二八	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	八九三〇二九	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	九〇三〇三〇	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	九一三〇三一	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	九二三〇三二	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	九三三〇三三	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	九四三〇三四	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	九五三〇三五	○讚陽綱目成ル
同	同	九六三〇三六	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	九七三〇三七	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	九八三〇三八	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	九九三〇三九	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一〇〇三〇四〇	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一〇一三〇四一	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一〇二三〇四二	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一〇三三〇四三	○讚陽綱目成ル
同	同	一〇四三〇四四	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一〇五三〇四五	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一〇六三〇四六	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一〇七三〇四七	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一〇八三〇四八	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一〇九三〇四九	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一一〇三〇五〇	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一一一三〇五一	○讚陽綱目成ル
同	同	一一二三〇五二	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一一三三〇五三	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一一四三〇五四	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一一五三〇五五	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一一六三〇五六	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一一七三〇五七	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一一八三〇五八	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一一九三〇五九	○讚陽綱目成ル
同	同	一二〇三〇六〇	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一二一三〇六一	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一二二三〇六二	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一二三三〇六三	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一二四三〇六四	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一二五三〇六五	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一二六三〇六六	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一二七三〇六七	○讚陽綱目成ル
同	同	一二八三〇六八	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一二九三〇六九	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一三〇三〇七〇	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一三一三〇七一	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一三二三〇七二	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一三三三〇七三	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一三四三〇七四	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一三五三〇七五	○讚陽綱目成ル
同	同	一三六三〇七六	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一三七三〇七七	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一三八三〇七八	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一三九三〇七九	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一四〇三〇八〇	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一四一三〇八一	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一四二三〇八二	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一四三三〇八三	○讚陽綱目成ル
同	同	一四四三〇八四	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一四五三〇八五	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一四六三〇八六	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一四七三〇八七	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一四八三〇八八	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一四九三〇八九	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一五〇三〇九〇	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一五一三〇九一	○讚陽綱目成ル
同	同	一五二三〇九二	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一五三三〇九三	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一五四三〇九四	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一五五三〇九五	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一五六三〇九六	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一五七三〇九七	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一五八三〇九八	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一五九三〇九九	○讚陽綱目成ル
同	同	一六〇三〇一〇	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一六一三〇一一	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一六二三〇一二	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一六三三〇一三	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一六四三〇一四	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一六五三〇一五	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一六六三〇一六	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一六七三〇一七	○讚陽綱目成ル
同	同	一六八三〇一八	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一六九三〇一九	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一七〇三〇二〇	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一七一三〇二一	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一七二三〇二二	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一七三三〇二三	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一七四三〇二四	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一七五三〇二五	○讚陽綱目成ル
同	同	一七六三〇二六	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一七七三〇二七	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一七八三〇二八	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一七九三〇二九	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一八〇三〇三〇	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一八一三〇三一	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一八二三〇三二	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一八三三〇三三	○讚陽綱目成ル
同	同	一八四三〇三四	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一八五三〇三五	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一八六三〇三六	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一八七三〇三七	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一八八三〇三八	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一八九三〇三九	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一九〇三〇四〇	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一九一三〇四一	○讚陽綱目成ル
同	同	一九二三〇四二	○國幣中社金刀比羅宮へ日本一社ノ繪旨ヲ出シ給フ
同	同	一九三三〇四三	○京極高矩西讚ヲ領ス
同	同	一九四三〇四四	○高松藩領内社寺ノ由緒ヲ調査セシム
同	同	一九五三〇四五	○松平頼起東讚ヲ領ス
同	同	一九六三〇四六	○松平頼起諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一九七三〇四七	○松平頼真諸社へ社領寄進狀ヲ出ス
同	同	一九八三〇四八	○京極高文多度、三野兩郡ノ部分ヲ領ス
同	同	一九九三〇四九	○讚陽綱目成ル
同	同	二〇〇三〇五〇</	

明治 明治一二 二五九	○神明細帳成ル	明治 明治四二 二五九	○香川縣史成ル
同 同 一五 二五四	○高松藩記成ル	大正 大正 七 二五六	○香川郡由佐村郷社冠纓神社縣社 ニ昇格
同 同 一六 二五三	○國幣中社金刀比羅宮へ短刀一口 勅納	同 同 一〇 二五八	○綾歌郡飯野村社飯神社縣社ニ 昇格
同 同 一八 二五五	○國幣小社金刀比羅宮國幣中社ニ 昇格	同 同 一五 二五六	○小豆郡誌及三豊郡史成ル
同 同 二七 二五四	○綾歌郡宇多津町郷社宇夫階神社 縣社ニ昇格	今 上 昭和 三 二五六	○讃岐通史、大川郡誌成ル
同 同 三二 二五九	○讚岐史要成ル	同 同 七 二五九	○三豊郡觀音寺町郷社琴彈神社縣 社ニ昇格
同 同 三六 二五三	○大川郡譽水村郷社水主神社、綾 歌郡府中村郷社城山神社縣社ニ 昇格	同 同 八 二五三	○仲多度郡善通寺町郷社大麻神社 三豊郡二宮村郷社大水上神社縣 社ニ昇格
同 同 三七 二五四	○綾歌郡松山村郷社神谷神社本殿 特別保護建造物トナル	同 同 一一 二五六	○高松市史成ル
同 同 三九 二五六	○神饌幣帛料供進ニ關スル勅令公 布	同 同 一一 二五六	○三豊郡高室村郷社高屋神社縣社 ニ昇格
同 同 四〇 二五七	○神饌幣帛料供進神社指定セラル (縣社九、郷社四六、村社九八)		

(終)

編纂後記

昭和十年六月香川縣神社誌編纂の命をうけて茲に三ヶ年、不完全乍ら漸く脱稿することを得た。本書は縣廳備付の神社明細帳を基本とし、各神社より提出せられた資料を加へて編纂したのであつたが、途中當初の豫定を變更せざる可からざるに至り、更に書き改めたがためさらでも拂りかねて居たものが更に遅延するの已むなきに立至つた。しかし内容に至つては當初の豫定ときまでの變更も無くして完了したのは至幸とするところである。

凡例と重複するきらひがないではないが、以下各項について聊か事情を述べてみたい。

社格、社號は總て明細帳によつてある。只明細帳に社格未定社といふのが一社あつたが無格社として登載した。綾歌郡法勤寺村讚留靈王神社がそれである。社號では明細帳に登載の際誤寫されたと思はれるもの(室と寶、光と夫、田と内、龍と龍、岩と宕等)數社を改めたに過ぎない。従つて無格社

の中に金刀比羅宮、毘沙門神社などの名が見える。明細帳にツフロ木神社なる片假名の社號が二社あつた。これは地名によつて假に津婦呂木の字を用ゐて置いた。

鎮座地の小地名は明細帳と資料と相違せるものが多い。これは恐らく土地臺帳による小字名と現在稱へられてゐる部落名との相違によるものと思はれる。發展途上にある市街地などには名稱の變遷も素よりあり得る事と思ふ。本書にその双方共載したのは分り易からしめんが爲である。因に明細帳は作製當時のまゝで訂正未了と思はれるものも相當にある。

祭神名も亦明細帳に従つて書載し、明かに誤寫されたものと思ふものゝ外は改めなかつた。明細帳の祭神名の書き方は地方により様々で、これは明細帳作製當事、各地方に大々指導的立場にあつた人等の考によつて書かれたものでないかと思はれる。明細帳と資料とに於て神名の書き方が相違してゐる同神である場合は明細帳に従ひ、疑問あるものは兩方に區別して之を載せた。神社に於ては夫々古來より書き來つた慣習があるであらうと思ふ。これが明細帳と一致するかどうかは疑問であるが、今は公簿たる明細帳に従つたのである。明細帳と資料と同神であるか異神であるか疑しいものに

大國御魂神、大國美玉神と大國魂神、大山祇神と大山積神等がある。大國御魂神は大年神の御子神で大國魂神とは明らかに別神であるが、果して大年神の御子神なる大國御魂神を祀つたものであるかは疑なきを得ない。小豆郡では大國魂神であると云つてゐる。大山祇神と大山積神とは同神として書かれたものと思ふが、愛媛縣なる國幣大社大山祇神社は一に三島大明神とも奉稱せられ、祭神は大山積神に坐し、本縣にも三島神社があつて愛媛縣より勸請した事を傳へてゐる。大山積神に就ては異説があるのでしばらく大山祇神とは別神として記載した。爲に明細帳と資料とに祇と積との相違ある分は二つながら之を載せ、祭神名索引も亦兩方共に記載して置いた。これ等の他にもこれと類似のものが相當多いのであるが、凡て以上の例に従つて登載したのは明細帳を重んじた故である。

祭神と由緒との間に關係の無い様に思はれる神社がある。之は明治維新の際祭神變更が有つたのではあるまいか。天御中主神を祀る神社は無いと官社考證の著者松岡調氏は述べてゐるが、古く妙見と稱せられてゐた神社の祭神は現今大方天御中主神を祀つてゐる。

たものがありはしないかとおされてゐる。又資料中には難解で意味の通じかねるもの、二様三様に解釋出来るものがあつた。これが爲め或は解釋を誤つたものもありはしないかと思ふ。是亦并せて御宥恕をお願ひ申上げて置く。

境内神社中には資料に報告せられたるもので明細帳に未登録の神社があつた。遺憾ながら之は載せてない。

建造物中鳥居、玉垣、燈籠等は之を省いた。

特殊神事は各人各様の解釋が下された様であるが、一社に限るものはその神社の項へ、一地方に共通に行はれるものは概説に於て述べた。報告のなかつたもの調査の及ばなかつたものも尙多いと思ふが、嚴正に特殊神事と目せられるものは少數である。

崇敬者数については各神社に於て廣狹二様の解釋が下された様である。それが爲め各社いろいろになり、中には氏子をも崇敬者数の中に含んでゐるものもあつた。今の處は概ね資料の報告に従つて置いたが、氏子を有する神社の崇敬者は之を省略した。尙崇敬者を戸數で報告せられたものは人員に改めて置いた。又氏子區域も事實上二重三重になつてゐる様である。

由緒は主として各神社提出の資料により、本縣の史籍で資料に漏れてゐるものを加へて書いた。本縣の史籍は本書に引用したものゝ外なほ多數あるのであるが、紙數に限がある部分に止めて置いた。拾録した史籍とても必ずしも全部信ずるといふ譯にはゆかないのであるが、參考の爲め出来るだけ拾録した。しかし頁數の都合上割愛したもの、其の他種々の都合で載せられなかつたものも多數ある。拾録したものゝうち如何と思はれるものもあるかもしれぬが、これは豫め御詫申上げて置く。

社記には社僧の手になつたものが多く、どうかと思はれる點もないではない。しかし本書は之等をも尙載せてあるが、これは後考を俟つ意味と考證を加へない主旨とに因るものである。

由緒の中には史實に一致しないものが往々ある様である。疑はしいものについては年表其の他を參照し、出来るだけ内容を損ぜぬ程度に訂正した所も相當あるのであるが、尙多數の矛盾を残したことゝ思ふ。讀者の御諒承をお願ひして置く。各神社より提出の資料並に引用史籍中頁數の都合の爲め多く省略した所があるが、編者菲才の爲め或はその取捨を誤つ

讀者及び參拜者の便宜の爲めに市郡別地圖八葉と、神社名一覽、祭神名索引、年表を附けた。地圖には主なる交通路と村社以上の神社などを載せ、地圖にある番號は本誌登載の神社番號であるから照合せられたい。年表は本縣神社の由緒、社傳等によつて作成したものである。

本書所載の神社數は二千四百七十三社であるが、これを事實に照しては尙二三の増減があるであらうが、明細帳を根底としたものと諒承せられたい。

本書は甚だ瑕瑾の多い書物であることは編者も亦認むる所であるが、將來讚岐の神社研究の一助ともならば幸甚である。

本書編纂については、縣神職會各位、縣社寺兵事課各位、地方在住神職各位、別て各郡市資料調査委員各位の絶大なる御援助を辱うした。茲に厚く御禮を申上げる次第である。

昭和十三年七月

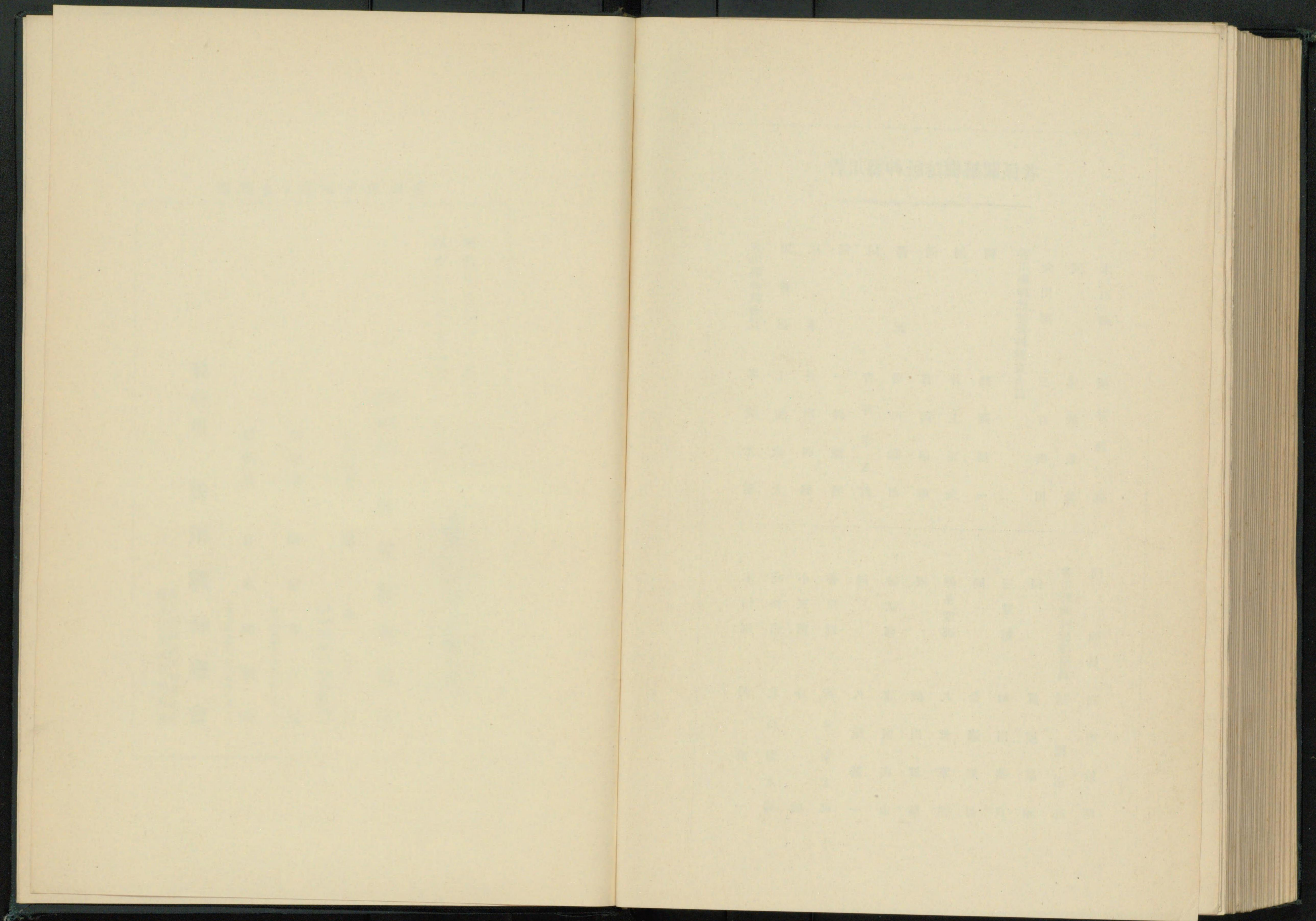
編纂員 關 徳市郎

同補員 高崎敏明

香川縣神社誌編纂關係者

木田郡	同	大川郡	香川縣神社誌資料調查委員	同	同	同	書記	同	同	理事	副會長	香川縣神職會長
横井藤三郎	猪熊兼幹	三好廣田		鶴岡房一	井上正夫	喜岡信雄	黒川彌市	青井常太郎	一村應香	谷川四郎	土屋徳太	琴陵光瀨

同	香川縣神社誌編纂員	同	三豐郡	同	仲多度郡	同	綾歌郡	同	香川郡	小豆郡	高松市	木田郡
高崎敏明	關徳市郎	眞屋嚴滿	和田義貞	金森熊男	久世章業	綾川眞勝	富家高由	久保基一	青井常太郎	森一義	北島勝太郎	岡繁一



昭和十三年十一月二十日印刷
昭和十三年十二月一日發行

定價上卷
下卷貳冊金參圓也

編纂者

香川縣神職會

右代表者

關德市郎

印刷者

田村市太郎

印刷所

日本印刷所

發行所 香川縣神職會

香川縣仲多度郡琴平町
金刀比羅宮社務所內

香川縣高松市南瓦町四一六ノ二

香川縣高松市南瓦町四一六ノ二

香川縣仲多度郡四條村
大字四條五六三番地ノ一

702
108

